

# 川柳塔

令和五年 三月一日発行（毎月一日発行）  
創刊大正十三年 通卷一一五〇号



日川協加盟

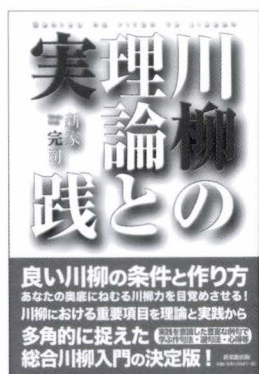
No.1150

三月号

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。お支払いは到着後で結構です。

# 川柳の理論と実践

新家完司・著



実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得  
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司

326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

## 「各地句会だより」募集

二月号から14年ぶりに「各地句会だより」を再開しています。

川柳塔社グループの川柳会は、ぜひご参加ください。原稿は川柳塔社事務所まで。

内容 | 会の特色・様子・行事・

今後の予定など自由

字数 | 19字×50行以内（本文のみ）

写真 | 会の様子や集合写真など1枚

締切 | 随時

なお、掲載月・文章の添削については編集部に一任願います。

# 大切な一冊

小島 蘭 幸

私には、川柳塔の指導、作句欲を高めるために常に身近に置いて参考になっている一冊の柳誌があります。それは昭和53年8月1日発行の川柳展望、14、夏の号です。

川柳展望は、昭和50年5月1日に創刊号が発行されています。時実新子46歳の時です。

創刊して3年を経過したこの夏の号の目次には、作品、特集、論文、鑑賞、発言、読み物の項目があります。

特集は、昭和53年3月26日に名古屋市中で開催された20題句会です。出席者は男性102名、女性53名、全国から著名作家が出席されています。課題、選者、入選句ともに素晴らしいのです。川柳塔から橘高薫風が選者として出席されています。

秀  
課題「紫」 橘高 薫風 選  
紫の山青年は老い易し 東野 大八

目を閉じると放射線状の虹が見える。虹は、よく見ると一本一本の糸。それが私に向かって発射され、私は小さな手いっぱいその糸を握りしめている。糸は一本として同じ色のものはない。そして、一本一本が常に私と一対一でつながっている。昭和50年3月発足以来、この感覚は私の中で不動である。：から始まる新子の巻頭言「天行は健なり」繰り返し繰り返し読んで元気をいただいています。憧れの作家の作品も多く掲載されています。

新子へんぺん

れんげ菜の花この世の旅もあと少し  
墓の下男の下に眠りたや

定金冬二作品

なにも捨てられなくて男は風に舞う  
指を一本風にかざして寂しいおとな

蒟蒻 中村富二

千人の爪の のびてゆく 静けさ  
易者がひとり砲丸投げをしていたな

どの頁を開いても、川柳愛、情熱が溢れている川柳展望夏の号、経年変化して表紙は破れ、はがれています。私にとって大切な一冊です。

座右の句

東京にいと日本が分らない

佐道 正

私の句

花束を駅に忘れる退職日

東 定生

## 川柳塔 三月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「ヴォーリス・旧水口図書館」

### ■巻頭言 大切な一冊

短い物語

小島 蘭 幸 ……(1)

水野 黒 兎 ……(2)

川柳塔(同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

蒔萩草の花③

野 沢 省 悟 ……(35)

誹風柳多留一二篇研究 31

吉村 脩 久 代 ……(38)

英語 de Senryu ⑤

橘高薫風句集『肉眼』

自選集

垂 井 葵 水 ……(43)

句集の森

温故知新

水煙抄

愛染帖

檸檬抄「かなり」

江島谷勝弘・永見心咲共選 ……(66)

## 短い物語

水野 黒 兎

同人川の川柳一句を最後の締めくくりに置く短い物語二編をお届けします。

(一)

さあ今日はいつもの老人ホームを訪問する日だ。幸いにも雨は上がった。晩秋としては穏やかな陽気。温かそうなセーターが手土産である。前に来たときは好物のリングを土産にした。のどに詰まるような食べ物避けねばならない。

子供たちは巣立つて遠くに赴任。母から引き継いだ子供向けの英語教室はますます順調である。

老人ホームへは毎週のように通っているので係の方たちには軽く挨拶して部屋に向かう。さあ着いた。

早速、ほらセーターよと手渡す。

「あらあら嬉しいわ、いつも優しくしてくれてありがとう。こんな優しい人を育てたあなたのお母さんに会ってみたいわ」とセーターを抱きしめるように持ちこにこしながら私に言う。

「何言ってるの、いつものことじゃないの、お母さん」

遅かれ早かれ認知症とか痴呆とか

理 恵

一路集（「耕す」）……………	梅澤盛夫選……………（70）
「パワフル」……………	柏原夕胡選……………（71）
初歩教室「スーパ―」……………	水野黒兎……………（72）
インスピレーション・ナビ 印象吟……………	大西泰世……………（74）
川柳塔鑑賞……………	内藤憲彦……………（76）
水煙抄鑑賞……………	福西茶子……………（78）
せんりゅう飛行船 <sup>⑩</sup> ……………	新家完司……………（79）
最近、郵便着くの遅くない？……………	藤田武人……………（80）
「初心者」の知らねばならぬこと」より……………	……………（81）
「川柳」句会で心生き生き……………	共同通信社 上野 敦……………（82）
二月本社句会……………	……………（85）
各地柳壇（佳句地十選／笹重耕三・雪本珠子）……………	……………（90）
柳界展望……………	……………（103）
三月各地句会案内……………	……………（104）
■編集後記（ひとこと／きとうこみつ）……………	道夫・眞澄・憲彦……………（106）

座右の句

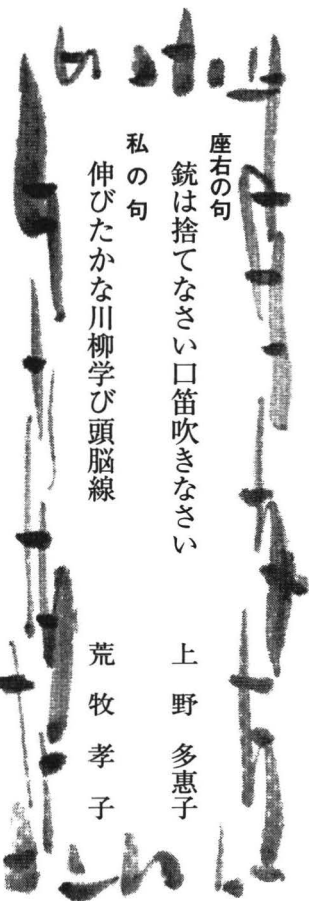
銃は捨てなさい口笛吹きなさい

上野 多恵子

私の句

伸びたかな川柳字び頭脳線

荒牧孝子



（二）  
うっとうしい梅雨がまだ終りそうもない  
ある日父がちよつと部屋に來いと言う。き  
つとまたあの話に違いないと予想はしたが  
観念して部屋に行つた。案の定難しい顔を  
して父が座つていた。

わしはお前のことが憎くて言つてゐるの  
ではないよ、一人娘のお前の幸せを願うか  
らこそ反対するのだ。あの男は定職につい  
てゐるのかね。なに、まだ大学院生で就職  
もしてないのか、どうやって生活するつも  
りなんだ。生活をするというのは簡単なこ  
とでない。若いもんはすぐ愛があればなん  
て言うが愛では物は買えないことはお前も  
分かつてゐるはずだ。

でも、と言うと、でももへちまもあるも  
んかとまた大声になる父であつた。

こんなやりとりがあつたのはかれこれ四  
年ほど前、私はかたくなに父の反対を押し  
切つて彼と一緒にゐた。式も挙げずに。  
彼の就職が決まるまで懸命に働きやがて男  
の子が生まれた。

そんな四月のある日、実家から荷物が届  
いた。手紙などは何も入つていなかったが、  
宛名の文字は明らかに明治生まれの無骨な  
父の筆文字であつた。

許すとは言わずに届くこいのぼり

富子



小 島 蘭 幸 選

和歌山市 柏原 夕 胡

行く末を心配しても始まらぬ  
目覚めない朝が来る日を望みます  
優子ちゃんとやさしく話す娘と暮らす  
動けるかぎり娘の役に立ちたくて  
子孝行たんと尽くしてから惚ける  
老いる娘よ自分が老いるより哀し  
取り敢えず笑う何とかなるだろう

大阪市 平井 美智子

ふる里の雪を伝えているラジオ  
よく染みたおでん絆のあたたかさ  
「しあわせ」と書いてすこうし涙ぐむ  
手の平の海をときどきよぎる船  
ビル街の死角に落ちてゆく夕日  
冬を越すためにひたすら水を飲む

土佐清水市 辻内 次根

波頭光る岬の早い春  
咀嚼する音をしみじみ聞く夕餉

冬の陽を十分吸った布団敷く  
一汁一菜麦のご飯を腹八分  
体調は何時もおながが空いている  
思案してみると確かな明日がある

尼崎市 山田 耕治

中学になっても肩叩き券くれる  
お隣でバイエルが鳴る午後三時  
本閉じて目薬さして今日終わる  
赤ちゃんが退屈そうな乳母車

お寺にもポインセチアが置いてある  
ハムスターが待っているので帰ります

箕面市 中山 春代

下手な字は生きてるしるし賀状書く  
晴れた日に検査結果を聞きに行く  
「小さな図書館」月木やってます  
Mサイズのころの写真は宝物  
笑点の懐かし版がお気に入り  
世話焼きがもらって帰る「ありがとう」

東大阪市 西村 哲夫

柳誌見るひとりぼっちじゃない孤独

完璧を止めていつものボクになる

欲のため信仰なんかしなさんな

謎めいた無神論者の願い事

二足歩行お陰で合掌出来てます

ありがとう妻のうたた寝愛おしく

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

絵馬の誤字誰か教えてあげなさい

今日も歩いて人生の道にする

調味料だけは自己流通したい

シュークリームほどで心が満ちてくる

リバーシブルのどちらも本当のわたし

マネキンが呼ぶブティックの早い春

広島市 岸本 清

老いて未だ秘めた夢あり初詣

政界を颯る風刺画的を射る

コロナ禍に平熱つづくありがたさ

冬空に色鮮やかな逆さ虹

新コロナ大波小波果てしなく

世の中が良くなるはずがない政治

米子市 竹村 紀の治

コロナ禍が済んだら橋を渡ります

白砂青松壊す大きな風ぐるま

堕ちてからJアラートのご報告

行くあても来る人も無く爪を切る

陽が沈むころから酒の支度する

おはようも御馳走さまも独り言

大阪市 谷口 義

大阪の雪は気持ちで降っただけ

おばあさんが待ったをかける民主主義

心境の変化は七度五分程度

取りあえず機嫌よく生きております

面白い時代を生きてきた ウフフ

何も彼もすんでしまった鶴を折る

寝屋川市 伊達 郁夫

パスポート家の便座が温かい

独りだといつも私を甘やかす

生命線今どの辺か冬木立

いいですよ酒の肴になってやる

夢追いをし過ぎ痺れている右手

妙案がないまま爪を切っている

堺市 楽原 道夫

鉛筆の芯も新年を迎え

元日に描く麗しい絵空事

元日の公園つんと澄まし顔

ガードレールの凹みが残念でならぬ

電柱が最もさびしそうに立つ

静けさが良い劇場の裏の店

倉吉市 牧野芳光

一円玉よう頑張ると褒めてやる  
人間は動かなければ生きられぬ  
散り散りになつてしまつた子猫たち  
遠い目の幼なじみの影がある  
つまづいてからは真下を見て歩く  
脛に傷負つて大人になつていく

鳥取市 吉田弘子

少し飛ばう年相応の幕が開く  
再読の寂聴長生きも楽し  
歩幅合わす人も居なくてマイペース  
簡単に乗れた自転車だが恐い  
バーゲンで売りたい土地を持つている  
冬眠の花にも水を絶やさない

枚方市 栃尾奏子

同じ日に生まれたお隣のアイツ  
クラス替えこまで来たら腐れ縁  
ふと気付く幼馴染は美しい  
初めての恋は最後の恋になり  
二軒長屋のプリンセスストーリー  
幸せはきつと半径一キロだ

神戸市 上田和宏

恙なし駅伝三日全部見た  
百均で間に合うほどのお正月  
しっかりと尻に敷かれてゐる安堵

深夜便話し上手で聞き上手

断捨離はまた持ち越しの長期戦  
縦列駐車出来る返さぬ免許証

犬山市 金子美千代

空つ風鍋しか浮かばない夕餉  
W杯タトゥーが目立つお国柄  
うれしくはない大雪のクリスマス  
これからの指針にしたい本に会う  
生きている限り出る出る煤払い  
穏やかな正月ウクライナを想う

黒石市 石澤はる子

ジョーカーは使い果たした残り時間  
積もる雪見知らぬ街にしてしまふ  
ドロップ缶残り一ケの存在感  
大さじで褒める苦言は小さじ一  
米よりもお世話になつてゐるバナナ  
雪掻きに老いの足腰試される

横浜市 川島良子

断捨離の宿題残し年の暮れ  
時代は変つた紅白も変つた  
デイサービス坊主めくりの初笑い  
餅入りの七草粥です亡母の味  
カレンダーめくれば後期高齢者  
大家族育ちでいつも作り過ぎ

上尾市 中村伸子

ご来光今年もテレビ画面にて

ドラマあり箱根の山にいる魔物

ラッキーカーラー嫌いな色は無視をする

雨戸繰る生きてますよは大袈裟か

何故だろう川柳聞くと寝落ちする

転院の付き添いに行く車椅子

香芝市 大内朝子

朝日吸うハートにひまわりが咲いた

忘れてた口紅をさす初鏡

世渡りへ老人力がものを言う

ふる里の夢を見たのよ泣いたのよ

着膨れて脹雀のおばあさん

日向ぼこ過去振り返る万華鏡

鳥取県 福西茶子

オンオフはスロー予定は今日も無い

電気水もつたいないネ独居風呂

当然を感謝と読めば腹立たぬ

お日さまと一緒に起きてまずお風呂

名前すら読めぬ紅白出場者

南部屋 洗濯物と日向ぼこ

岸和田市 岩佐ダン吉

すぐメモを出しはる人だ身構える

赤字路線東海ひとり笑って

損得を離れて筋を通したい

戦下の子光るあの目を忘れない

飾るたび私らしさに遠くなる

お返事はメールなどと洒落臭い

堺市 今井万紗子

米寿祝い笑顔の母も父も居た

プーチンも一緒人の子人の親

元気でいると伝えてほしいそれだけで

お年玉五円も添えて縁願う

鏡開き餅が三個も入ってた

穏やかすぎて今日も欠伸が止まらない

松江市 藤井寿代

コタツ抱き猫とテレビと熱燗と

瞬きをしただけで後期高齢者

バス・電車・新幹線で帰省の子

大掃除頑張りすぎて寝正月

お年玉集金に来た高二の孫

ちゃっかりと助手席狙う赤いバラ

和歌山市 松原寿子

趣味あつて教わることに感謝する

自然体で引き込まれそうお人柄

ひと思いに手紙だったら書けるのに

母うさぎ追いかけたのは初夢か

着地するまでの命か風花よ

結び昆布リボンのように盛りつける

東京都 川 本 真理子

守備範囲どんどん狭くなる冬日

昨日より歩幅を広く保つこと

二人だと少しさびしくなるケーキ

持ちはわずかでも気になる未来

鉢植えて終わらせないよミカンの木

八王子市 川 名 洋 子

神々しいものと違う初日の出

息子たち家族と今年も新年会

冬ごもり温いけれども人恋し

意地悪をしているような瓶の蓋

別の途送れたかもと想う人

横浜市 菊 地 政 勝

子が巢立ち針がゆっくり回り出す

五線譜をはずした声が良く通る

飲みたいと思った時に来た仲間

病む人を優しくつつむ千羽鶴

どこでどう貧乏神を掴んだか

朝霞市 前 田 洋 子

正月や猫を注射に連れて行く

正月の気分半減ブーチンよ

防衛費増やせば安堵できますか

恩人よ友よ貴女時間でいいんです

来たんだね後期高齢ドアの前

越谷市 久保田 千代

荷物まだ残し暦は薄くなる

ときざむ命を刻む寒の入り

胸の中しまった憶い鎮まらぬ

立ち上がる勇気をくれた向い風

夕茜もう逆転は無理だろう

名古屋 山 本 三樹夫

駅伝のタスキ届かぬまま走る

ご先祖を守って生きる一軒家

傘寿に来た危うい膝の立ち上がり

七草粥食べてピヨンとうさぎ歳

物価高年金上げる善政を

犬山市 関 本 かつ子

久々に子供の声と雪だるま

気がかりな越後の義兄の雪降ろし

意気込んで見る家康は我が地元

座布団を追加意外なお正月

新年会連絡網がひと回り

愛知県 早 川 遯 行

現状を維持することの難しさ

いざという時に足りない力瘤

思い切って勿体ないを処分する

老醜など曝したくはないマスク

節分の豆を誰に投げようか

可児市 板山 まみ子

食卓は寄せ集めです安い物  
値上りに暖房温度一度下げ  
地続きでなくてよかったでもロシア  
少子化の大きと独り者だらけ  
ゴールまで元気でいたい八十四

神戸市 奥澤 洋次郎

コロナ四年目世間はちよつと様変り  
暇なのに追われるように生きている  
同じこと聞いても違う妻の味  
作りとうないが思案のマイナンバー  
生きていたならはないのだ初日の出

神戸市 興水 弘

うろろろだつて生きてる証し八十路坂  
周り賑やかいつもむつとり目立つてる  
ぶつぶつ五分婆の祈りに足揃え  
妄想湧くいいシグナルと言いきかせ  
ビールポン目覚めもこんな感じいい

神戸市 近藤 勝正

お若いね言われ八十の背ピンとする  
軽々しい総理の言葉素通りす  
強い国望む人々急増中

通行人国旗表札見て通る

ありがたい平和な時に生まれ生き

神戸市 斉藤 隆浩

昔郵便今はスマホでおめでとう  
父卒寿母は米寿で俺還暦  
容赦なく合否が決まる一点差  
そこどいてルンバに言われ苦笑い  
息抜きに始めたゲーム今やプロ

神戸市 敏森 廣光

真つ白な雪が時には悪さする  
ウサギ年の妻だが跳べぬ水たまり  
ご近所から正月の音消えました  
年賀状友の添え書き揺れている  
三つの神に福競わせる初詣で

神戸市 富永 恭子

内と外夫婦で窓を拭く晦日  
三日ほどオカリナ吹いてみたけれど  
暖かい人のレジには列できる  
やめとこか言うて今年もまたおせち  
ため息をついてはすするミルクティー

神戸市 能勢 利子

百二歳の寝顔を見たら句が二、三  
寒い日はずーっとベッドで寝てる振り  
これからの介護ひとりで無理になる  
チューリップ咲くまで家で頑張ろね  
私の二十五年先を歩く母

神戸市 松倉正美

芦屋市 新阜義明

愛子さま凜となされた佇まい  
屠蘇気分抜け切れぬまま鉄初め

正月は朝酒飲むも咎め無し

元旦は始発に乗って初詣で

七草がすらすら言えて脳達者

神戸市 山口光久

欲に目が眩んではまる蟻地獄

家計簿が袋小路に入りました

幸せな人は静かにして欲しい

病院を三か所巡る老夫婦

諍いは起こしませんと低姿勢

明石市 梶谷和郎

顔色を読み合うジョーカーの居場所

無理をせず狙いを少し下げてみる

耳鳴りの合間に響く除夜の鐘

気まぐれな風だあおってばかりいる

コロナ禍の鈴緒を振れぬ初詣

芦屋市 荒牧孝子

いい予感彩雲見れた新年に

初夢で青春時代満喫す

ハグした孫背が伸びていた私より

まあ楽し紙とペンある老後です

嫌いです一つ年とるお正月

ポイントで見事つり上げマイナシバ  
40年妻と拝んだ初日の出

迫り来る健康寿命もがいてる

マスクでも寒さ対策成る一助

忙しい最中に浮かぶ何故秀句

尼崎市 近兼敦子

淋しいと酔いが回るの早いこと

おばちゃんはささいな事に動じない

そうなんやあテレビに私喋ってる

メロディーをやつと覚えてくれた指

言にくい事が夫に三つある

尼崎市 永田紀恵

カラスさえつつかぬウチのゴミ袋

料理人他人に教えぬ隠し味

本棚の飾りで終る広辞苑

ギブアップしないさせないウクライナ

千円札見せびらかしてお賽銭

尼崎市 藤井宏造

施設の母せめて我が家で三が日

懐の寒い同士でワンカップ

子や孫が帰るガラガラ冷蔵庫

好奇心はパンクするほど持っている

後期高齢横目でにらみ突き進む

尼崎市 藤田雪菜

三田市 足立つな子

久しぶり入浴の背にゆずかおり  
喧しいうがいをしたら治る風邪  
不都合な事は忘れた方が勝ち  
シクラメン窓際族で映えてます  
歌クラブ大声ひびく渦にいる

尼崎市 森 菊江

休耕田何とかせねば自給率

三田市 稲角優子

ぐっすりと眠りたいから八千歩  
風呂で歌えば外から拍手パチパチと  
受け入れ先なくて走れぬ救急車  
後期高齢契約ごとは子の同伴

加西市 山端なつみ

三田市 上田ひとみ

耳に目と歯医者行き入り暮忙し  
甘酒を主食とするか菌の欠けで  
痛み消え横になつたらすぐ寝息  
御節作りへスイッチが入る午前二時  
子は鋤焼孫は唐揚げ御節残

川西市 山口不動

三田市 大西重男

初詣三三五と村社  
じいさんが孫の縄跳び眺めてる  
マドンナの今年限りという賀状  
余生の日変らずこなすルーティーン  
参道に花はざんか赤と白

風雪のマスクに帽子おかいもの  
保育士のパワハラまさかダメヨダメ  
胃のもたれリングゴ一個で休ませる  
あれこれと逸る思いもすすまない  
ゆつたりと楽しいめないの高齢者  
日の丸は平和の空によく似合う  
朝鏡さらり本音が現れる  
ほどほどに汚れ人間らしくいる  
お別れはタワ一の灯消えるまで  
春の海眺めてこころ豊かなり  
何とかして探すあなたの長所  
特別なものを持つてはいけません  
かと言つて禅僧になるはずもなく  
たんたんとさらさら暮す意地がある  
残したいものなどなくて幸せで  
帽子にマスク普通の人か変装か  
子と孫ら毛嫌い煙草止められぬ  
お品書何の料理か魚へん  
胃袋を掴みはなさぬ亡妻の味  
ワクチン接種半袖シャツの痩せ我慢

三田市 尾崎 一子

三田市 中山 昭美

令和五年寿ぐ富士の峰高く

山も人もすこうしはなれて美しい

老いる母そこはかとなく皆やさし

いい知らせ静かに待っている祈り

精いっぱい生きてやさしい人になる

三田市 九村 義徳

ピンチには護ってくれた父の傘

祝い箸今年一膳増えました

過疎の村みんなで祝うランドセル

鈍行で駅弁巡り古稀の旅

古稀祝い十八切符買いました

三田市 住吉 美和子

カレンダー善き一年を印したい

第九を背筋伸ばして歌ったよ

好きなこと自然に動く身の軽さ

抜きたての大根泥の化粧して

寒いベンチで誰を待つのかおじいちゃん

三田市 多田 雅尚

春の七草言えても秋は浮かばない

福袋当てに日本に来るツアー

美味しいと褒めれば増える酒の燗

正月は一日で良い老夫婦

七草粥作れど誰も手を付けず

小判でもこれほどいらぬ落ち葉掃き

まあいいか寝坊スタートお正月

寒かろう終戦願ひ寄付をする

冬日さす方へ席替え受診待つ

何でだら会いたくないがまた出会う

三田市 野口 真桜子

突然の喪中ハガキに浮かぶ友

我慢強い母の涙で知る苦労

生かすのも殺すのも僕脚本家

抱きしめてくれれば治る不安感

年の功軽いジョークで切り抜ける

三田市 村田 博

少子化に数の子嘆くお正月

三が日過ぎれば出番スニーカー

何年振りぶらんこ漕いで若返る

一粒五〇〇円世界一のチョコ貰う

先読めぬギャンブルだから面白い

三田市 堀 正和

三年目コロナに負けず生きている

久し振り麻雀もしたお正月

待っていた句集も読める眼の手術

日に一度パソコン開き呆け防止

矢印の通りに行こう八十路です

高砂市 松尾柳石子

丹波篠山市 藤井美智子

感染を避ける高齢出歩けず  
戎さん人混み避けてテレビから  
通じない電話今度は話し中  
外出は最小限にして生きる  
献立がいつも嬉しいデイの昼

宝塚市 丸山孔一

故愛犬を想う天国での散歩  
城崎の宿で「城崎にて」を読む  
ミサイルが来ても日本にや術も無し  
風まかせ気まぐれ枯葉旅に出る  
真面目です防犯カメラ気にならない

丹波篠山市 北澤稠民

明日あると信じて予約してきたが  
ちくはぐな返事で笑う老人会  
幸せと思えば空気軽くなる  
一芸と悟り無心の歎を振る  
またひとつ歳を重ねて生く山河

丹波篠山市 酒井健二

絶叫で朝のあいさつ登校児  
シャンソンにコーヒー付いて三百円  
神仏かはたまた薬に生かされる  
善人が死ぬとしばらく気が減いる  
また年を妻にいとわれ誕生日

初日の出今年の運へまっすぐに  
いい笑顔ひ孫に新春癒される  
年賀状今年も書いて無事感謝  
手づくりのおせちに今年も亡母想う  
考えを少しゆるめて楽に生き

西宮市 緒方美津子

Uターン嬉しい過疎の鬼瓦  
年初めいいたいことがわんさあり  
名が出ないあたりさわりのない話  
年賀状がたと減って思うこと  
ちよっとした気づかうれし車椅子

西宮市 亀岡哲子

集い今日卒寿の春を祝われる  
タブレットに過去満載のプレゼント  
大家族のおかげ想い出たんとあり  
それぞれになんとかなって大家族  
パジャマ買う今もピンクの花柄で

西宮市 福島弘子

長老と言われ驚く年女  
兎跳び汗びつしよりの友も居た  
三年振り願いが叶う女子会へ  
願ったり叶ったりランチ誘われる  
べんちゃらを笑顔でかわし角立たぬ

南あわじ市 萩原 狸月

少子化加速赤紙の亡霊が

少子化に僕の介護の人有りや

八十半ば悪事の如く免許証

マスクした顔しか知らぬ孫の友

明るい句詠める今年を願う屠蘇

奈良市 東 定生

一年間巻かれたままのカレンダー

演歌にも街のゴミにもなる落葉

駅のホーム立ち食いソバが消えていく

増えていく一人住まいと墓じまい

動くほど道から逸れる遭難者

奈良市 大久保 眞澄

スイーツと呼ばれ焼き芋熱くなる

美魔女は無理だが魔女にはなりたくない

いい子やでとうわさの人は六十五

イケズにも磨きがかかる年の功

熱が出たら診てもらえるか医者に聞く

奈良市 加藤 江里子

愛読書を知って解った君のこと

人は皆女優であれという教え

小さき声も心に響くことがあり

大晦日息子と語る一年分

お嫁さんに段々似てくる孫娘

奈良市 高橋 敬子

初詣で子らに留守番頼まれる

映る賑わい留守番役であたってた

御下がりの棒だら私だけ賞味

この頃はマジシャンほどに物が消せ

核を消す魔法今かと待っている

奈良市 辻内 げんえい

孫去って今年も疲れどつと出る

来る帰る孫子なかなか揃わない

好き好きと告られはしゃぐ孫五歳

オレの孫もつとできると期待する

試し打ちでは全部まっすぐ飛ぶボール

奈良市 山本 昌代

大根干す風と太陽コラボさせ

物価高シミュレーションをする財布

あったかいそれぞれ違う思いやり

応援にやる気出てきた足や腰

思い出の多くは母の膝のうえ

奈良市 米田 恭昌

人波に押されて進む初詣で

餅をつく兎は月にもう居ない

英智結集してコロナと対峙する

レジ前で小銭ひろげて妻も老い

まだ「今年こそは」と虎キチこりもせず

生駒市 飛 永 ぶりこ

ブラボーが響いて皆のハイテンション

スヌーピーの財布があれれすぐ空に

3年ぶり踊り出る笑みイヤリング

絵手紙にふんわり浮かぶ温かさ

吉と出た神籤びょんぴょん出るパワ―

香芝市 山 下 じゅん子

書き初めに孫の名を書く祝箸

風上げの孫には負けぬ喜寿の技

母百寿ブラボー覚えさわがしい

老夫婦恋人つなぎの眩しさ

幸せのオーラあふれるイヤリング

奈良県 安 土 理 恵

聞き納め令和四年の鐘の音

買い出しへ息子出陣ありがとう

おとなしい顔でうさぎの立てる耳

嫁の手づくりおせちに文句つけられぬ

六〇年なじんだ味を乞う夫

奈良県 安 福 和 夫

国背負いたぎる思いで歓喜呼ぶ

若者の愛国心に安堵する

祖国愛過ぎれば排他にも走る

排他主義つねに諸悪の根源に

孤高なる真の政治家絶滅か

奈良県 谷 川 憲

シンプルな問いほど答え難しい

年賀状互いの元氣確かめる

原発の不安が消えぬ地震国

世界の武器地球滅ぼしなお余る

古里の豊かな海は宝物

奈良県 中 原 比呂志

太平洋岬へどんとぶちかまし

舟盛りに世界の刺身少しづつ

万物のいのち戴く手を合わせ

免許捨てマイナンバーに加入する

マスクした曇り眼鏡で蹴躓き

奈良県 中 堀 優

人生道負けては泣かん勝って泣く

撒き餌して意見を通す人集め

さあ行くぞこの世第二の始発駅

老いたとて出来ないものは何もない

平伏してコロナ終息薬師さま

奈良県 長谷川 崇 明

核もあり地球に止まぬ虎落笛

間際まで響く人生送りたい

新年の願いはひとつ穏やかに

許し出て人の波ですお正月

羽子板になつて翔平飛ばす羽根

奈良県 渡辺 富子

京都市 清水 英旺

打って出る覚悟の息子瞳が光る  
ふる里の話の弾むきりたんぽ  
何もかも捨てて親友ホーム入り  
思い出をかなぐり捨てて友ホーム  
水仙と春の話をしてなごむ

和歌山市 上田 紀子

京都市 藤井 文代

絵本から跳び出すかわい白兔  
潔い未練残さず椿散る  
うぐいすの声固い蕾が眼を覚ます  
二つ誉め一つ叱って伸びゆく芽  
水の流れと世の流れには逆らわず

和歌山市 藤原 ほか

長岡京市 山田 葉子

年金日こんなに待ったことがない  
リハビリは自分のためだと言いきかす  
こんなにも風を感じて歩く道  
そめられてみたくて白く咲く  
人はみなどう生きるかをかんがえる

橋本市 石田 隆彦

大阪市 東 敏郎

この冬は重ね着をしてダンゴ虫  
暖を取る術はこたつと老夫婦  
里の頃思い出させる雪景色  
雪景色めじろに柿を差し入れし  
柿一つ巡って野鳥争いを

老眼鏡さらにルーペで活字追う  
病院へ行く日忘れることはない  
戦闘が染みる背広を始末する  
寝静まる刻さあ一句ものにせん  
戦時下にXマスツリーとはゆとり

しなかった事した事よりも呵責です  
スマートに攻めてくるから勘違い  
宵寝してやる気本気を目覚めさす  
衣食住足るが足腰泣く疲弊  
病んでから探し始めた悔いの日々

子や孫のふるさと私の居るところ  
しみシワも愛嬌となるお年頃  
コロナ後はどんな私に会えるかな  
エネルギー不足気力で補えぬ  
毎日が母の日ごめんねありがとう

妻と声合わせて今朝も起き上がる  
計画は妻に付度して決める  
メイドインジャパン信じる浅蜷汁  
天からの声降ってくる「まだ早い」  
誕生日祝って貰いピンコロリ

大阪市 石田 孝純

行く道を変える今年の初詣

大阪市 岩崎 玲子

緩緩の老いの体操ルーティーン

初期化して夢は新たにフルコース

階段は手摺りしつかり手に力

透き通る緋色の風を身に纏う

便利グッズ使いすぎてか思考ゼロ

雪雲と一期一会のウオーキング

やめてんか何回物価上げますか

手には地図胸には恋のいろはには

愛してる地球をもっと考えよ

大阪市 磯島 福貴子

大阪市 内田 志津子

十八歳二年お預け祝盃は

つるし柿たくさん出来たお裾分け

コロナにめげず新年句会輝きて

初生りを添えて新年祝う朝

孫結婚寡婦の娘にお疲れさん

年賀状今年は五枚減りました

病床の友見舞えず快癒祈るのみ

一心寺亡母の教えを守り抜く

産んでくれた母に感謝のバースデー

寒い冬暮し見直す物価高

大阪市 井丸 昌紀

大阪市 宇都 満知子

やさしい人だったハンドル握るまで

助っ人に亡母の指輪を連れていく

味も値も期待通りの地味な店

淋しさとベストマッチのビターチョコ

空財布拾った場所へ捨てに行く

大丈夫小銭がたととポケットに

美辞麗句並べて断りのメール

元気な婆ちゃんエンジンには川柳

動じない振りをしてても鼻の汗

晴れた正月家族で草野球

大阪市 岩崎 公誠

大阪市 江島谷 勝弘

小豆島オリブの花いい香り

コロナ禍で使った切手二千枚

停戦の兆しないまま春の風

原発を動かせなどと言う族

リハビリを八年続けデイに慣れ

ともかくも隣国とは仲よくしよう

さい果ての北の国からでかい鮭

敬老のバス更新でもう五年

国境はコンパス引いて決めましよう

大阪市 榎本舞夢

大阪市 小野雅美

仕事始め右脳左脳を全開す

御褒美か玉三郎の招待券

正月気分友と満喫松竹座

健康を七草粥に心込め

初句会元氣賑やか集います

大阪市 大川桃花

大阪市 笠嶋恵美

我が家では主人の上に猫が居る

ローソンの小分け御節でお正月

足腰を鍛えるスーパーステップ

プーチンの生きてるうちは眠れない

美容院の予約コロナに邪魔される

大阪市 大沢のり子

大阪市 川端一步

大吉が出た失せ物はまだ先か

阿鼻叫喚機械オンスの女です

ガタガタの歯ですマスクは外せない

冗談は好きですきつねうどん食う

鳥の声きいたさみしくなりました

大阪市 奥村五月

大阪市 古今堂蕉子

高齢化言うが友達皆あの世

父叱咤間をおき母の助け船

神様もコロナと値上げ止められぬ

年玉も値上げしてねと孫は言う

越せないと言った正月早や四日

聞かれたら幸せとでも言っておく

心配性の月が見守る初デート

沈黙が続く平気になつてきた

伐採の樹木無念と匂い立つ

自分へのダメ出し続き眠れない

淀川の水のささやき「おめでとう」

生かされているなと思う波が来る

ただだいてよばれることのありがたさ

西大寺の手ぬぐいもらしい元氣出る

無理をせずゆっくり生きて楽しまん

新しい希望と出会う春が好き

いい話持つて初春墓参り

絵もいいが魁夷の文をしみじみと

人間も遊びがないとすぐ折れる

老春という花もあり水をやる

米寿とて通過点になるこの世

バトンタッチ嫁の作った節料理

二時間も並んで食べる趣味はない

物価高に牛より豚の旨さ知る

おばあちゃん小さくなつたねと言われ

初春に十七人の家族会

大阪市 近藤 正

言うこととやることちぐはぐな総理  
フクシマの復興人の姿なし

十八歳未来をつくる開拓者

マイナカード保険証まで召し上げる

大阪市 坂 裕之

まだ遺れるもう少しだが楽しもう  
温かい町に居るからのんびりと

会うたびに大人になっている孫だ

誰とでも真面目に話す人が好き

出来ること遣っていきけるの有難い

大阪市 高杉 力

「ド」「ミ」と来た後は「ソ」でなきやダメですか

プランコに乗った何年ぶりだろう

黙ってるうちに流線型になる

何をしゃべろう自己紹介は右回り

借景になって見守ることにする

大阪市 高杉 千歩

新しい靴下嬉しお正月

お正月なのに戦争終わらない

起きてるか介護士覗きさつと消え

コンニチハアメチャンコウカンシマセンカ

優しさに慣れて文句が増えてくる

小豆粥食べて健康祈ります

大阪市 田中 廣子

歩くことノルマ達成大変だ

雨止んで歩きに行こう元氣出し

腰痛をかかえて歩く情けなさ

背かがみガラスにうつる老いの影

大阪市 田中 ゆみ子

初明かりも少し此処で生きてゆく

牛井を大盛輝く十八歳

戦争の画面を消して祝成人

まず舐めて赤子は社会味見する

まっとうなこと真っ当に主張する

大阪市 津村 志華子

朝餉には梅干ひとつ今日の活

遠く来て心も癒えるいろり端

三世代ワイワイワイとバーベキュー

焼芋がほっこり風の子寄つといで

冬ざれにぶり大根がおいしいね

大阪市 寺井 弘子

少しづつ忘れることは寂しいな

モノクロのあの日に戻れない記憶

年毎に亡母に近づく背恰好

春近く友の回復兆しみえ

里の味伝える母の荷が届く

大阪市 寺本 実

赤紙が来ぬだけ今をよしとする

断捨離と言いつつ家具は増えている

公園で鳩も雀も俺を待つ

外人の声がふたたび嵐山

俳優が大統領に脱皮する

大阪市 中井 萌

いただいたおまけの時間丁寧に

日本海凶器の様な雪が降る

朝昼晩食べる事なら忘れない

視野が欠け耳鳴りしても負けへんで

天には根気で負けて口で勝つ

大阪市 原田 すみ子

家計簿も句帳も筆が進まない

コロナ慣れ出掛ける足も迷わない

茜の空今日の失敗ドンマイと

氏神様家族それぞれ違う運

孫三人パワー全開家踊る

大阪市 平賀 国和

新春に大阪城へ散歩する

梅林に花がちらほら春近し

異国語も飛び交い出した大阪城

天守閣へ歩いて上るまだ元氣

大阪城彬の句碑に挨拶す

大阪市 降幡 弘美

回数券買った直後に閉店す

一月だけきちんと書いてある手帳

くつ脱ぐとびっくりされる背の高さ

気づいたら声に出してたパスワード

体力がないと入れぬサウナ風呂

大阪市 宮崎 シマ子

今日寒い地蔵に着せるチャンチャンコ

内緒内緒ヘルパーの長が菓子くれた

窓あけても道行く人は皆知らぬ

できることならココで笑って暮したい

ドジをして娘に叱られて帰れば涙ポロポロ

大阪市 山本 加お里

ほどほどに傘寿の耳で聞こえてる

星空にあなたのそばを予約する

今にして無駄でなかったまわり道

寝たきりにならないように七千歩

老いの坂方向音痴ここはどこ

大阪市 横山里 子

老骨をすつくと晒し冬木立

陽を吸った布団に蜂も仮眠中

二足歩行まだまだできる姉卒寿

カニ鍋に久方ぶりの笑い声

衣裳替え通天閣も忙しい

堺市 柿花和夫

乳母車高価な犬が鎮座する

日中の対話バンダも待っている

化粧品買う時妻は値切らない

贅沢な健康食だ麦御飯

ライバルのお世辞肴に苦い酒

堺市 源田 八千代

入れ替り親類が来る三ヶ日

戦争とコロナ終結初詣で

夫々の添え書き嬉し年賀状

四月には曾孫二人になる知らせ

願わくはこの枳掛けをお手判に

堺市 齋藤 さくら

正月に見たい番組見当たらず

どっこいしょ元氣な振りをしてるだけ

かあちゃんの手抜きに慣れて共白髪

うしろから押されてやっと氣が付いた

うっかりもちやっかりもして共白髪

堺市 澤井 敏治

サンタまでマスクしていたクリスマス

十字架を背負って歩む人の道

コロナより人懐かしい初句会

幸せだなあ神のごほうび第六感

フェイスマークまだ爺ちゃんに通じない

堺市 内藤 憲彦

友でありライバルである宝物

人生はとんとんで良いペース

日本の平和を祈る初詣

奥様に逆らっている暇はない

今年こそ開幕ダッシュタイガース

池田市 太田 省三

久し振り非婚の子らと囲む鍋

妻は留守たい焼き二つ食べられる

おでん屋に練馬と太くお品書き

菜園は先ず農具から買い揃え

クラス会これが最後に安堵する

河内長野市 石田 ひろ子

初詣で願うそれぞれ三世帯

百均の探検ちよつとわくわくと

笑い合う家族を糧にして生きる

朝刊の最後運勢欄を見る

コロナ禍の恐怖に馴れてくる怖さ

河内長野市 大島 ともこ

巡り巡るまず梅を愛で桜待つ

飛び越えてみたならなあって事無くて

返信メール待ちくたびれた有頂天

手心を加えた自分許せない

はてあれは夢か宙ぶらりんのまま

河内長野市 梶原弘光

いつまでも相合傘でいたいもの  
果物野菜皮は捨てずに食べるべし  
カラオケでハッスルした夜よく眠れ  
ロスタイム無いから面白い野球  
この齢になって気付いた裏鬼門

河内長野市 木見谷孝代

三年経ち違う景色が見えてきた  
プレミアになった亡夫のウイスキー  
大晦日子と酌み交わす酒旨し  
初詣記念写真の背が縮む  
年始め錆つく脳を揺り起こす

河内長野市 中島一彌

何だかだあったが丸くおさまった  
指先が勝手に動く今年の字  
百歳の母にちゃん付けされる喜寿  
賑わいの時が止まっている空き家  
それぞれの家のルールにある羨

河内長野市 藤塚克三

麻酔醒め生きる尊さしみじみと  
悔しさを夜の深さが抱きしめる  
遺言状書いたら派手に遊びたい  
のんびりと夢を追うのもいいもんだ  
口煩い妻が無口になる鏡

河内長野市 村上直樹

人生の機微味わいつ春を待つ  
初雪にふれて命の温かさ  
紆余曲折輝きを増すダイや婚  
いざ米寿越えて卒寿へまっしぐら  
気をつける君もとつくに粗大ゴミ

堺市 坂上淳司

グラジオラスの水栽培に初挑戦  
球根にも慌て者とのんびり屋  
賀状終いの賀状次々老い淋し  
泣き虫もお客で乗せた縄電車  
丸くなったワイフの背に侘びている

河内長野市 森田旅人

寿げる新年の来るありがたさ  
振袖を着る子にパパは少し引き  
富士を見るただそれだけの一人旅  
初春の富士その懷で蘇生する  
母の歳越えて未知への第一歩

岸和田市 雪本珠子

川柳で人生の師にめぐり会う  
川柳は人生の良きパートナー  
川柳で心の財産増やしてる  
思い出がこころの隙間埋めている  
豊かさの中で寂しさ抱えてる

一直線に歩く男に影が無い

吹田市 太田 昭

いつまでも括弧の中に居て孤独  
自惚れて心の錆びに気が付かず  
延命の電池必要ありません  
返り血を浴びて戻ったブーメラン

ワクチン5回コロナの壁に対峙する  
加齢ですと言われてホッとする齡  
仕える身の器だったと今気づく  
一つのは二つに分ける夫婦愛  
駈かつぎ今日も出出しは左足

高槻市 島田 千鶴子

福袋買いたい気持失せて老い  
夫婦喧嘩もう過去形になりました  
力仕事アンドロイドに任せたい  
春の種蒔いてあなたの帰り待つ  
昭和演歌遠い記憶を呼び起こす

高槻市 初代 正彦

坪庭もそつと芽吹きのことかしこ  
吹っ切れて互いに熱い語り口  
まっすぐな孫のことばにほつとする  
爺ちゃんにも決断せまる削除キー  
荒れる日も笑みを忘れずマイウェイ

長き冬楽しみ見つけ読書です

高槻市 富田 保子

リハビリで戦う命ある限り  
今年こそ嘘をかかない日記帳  
いい人と言われお掃除しています  
オシャレ着にかなり勇気のいる歳に

ご愛敬大吉と凶同じ日に

高槻市 松岡 篤

バトンタッチすると息子はぐんと伸び  
楽隠居時間に金が見合ったら  
かけ放題妻には便利だろうけど  
節酒する小正月まで続いてる

豊中市 池田 純子

やがて来る春を兎と待っている  
夜の病室いびき怪獣やって来る  
退院が決まり歩幅が広くなる  
お茶断ちを忘れうっかりティータイム  
皆が居てお雑煮食べてお正月

豊中市 上出 修

うさぎつくお餅を食べに月旅行  
祭りの夜ついに見つけた赤い糸  
買った株波に乗ったかい予感  
超音波腹の色まで写し出す  
また出たゾ老人本で老い学ぶ

豊中市 きとう こみつ

豊中市 水野 黒 兎

世界を混沌に追いやったのはブーチンだ

情け深い亡父だったと母が言う

愛情を浴びてまっかになるトマト

日本人の喪中ハガキの風物詩

衣替えの時期さえずらず温暖化

豊中市 藤 井 則 彦

後悔は変身をするいいチャンス

スマホ持たぬ暮らしの何と好き勝手

思い切り笑って楽になる余生

ストレスが溜まったままの休肝日

明日よりも生きてる今日がベストの日

豊中市 松 尾 美智代

エクササイズの効果きつちり汗の量

夜に支度をして朝を待つおみそ汁

先を行く友の足跡風が消す

いつものおせち今年も出来て祝酒

今年も庭に苔ふくらむ福寿草

豊中市 松 田 蟻日路

さつま芋焚き火で焼いた良き昭和

落ち葉焚き警察が飛んで来る令和

近隣に気を使いつつ鳴らす鐘

昨夜来のパジャマで旨し昼間酒

何につけ大変と言える平穩

日本の薬を背負う道修町

青信号に早く歩けと叱咤され

ふる里に忘れたままの志

あれこれのぼくの宝は妻の邪魔

岬から夕日見るため一人旅

富田林市 中 村 恵

幸せが嘘でなかったあの笑顔

明け放つ窓には今日の風の彩

分別が邪魔するボクの恋未満

傷だらけの翼自由になれたのに

五十年元は他人と割り切れず

富田林市 山 野 寿 之

菜園の手塩が光っているサラダ

支援旅財布の紐を締め忘れ

逆上がりトライ重ねる兎のフアイト

物価高特価ばかりを狙い撃ち

渋皮煮手間暇かけた妻の味

寝屋川市 川 本 信 子

衝動買い誘うマネキンのスカーフ

家具移動壁にレプリカシャガール画

床暖で朝晩腰のストレッツ

三食にパンチ効かせる柚子一個

まだ眠る桜並木で句を作る

寝屋川市 富山 ルイ子

おどろかされる五年になった令和はや

ねやがわ句会最長老になったかも

寒の入りこれから寒い寒い冬

ウクライナ暖房設備こわされる

お年玉にカシミヤ二枚ありがとう

寝屋川市 平松 かすみ

ひな祭り捨てて写真でなつかしみ

お道具のタンス一棹だけ残し

何を買うかな孫からのお年玉

ハルカイロ送りたいなあウクライナ

私の余生自分で決められず

寝屋川市 廣田 和 織

職退いて愛想笑いが上手くなる

ミステリーツアーのような老いの道

胡散臭い話じつくりと煮込む

ボケットに劇薬として嘘ひとつ

靴箱の上に肩書き置いてある

羽曳野市 磯本 洋一

卯年なり良い話だけ耳ジャンボ

初デート雨降りなのに傘持たず

出合う人皆んな笑顔の傘寿今

妻に似た優しき娘四人居て

朝日見て平和日本涙する

賀状来ぬ友の安否を思う歳

巣籠もりが長くもたつく旅仕度

ハンドルを娘に奪われて旅をする

無意識のドヤ顔孫に指摘され

目耳脚実年齢を自覚する

羽曳野市 徳山 みつこ

救急車の中で安堵の息をつく

点滴がポツリポツリと命の雫

配膳車の音に胃袋が踊る

血管の太さナースに褒められる

あのあたりわが家の屋根だ日なたほこ

羽曳野市 藤原 大子

老化すすむ町に園児の声嬉し

涙まみれ汗まみれから湧く奮起

老化防止ペンを走らせ脳刺激

余生とて緩めすぎずに締めすぎず

出来ること喜ばなんて歳になり

羽曳野市 三好 専平

知らん顔闇魔が舌をもてあまし

知らん顔しているけれどほとけさま

知らん顔あなたの方が悪いんです

知らん顔してはおれないウクライナ

知らん顔私をにらみつけている

羽曳野市 吉村 久仁雄

待ち人があの世に一人いる余裕

病気には抗い今日の花に酔う

飲んで寝て今日の不幸をすぐ忘れ

あと出しジャンケンしてはいつでも兎に負ける

気の利いた言葉じゃないが好っきゃねん

東大阪市 北村 賢子

合掌へ世界平和を一番に

鏡開き幸せな年明けるよう

ありがたしいつもと同じいい目覚め

姉妹で句会臨めるありがたさ

穏やかな日射しへ鳩も群れ遊ぶ

東大阪市 佐々木 満作

日を分けて年始参りの子の家族

年々に簡素化になる節料理

川柳とパズルと脳トレの境地

三年も会わぬと顔も名も薄れ

動物の画像に癒やされる茶の間

枚方市 丹後屋 肇

プーチンの核発言に腰が引く

第一線銃を逆さに担ぐ兵

泥沼戦線ニツチもサツチも動けない

クロコダイル口を開けない物価高

渋滞路血走っている里帰り

枚方市 藤田 武人

前向きにしっかり立てという家訓

無防備な私に指先が触れる

ライバルが既にいてます呱呱の声

定位置が決まっています初電車

天国と地獄一度は下見する

藤井寺市 太田 扶美代

コーヒ飲む仕草懐かしお父ちゃん

一枚の写真を抱いてファイナル

三行に足らぬ日記を書きつづけ

悪筆が直らないまま八十路なか

生きてます砂の月日を重ねつつ

藤井寺市 鈴木 いさお

気合いを入れないと今日が始まらぬ

幹事を辞めたいが後任がいらない

甲斐性がない分家族には優しい

いい人を演じることはもう止そう

ゴール間際でいつも息切れしてしまふ

箕面市 大浦 初音

夢の中足がからんで進めない

一日中家にいたけど顔洗う

四角い紙あるといつでも鶴を折る

子育ても介護も同じ愛あれば

介護する方も成長お互い様

箕面市 酒井紀華

八尾市 村上ミツ子

月曜日を待つ楽しみがあるポスト  
今日の事今日で忘れて髪洗う  
百歳の兄の別れを祝う家族葬  
外反拇趾足に叶った靴を買う  
寡黙な父電話の向こう咳払い

箕面市 出口セツ子

コロナ以来夫婦で温泉癒し旅  
血圧の薬夫忘れたから不安  
入浴から戻らぬ夫気にかかる  
観光はせずにのんびりこもる宿  
心配をよそに夫は露天風呂

箕面市 広島巴子

スタートは三福まいりありがたや  
孫の声鶯のごと春を告げ  
友年賀ラインの兎ピョンと跳ね  
ご近所の絆深まる防災日  
本年も湿布貼り合いよろしくね

八尾市 寺川はじむ

新年のめでたさ萎むウクライナ  
四季の装い着こなす富士の鮮やかさ  
苦と楽が染みついている作業服  
激動の昭和を知らぬ子の軽さ  
経済とコロナ舵取り風任せ

定番のこたつにみかんないわが家  
赤みその雑煮おもちは二つです

自分のことばで打ちたいホームラン  
歩きはじめたらあるき続けねばならぬ  
ガラス戸越しのお日さまに癒される

大阪府 米澤俣子

今をどう生きるか今を深呼吸  
もの忘れ科のある病院のご案内  
ふんだんにあった時間もあと僅か  
鉢植えにたった一個のレモン成る  
アリガトウ増えて感謝のことばかり

松江市 松本知恵子

卯年孫わたしで向かう夢がある  
鯛焼きがのどぐろ焼に進化する  
背伸び止め今はスローな女坂  
あの事は岬の波に碎け散る  
悪友がきっぱりと言うアドバイス

出雲市 伊藤玲峰

若人の箱根駅伝力もらう  
くちやくちやの笑顔で弾む美肌の湯  
子や孫の書き初め楽し筆の文字  
婆ちゃんも仲間になつて色紙書く  
日本人です筆を持つ手も楽しそう

岡山市 大石 洋子

岡山県 藤澤 照代

野良猫が艶よくかけるお正月  
縄張りに平和がもどり静かです  
野良猫と回覧板とまわる三組  
お裾分けミカン半分枝にさす  
落とし所見つけながらの一生です

岡山市 丹下 凱夫

空元気だけでは越せぬ八十の坂  
年暮れてスッテンテンの旅鳥  
渋い茶を時に飲みたいこともある  
靴底に砂丘の砂を持ち帰る  
酒のアテないか冷蔵庫をのぞく

岡山市 前田 恵美子

良い年が来るよう祈り豆を煮る  
大掃除風邪を引くので「ハイ終り」  
お願いは一つだけだと神が言う  
生きるもの命は大事一つだけ  
卯の年も私は亀でコツコツと

笠岡市 藤井 智史

へっばこの酔い方褒めてくれますか  
不凍液どうぞとギャグを言うボクへ  
妻という芋焼酎と三年目  
幸せの弊害に胃もたれの愛  
来年のお祓いにするジャンボくじ

黎明の空元日を深く吸う

初日の出金波銀波に浮く日本

一年の出発点の初詣で

転た寝の怖さ知らせるウサギ年

古里の訛に浸る初電話

三原市 笹重 耕三

また歳を取ったと幸せな寝言

三密を死語にゴーゴー旅プラン

志望校へ鎮守の社をひと回り

踊り場が悶える団塊のカルテ

実印を翳して首を出す忌日

岩国市 上村 夢香

海と空バックに映える朱の鳥居

実朝の和歌口ずさむこれ日課

鎌倉に学び直しをさせられて

久々に会うワンちゃんに吠えられる

朝シャンは怠け心に活ける

防府市 坂本 加代

朗読のソフトな声に寝落ちする

デジタルに弱い老人子が頼り

顔見ても名前が出ないにこやかに

階段よりスロープが好き車椅子

健康な今を大事に生きている

鳥取市 池澤大鯨

コンビニに合わせ生活リズムつけ  
助かるわあコンビニで間に合わせ  
上司が走るなんか大事あったらしい  
愚図だけどゆつくりゆつくり仕事する  
コインなど掴んでみても高が知れ

鳥取市 奥田由美

願望から文字も縦長スリム体  
福引きで農家も当たるお米券  
二世帯で〇と却下の子と同居  
交番を見張る勤務の娘見守る  
主が逝きベンツが消えた隣家車庫

鳥取市 岸本宏章

感謝する言葉が増える老いの坂  
洗いざらい曝けて永いお付合い  
忙しい人には便利セルフレジ  
いつまでの我慢か値上げ止まらない  
昭和史に学んでほしい軍事論

鳥取市 岸本孝子

家の味だからおせちは手作り  
ゆつくりと嘯みしめながら雑煮餅  
ありがとう両手で受けるお年玉  
一日に一部屋ずつの大掃除  
美味くなる前になくなる吊し柿

鳥取市 倉益一瑤

物価高あれこれ削り夢がない  
八人目の敵が白紙でやって来る  
古い詩集黄ばんだ恋の跡がある  
相談をされて共犯者になった  
灯台は海の悲劇を語らない

鳥取市 田賀八千代

豆撒けば鬼も笑ってやって来た  
プライドのプラの辺りが揺れている  
ありがとうの言葉に溶けていく砂糖  
この身体リフォームすればまだ飛べる  
指触れただけでまさかの請求書

鳥取市 棚田大

寒波またたるむ心を引きしめる  
子どもたち大人もテストせよと言う  
脳きたえそれ解く人の声弱い  
能力を脳力と書き笑われた  
みえみえにこだわり過ぎてやつれはて

鳥取市 谷口回春子

不況風あつという間にわが家にも  
平和な世忘れた頃に潰される  
浅知恵が易きに流れ水浸し  
同じこと何度もやって嵐呼ぶ  
嫌になるさつきしたことまたやった

鳥取市 永原昌鼓

共通の話題求めて旅をする

君はもういない泣いても叫んでも  
今日もまた一人暮しの羽根伸ばす  
一人です抅げた羽根がためない  
マイナカード持つて一人前ですか

鳥取市 中村金祥

生きている証拠薬が増えている  
自分への褒美が欲しい縁の下  
貧乏神と語り明かした眠れぬ夜  
旧友に遭つて老妻若返り  
繰り返す津波の如きオミクロン

鳥取市 前田楓花

神様は何も言わずによく見てる  
「異常なし」何にも勝るいい言葉  
パトカーがハシビロコウのように張る  
ウサギもサメもきつと話した国訛り  
娘の向こうに私自身を見る

鳥取市 山下凱柳

飽くことなくミサイル飛ばす北の国  
政治家の同じフレーズ聞き飽きた  
物価上がり更に追い打ち増税か  
四年目になると慣れっこなるコロナ  
朝目覚めパッと浮かんで指を折る

鳥取市 吉田孔美子

勤労と趣味で来ました米寿なり  
不死身だと念う健康優良児  
そうしたのは人間 象に牙なし  
救命だ注射後でいいですか  
傘寿の子信じるかいと手が伸びる

倉吉市 大羽雄大

紅白はスルーで黒澤のビデオ  
カレンダー先ずは書き込む通院日  
積雪がなく寝正月を楽しむ  
三日坊主で良し挑戦の年に  
継続は力と年頭に誓う

境港市 藤原久直

本年もどっぷりつかる五七五  
自分らしく生きて波風は立てぬ  
馬鹿の付く正直者で生きている  
有難いオベの経験ありません  
階段のとんとん下りが困難に

米子市 池田美穂

正月に来てくれたのはコロナだけ  
隣もとなりもトナリもみな独居  
年男飲んでさっそく跳ねている  
初夢は二度のトイレに邪魔された  
紅白を見てから耳鳴りがひどい

米子市 伊 塚 美枝子

雪の無い正月神の贈り物  
宝探ししているような孫の部屋  
孫嫁ぎポツンと空いた孫の席  
第八波来たが打つ手が何も無い  
咳一つして身を締め切り見る

米子市 後 藤 宏 之

風呂敷は変幻自在器用です  
堪忍袋うまく使ってこらえたな  
喫茶店音楽つきのモーニング  
疑ったままハイの返事をしてしまう  
どこでもドア開けてあの星ピクニック

米子市 後 藤 美恵子

世の流れ風刺漫画に学んでる  
汚染土を積む風景が変わらない  
隠しても数値がばらす不摂生  
電子辞書に慣れて重たい広辞苑  
あかぎれにとっても優しい無洗米

米子市 妹 能 令位子

お隣の芝生ますます青くなる  
反論はまずなるほど言ってから  
がっかりを重ねてやっと生きてきた  
喜寿過ぎてしつかり火種抱いている  
命日になにはともあれ亡夫に酒

米子市 中 原 章 子

一歩出ぬエスカレーター避けている  
生きのびて健康こそが宝もの  
試されていると思つて乗り越える  
自信こそ挑戦維持をする力  
物価高怒りじわじわ染みてくる

米子市 野 川 宣 子

なるほどと母の心配今わかる  
カラフルな下着揺れてる両隣  
塀越えて蔓が我が家を攻めて来る  
ここ一番良い人演じ初デート  
惚けぬうち出会い待ってるクラス会

鳥取県 門 村 幸 子

やれやれと炬燵で和むまでの距離  
ええ加減にせえよブーチン舐めんなよ  
招かれて話の弾む古写真  
「あゝ極楽」焼き肉ビール据え膳で  
乳癌の記事熱心に目を通す

鳥取県 斉 尾 くにこ

真冬日の日光ガラス戸でサウナ  
スプラウト窓辺に置かれ落ち着かず  
「よろこんで」までもいただき御快諾  
湯たんぽにしている今宵きたLINE  
優しさに負け小猫の目にも負けて

鳥取県 本 庄 ひろし

松山市 古手川 光

針千本飲まねばならぬ空手形  
いわし食べ頭拝むも効果なし  
願わくば程良く降って今日の雪  
祭り役やつと決まった再任で  
まあだだよコロナは消えぬ隠れん坊

鳥取県 山下 節子

災害に電気の力思い知る  
急ぎます相談などはしておれん  
最後には相談役というポスト  
お茶持って登校をしたコロナの世  
プチ整形こっそりやって有頂天

松山市 大内 せつ子

のほほんを少しくださいカタツムリ  
心かくして炭酸のシュワワーの中に  
おもちや箱我慢の色があふれそう  
精一杯まぜてフリカケにしました  
呑気だねころころとよく転ぶ

松山市 栗田 忠士

言葉にはならぬ言葉が胸を衝く  
モノクロにかすむ昭和史の残像  
訳あってここは黙って靴を履く  
大物と言うか太っ腹と言うか  
ぎゅっとハグそれだけでいいそれでいい

鬼は外 コロナでしようと嘯う鬼  
コロナ鬱水戸黄門見てかつ飛ばす  
人生にも四季青春から今晩秋  
なぜなぜともう思わないボケました  
もやもやを郷の山河へ解き放つ

松山市 宮尾 みのり

前向きに生きたい訳の有る八十路  
相身互い愚痴も自慢も聞くゆとり  
夕食は普通でよいというおせち  
脳回路確かめるよう辞書を繰る  
東京も四国も朝日見るライン

松山市 柳田 かおる

若いねと言われ挑戦したくなる  
乙女のように揺れてる昨日今日  
遠くから見守ることの難しさ  
空耳かしらかすかに揺れたイヤリング  
紙ふうせん楽しみだった置き薬

今治市 永井 松柏

変わり身の早い策士はよく転ぶ  
蠟梅が咲いてそこまで春が来た  
青い目の遍路始発のバスに乗る  
ボクに似てせっかち河津桜咲く  
後期高齢と呼ばれ激しく同意する

西予市 黒田茂代

熊本市 杉野羅天

努力では治らなかつた股関節

入院の前になすべきこと済ます

隙間風の寒さがひとり身に沁みる

シュレッターにかけてしまいたいコロナ

一日中自分の時間なのに足りぬ

阿南市 小畑定弘

この次に入るであろう墓磨く

老春がときどきくれる生きる欲

ママさんの囁れた声が聞きたくて

ほほほで生きる私の自由吟

喜寿ですが恋に迷つてばかりいる

東かがわ市 川崎ひかり

何時からかスマホに頼っている生活

どうしよういつもの場所にないメガネ

風に誘われ探す生命の着地点

接待の甘酒身体に沁みってくる

輝かす生命仕度の年女

唐津市 坂本峰朗

お茶を出す妻の手皸が深くなる

ぎくしゃくとしながら老いを噛み締める

付度をして善人の顔をする

敗戦後の飢え耐え抜いて来た自信

地元産野菜を選ぶマーケット

初冠雪山の出湯の清清し

寒中一輪われ占うか初椿

口すばむ癖は機嫌の良い証拠

生きたとは進化すること喜寿の恋

グローバル化戦争なんぞしてられぬ

北九州市 小松紀子

素のままの自分が好きだ老いの日よ

子や友が安全基地でラッキーで

年だから今年は壁を作らない

手助けは出来ぬ出来るは思いやり

全身で喜ぶ愛犬とたわむれる

札幌市 小澤淳

会社での上司は友になれぬもの

街に出て行く当てもなく古本屋

平和ボケ日本は軽く見られてる

碁敵に生きる力を貰つてる

いつも前向き言われその氣になつて

塩竈市 木田比呂朗

文科省と掛け合う三月の絵馬

好機にはヒット出にくくなる八十路

カラオケのリストにはない浪花節

コロナ怖がるなと縄のれんさそい

危機管理無理に愛機を変えさせる

男鹿市 伊藤 のぶよし

よくもまあ悩み尽きない五尺五寸

しみじみとひと日ひと日の有り難さ

鱒不漁去年は去年陽が昇る

運試し人の煽てに乗つてみる

日本海風車の景色みて歩く

黒石市 北山 まみどり

たたかいを挑んでしまふ雪だるま

勝ち負けじゃないけど雪とにらめっこ

思いやるゆとりはどこへいったのか

繰り返すごめんなさいと悪しからず

地吹雪に試されている集中力

弘前市 稲見 則彦

炊飯器替えましたけど馴染まない

降車ボタン押さぬわたくしが悪いのと

交際費教養費から削る妻

雪女冬將軍とタッグ組む

雪合戦危ないからと禁止され

弘前市 今 愁女

コロナ禍に仲を裂かれてなるものか

吹雪く日は真夏の暑さも恋しかり

冬スポーツ楽しむほどの事もなく

雪片付けが最強の運動なり

春よ来い来い野も山も海の果てまで

(前月分) 熊本市 岩切 康子

通販5つ手間暇かけて楽をする

お野菜のお裾分けする二、三軒

メモばかり増えて整理の時間が無い

上窓を閉める背伸びで腰が泣く

石段の数だけ欲が減つて来る

(前月分) 横浜市 川島 良子

触れあつて人間は日常へと戻る

奇跡から奇跡ブラボーニッポン

奇跡つてあるんだ私諦めない

いつも笑顔強い人なんだと思う

生きていて楽しい人と今日もいる

(前月分) 大阪市 宮崎 シマ子

士族の家に生まれた母が時に凜とする

鉛筆書きの母のはがきを手文庫に

百歳近くなり母を求めて泣く私

漁の話と海のことしか言わぬ父

子沢山母はおやつを食べべなんだ

(前月分) 尼崎市 山田 厚江

今日一日八十点の出来でした

三浪してやっと入れた医学部へ

婆さんでも色っぽい声まだ出るぞ

楽しみはあんと食べる三度飯

温泉に行つたつもりで長湯する

# 波稜草の花

③

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

歟持つてワンマンショーの幕が開く

田 賀 八千代

北国ではまだまだ大地が雪で覆われているが、南の地方では雪もなく、どうかする  
と雑草が早々と芽ぶいていることだろう。  
わずかばかりの菜園があり、去年収穫した  
ままの土がお日様の光を浴びている。その  
土を眺めると腰の辺りから力が湧いてくる。  
誰もみていないが、お日様がみていてくれる。  
ワンマンショーのはじまりはじまり。

大根を使い切るのは自尊心

上 田 ひとみ

自尊心、プライド。誰にでもあって、ど  
うかすると取り扱いがめんどうなもの。知  
らず知らず他人に迷惑をかけていたりす  
る。ですが、作者のような自尊心なら愛ら  
しく可愛らしい。あるんですよネエ、大根  
の切れはしなんか、何となく余ってしまっ

そんな大根の切れはしをエイヤツと鍋に  
入れる。美的センスよりも自尊心を満足さ  
せる一瞬。

どれほどの背中を見失ったのか

永 見 心 咲

若い頃は全く気づかなかった背中を、あ  
る歳以上になると思い出したりする。中  
には思い出したくない背中、憎しみを持った  
背中、そして縁の薄かった背中。最近はず  
日までみていた背中が急に消えたりする。  
生きてゆくことは、ひとつひとつ背中を見  
失ってゆくことかも。実感あふれる句。

会いたい違いたい私がわたしでいるうちに

安 土 理 恵

この句も実感深い句。僕は若くから川柳  
をはじめたため、たくさん先輩と出会い  
育まれた。還暦を過ぎた頃から、その先輩  
方が次々と逝った。たいへん元氣だと思っ  
ていた方も急に逝ったりした。もっと会っ  
ておけばと後悔している。そしてこの句の  
ように、相手ばかりでなく自身もあやふや  
に。「わたし」のひらがながせつない。

いいですよ酒の肴になつてやる

伊 達 郁 夫

よそ様を肴にして飲む酒はなかなかの味

である。だがそのよそ様の立場に立つと、  
ひどく惨めに思えてしまう。だが今夜は、  
肴になつてやろうじゃないか。喋っている  
奴の開いた口をじつくりと見てやろう。そ  
の口の奥のはらわたまで見えてしまう。明  
日の夜は、そのはらわたを肴にゆつくりと  
酒を酌もう。

クレムリンに今欲しいのはブルータス

早 川 遡 行

ブーチンが今、最も恐れているのは、ゼ  
レンスキーでもE.Uやアメリカでもなく、  
プーチンの身辺に居る顔のみにえない一人の  
男ではないだろうか。あの秦の始皇帝です  
ら暗殺を恐れて居場所を誰にも教えなかつ  
たと何かの本で読んだ。もしかすると我々  
は、歴史の一大ドラマを今、観ているのか  
もしれない。

間違つて猫に生まれたような猫

柏 原 夕 胡

ウチの猫は漬物を食べる。いやウチのは  
秋刀魚を跨いでしまう。ナンテ良く聞きま  
すが、それでいて猫可愛がりする猫。そん  
な猫を眺めて、こんな句ができた。デモネ  
の猫だって、飼い主が間違つて人間に生ま  
れてきた、と思つていゝのでは。

# 誹風柳多留一二篇研究 31

清 賛。

247 泣て居るむすめ土蔵から目つけ出シ

山田 文字通りの句。土蔵で目つけ出された

というのだから、娘自身が隠れたのだらう。しかし何故娘が土蔵の中で泣いていたのだらうか。色々考えられるが、句の措辞だけでは判定出来ないから、各自の想像にまかせればよいのかも知れない。

明二松4

高野 賛。

泣て居る姫土蔵からめつけ出し 安四義4

の方がもう少し状況がわかる。

清 賛。

248 茶のみ友だちて祐信くろうする

山田 祐信は曾我太郎祐信。河津三郎祐泰の未亡人と「茶飲み友達」つまり「②年老いて迎えた妻」(日国)のつもりで再婚した。

しかし彼女には祐泰の忘れ形見の十郎祐成、五郎時致という二人の連れ子が居た。その養育もだろうが、後にこの兄弟が、実父の仇敵工藤祐経の仇討ちをしでかしたので、余計な苦勞をする羽目になったというのだらう。

山田 昭夫・小栗 清吾  
細井 龍夫・伊吹 和男  
高野 範雄  
清 博美

245 女房ハすつぽん女郎お月さま

山田 俚諺「月とスッポン」を利かせたそのままでの句。

内の夜具とハすつぽんと御月さま

安二松2

高野 賛。川柳よ！そこまで言うか！薄のろで阿呆で頓馬で助平のくせに。

清 賛。

246 牛若ハはらつふくれとつれに成

山田 源義経は幼少の牛若時代、自分の身の上を聞かされ、平家打倒を志し、修行中の鞍馬寺から脱出して、奥州平泉で威勢を振るう

腹膨れは「②富豪。かねもち。はらはれ」(日国)のことで、この句の場合は、吉次を指す。下向の途中、美濃の青墓で大盗賊で有名な熊坂長範が吉次の荷物を奪おうとして襲ったが、同道の牛若丸によって手下十三人が斬られ、長範も退治されたと言われる。

御そうしははらつふくれを供につれ

明二義一

清 賛。 祐信もやうしこの方さ、ほうさ 明三 天2

249 よこ合が出て湯治からはだか也

山田 横合いが出るは「①かたわらのものが差し出る。当事者以外の人が進み出る。直接かわりない者がちよつかいを出す」(「日国」こと。それが出て「湯治から裸なり」という次第になったというのだが、具体的状況は判然としない。

原句の「安四義5」(前句 そろひ社すれの輪講「川柳評万句合研究1」)では、専ら「博打」説が有力で、山路先生などは「そういう一種の博打があったかと思うのです」とまで仰っておられる。

しかし、「湯治から」の「から」も疑問が投げかけられて、結論としては「(湯治)からはよこ合と一緒に研究願いましよう」と言う山路先生の言葉で締め括られている。仮に博打とすると、湯治に行ったら、博打に誘われ、結局丸裸になり、それ以来博打にはまり、財産も丸裸になってしまったというような事になろうか。湯治場では当然丸裸になるから、それを両方に掛けているのだろう。しかし確信が持てない。ご教示賜りたい。

待わびて横合の出る旅の留守 安六 55 会  
女郎買イ横合イが出ておつふせる 一二 12

小栗 賛。句意はそういうことと思う。「横合いが出る」は、「日国」に「②余病を併発する」とあり、湯治に行ったところ「バクチ好き」の余病を併発して「丸裸」になったというのではなからうか。

湯治から少しハよみもつよくなり 四 38  
細井 賛。なるほど、「余病併発」の方がわかりやすい。

高野 『角川古語大辞典』に、「医者の誤診から、病症が思わぬ展開を見せること」とあり、主題句が採られている。小栗説か。

250 ふきがらにつばきの出ぬもなん義也

山田 煙草の吸い殻を、唾で消そうとしたのに、「唾の出ぬも難儀なり」。しかし実際問題として、唾で吸い殻を消すなどという事があるだろうか。あるいは作った句か。

ふき壳を飛車でおさへる玄関番 二〇 30  
高野 賛。野掛でしょうか。

清 賛。余り感心したことではないが、唾で消したことありますヨ。

251 江戸のほうそつに草津のさゝ湯也

山田 江戸の疱瘡は「江戸疱瘡に同じ」で、「梅毒。瘡」(「日国」)のことで、それには上州草津温泉で湯治するのがよいとされていた。笹湯は「江戸時代、小児の疱瘡が治ったときに浴びせる、酒をまぜた湯」(「日国」)で、笹湯を草津の湯に掛けているところが味噌。はつかしささ、ゆをあびに草づ迄

天五 札 4

草津の湯とかく女房ハふのミこミ

宝 13 松 2

清 賛。

252 われ二ツおれ一ツぬぐ大三十日

山田 雨譚註「質」。大晦日。亭主が女房に、われは二つ俺は一つ「脱ぐ」と言っている。暮れの支払いのため、互いの着物を出して、入質しようというのだろう。

一方は娘のふせぐおふみそか

露丸 明元 大 1

清 賛。されど「われ二ツおれ一ツ」、これなんだろう。文句取のような気がするのだが。

## 英語 de Senryu<sup>(135)</sup>

麻生 蔑乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

子が出来て床の飾となった琴

*after baby is born*

*koto decorated*

*at the alcove*

若く言えば帽子を脱いで見せるなり

*saying his youth*

*he takes off his hat*

*and shows real head*

---

*baby is born* 子供が生まれる *decorated* 飾られて *at the alcove* 床の間に *say* 言う  
*his youth* 彼の若さ *take off* 脱ぐ *hat* 帽子 *show* 見せる *real* 現実の *head* 頭

---

### 〜リバーウィローのため息〜 ⑦⑤ 日本の暮らしに混じるヒンドゥー語と俳句

もう 60 年ほど前のことですが、「日本語の「奈落」はインドのサンスクリット語に由来する梵語の (naraka) である」と、外国語大学の印度語科に入学した友人が言ったことを覚えています。「奈落」は地獄、物事のどん底、また劇場で花道の下や舞台の床下の地下室としての認識しかなかった当時の私は、インドの言葉が仏教を通して日本語に置き換えられたことに強い印象を持ちました。私の暮らす地方都市でも、最近いろいろな国の食べ物屋さんが増えてきました。中国や韓国を筆頭にハンガリー、ポーランド、インド、ロシア料理のお店があります。ある時、カレー料理を専門にしたインド料理のお店を目にしました。看板にカタカナで「ツルシ」とあります。そんなおり、昨年 11 月号に作品を紹介したインドの俳句友達 (*Geethanjali Rajan*) から以下のような新年の作品が送られてきました。彼女の日本語訳も写真も付いていました。

*old garden.../tulsi seed pods collect/the first sunrise* (ツルシの実 初日を集む古庭かな)

早速、彼女に「ツルシ」のことを尋ねると、「インドでは、ツルシは聖なる植物のパジルです。ツルシには神話的な意味があります。またヒンドゥー教の祈りの儀式ブジャでも使われます。勿論、私は食べ物に使われるの好みです。」と、返事が来ました。写真には日本の紫蘇の実に似たツルシが日を浴びている姿が映っています。まさに言葉は文化であると、強く思ったことでした。

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

菊の精を見き 童貞を見き 君に

君の骨 栗拾うごと拾われよ

骸と同じ形でこの夜寝る

淀川の水滔々とお元日

冬夜の凍て 愛恋の書も真理の書も

雪見えて特急列車熱帯びる

牡丹雪 ゆっくり俺が昇天す

白黒記

読みつげば 冬の未明の白湯の味

悼 工藤安亭氏

君あらず 浅虫の日は見えながら

桂 浜

海の風 竜馬の鬢へ ふところへ

足摺岬

紅椿墜とすや怒濤はばたけり

讃岐富士 一番星を簪に

盲人の手をひく先を道おしえ

夕桜 盲人鳩の餌をこぼす

夕桜 琴朱の布に包まれる

吐く息も吸う息もなし 夕桜

夕桜 人の情は大切な

恋の句を刻まれし碑の濃陽炎

旅先の動物園のフラミング

潮干狩 竿突つ立てて帽子掛

猫柳 亡き人ばかり思わるる

鳥取砂丘 四句

四つ足を連れた足跡 大砂丘

子と来れば砂丘隅まで砂の山

三人の子と玄奘のごと行く砂丘

風紋に 電気に似たるもの走る

夕桜 恋の正体判らねど

夕桜 光も影も吸い尽くし

六帖の浄土となって眠りこけ

逢いに行く心の中的首飾り

額の裸婦と同じポーズで夢を見ている

# 自選集

小島蘭幸

膝掛けをくれし人など想う春  
名刺刷る私を叱咤するために  
駄菓子いろいろ孫が土日に来てくれぬ  
免許更新すると七十五になっていた  
妻も私も名前通りに生きて来た

藤村亜成

瘦せた脳耕す育てたい言葉  
わがままの地図を拡げる今年こそ  
幸運の女神よ僕に不倫せよ  
老木の枝に花咲く実をつける  
どの国も差別なくやってくるコロナ

松本文子

辿りつく坂でゆっくり息を吸う  
アンビリーバポー家庭内別居私にも  
小春日にゆっくり廻る風車  
飾りなど要らぬ必死に生きていく  
溜息を受けとり月が泣いている

三浦強一

ITの言うことは聞く現代っ子  
上司みなITとなるそんな世が  
生煮えの夫へ妻の落し蓋  
坪庭も眠りに入る雪蒲団  
幸不幸バランス良くて生きている

村上玄也

五酌ほどの酒で動悸が高くなる  
覚束ない足もと散歩さえ不自由  
寒いのはやせ細った身にはきつい  
何するにしても先立つ面倒さ  
毎食後頬張るように飲む薬

森山盛桜

くすぐってみる鬼臉笑うかも  
沸点は遥か頭上に霞むのみ  
春というのに裏窓に向いたまま  
天地のただ一点に座するのみ  
鉄塔が一本杉を追いやった

八木千代

一切空

しずしずと摺り足で来る橋懸り  
地謡の面々声を和して待つ  
綿々と前世を語る前のシテ  
烈々と業苦を曝す後のシテ  
幻は去りすべて去り一切空

山 本 希久子

雲流れさだめのままに生き米寿  
もう少し生きられそうだ空の青  
歳を重ねて知る友情のきらり  
欲捨てた身に二ヶ月の寒氣沁む  
戦の空しさ身にしみ知る世代

居 谷 真理子

八十のパジャマが竿で吸う冬日  
ぼっと既読あの不器用な指先で  
しんと立つ若木しいんと立つ古木  
天帝の物思うとき牡丹雪  
駄句凡句血を吐くほどの咳もせず

川 上 大 輪

何や何やと叢雲が騒ぎだす  
今が華ときどき愚痴もボツと咲く  
兵隊募集玩具でもいいですか  
私の背中を突く後ろ指  
憎まれる程長生きをしてみたい

北 野 哲 男

モシモシヘリバーシブルな妻の声  
百均というオアシスを徘徊し  
蜂蜜の御礼とリンゴ届けられ  
わざわざに行ってもついでと言う見舞い  
新聞は広告削れば何頁

木 本 朱 夏

天網にいつか追われる侵略者  
大切なことは扉を閉じてから  
海月にも蝶にもなれず繭籠り  
缶蹴りの缶は何処まで行つたのか  
春までに探しておこう花の種

新 家 完 司

ポストから始まるころ躍ること  
冬の文字その点々は雪なのか  
薬屋と医者が儲かる高齢化  
春風は南の島で昼寝中  
「春よ来い」歌って春を待っている

高 瀬 霜 石

信じない信じないけど恐山  
背番号17 東北の誇り  
福井県好きです恐竜ファンです  
どっちがどっち鳥取県と島根県  
大切な人に会えるか恐山

津 守 柳 伸

ホップステップ兎は跳ねる銀世界  
高齢の独り住いに芯がある  
フランスパンかじり少女期に戻る  
旅友の元気互いにルンルンルン  
雪催い明るいニュース物色中

西出 楓 楽

サステイナブルな暮らしをばらじや駄目だろう

老い孤独 子孫曾孫は居るけれど

言い勝ったあとの心を持って余す

いろいろなうりのセリフなめらか新之助

何もかも値上げ貧乏神笑う

仁 部 四 郎

念の為ですと手帖にフルネーム

頭文字だけでは無効領収書

悪玉であるかもしれぬ頭文字

頭文字だけで判るが判もある

熱があるそうさ墨磨り署名した

平 田 実 男

荷が重い役が卒寿の生きる糧

齢だけがなんとか父を越えました

尻尾振るところを見られた今日のウツ

姥捨ての山がだんだん近くなる

医療費の二割が医者を遠くする

福 士 慕 情

生老病死避けて通れぬ道がある

ご先祖が居たから今の僕がいる

計報欄たしかあの人だと思ふ

七人の敵がああ世で待っている

老いの坂先のことより今のこと

「川維」語録 ⑮

歩みつゝ、(その一)

水<sup>ミヅ</sup>谷<sup>タニ</sup>鮎<sup>アヲ</sup>美<sup>ミ</sup>

去る日の昼すぎ阪神梅田終点で路郎先生を見つけた。見ると先生のつい眼とはなのあるところにいちばく店が出てゐます。先生はなつかしようにそれを見てゐられました。私の頭のなかでは先生は亡くなられたロンドンさんの事を想ひ出されてゐられるらしいのです。先生の眼にはいちばくのどれもこれもがロンドンの顔や動作や声や寝顔に見へてゐたことでせう。

裏へこいそいちばくをとつてやる

お父さんは覚束なくも生きてゐる

といふ先生の句を思ひ浮べました。もう二三歩で先生に言葉をかけられるところまで近づくと先生はこちらをむかれてにつこりとされしました。私のこゝろには涙がぼたりと落ちました。

よいはして天までとゞくよいはして ロンドン

といふ句が九つで亡くなつたロンちゃんやんの辞世句になつてしまつたのも悲しいことです。

(「川柳雑誌」昭和5年10月)

# 森の集句



## 『垂井葵水遺句集』

垂井葵水  
たる い き すい

お世辞抜きでという嘘の美しさ  
誰もいなので古巣のぞいて見たくなり  
別室の慎重審議よく笑い  
枯蔦に石仏がんじがらめなり  
ところ天あります 空っぽの燕の巢  
柳絮散る散っては鯉を驚かす  
底抜けに晴れてる連休明けの空  
椿落つ不貞寝の犬の耳動く  
少年の螢少女の掌に移る  
軽い音して矢車は星の中  
潮の香に歩板のきしむ音のどか  
貨車去ってからの陽炎位置をかえ  
かまさりの鎌ふりあげたまま掃かれ  
大広間浴衣の首が違うだけ  
鈴虫に死ぬべき覚悟うかがえず

(昭和50年11月1日発行、川柳わかやま吟社)

## 温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

充電が放電となるコップ酒  
末法の世を斬るペンを研いでいる  
貧しきは恥にはあらず紙風船  
よく冷えた釣りが出てきた券売機  
スタートは一番だったと聞いている  
赤青黄 岩波新書並ぶ書架  
戦いは勝たねばならぬ寒椿  
桃の花 孫が十五になりました  
すっぱんぼんベストセラーになる平和  
知りすぎた男が消えた永田町  
老いらくの恋 一休も良寛も  
国禁の書を読みし日よ多喜二の忌  
石をもて我も追われき啄木忌  
絵草紙の恋みな悲し西鶴忌  
朝起きると無くなっていた僕の国  
過去形で幸せ語る友と居る  
再縁の絆が集う春の宴



木本朱夏選

大阪市 岡田恵子

折れ線のグラフで示す幸福度

アマゾンで買った掘り出し物の恋

五線譜のおたまじゃくしのフラダンス

縄糸ほどこけぬままに夜が明ける

Jアラート鳴ってあたふた老い仕度

第一歩踏み出す覚悟武者震い

尾道市 小川道子

新しい朝だ今日のうち今のうち

心身に傷み今を生きる証

毎日が不思議な景色見せつける

生きている事が不思議な昨日今日

戦争コロナ世のさまざまを見る悲劇

戦争の彼方に何が見えますか

山口市 前幸子

風いだ海から早春の鼓笛隊

ロボットが迎えてくれる仮想都市

オブジェの街で赤い帽子が弾みだす

絵本からボロンと落ちた紙の月

万葉の森古き歌人の噂など

ブラックホールの中で出口を探している

尼崎市 八木幸彦

この齢で他界無念の父想う

ライバルにアキレス腱が一つある

夢を追う男に妻のカーディガン

連打するピアノを誰も止められぬ

調律師忘れた頃にやって来る

変声期前に少年走り出す

神戸市 城戸誓子

忘れるを贈られ母は風いでいる

母の日々二十時間は眠り姫

眠る母お湯で顔拭く吾子のよに

母は問う「ほんまにセイコ」「セイコやで」

くしゃくしゃの母の笑顔にくしゃくしゃに

遠い日の母の服着てモガになる

尾道市 村上 和子

戦地でも平和を祈る初日の出  
初夢はおさなの頃の兎飛び  
兎飛びできぬが喜寿の夢跳ねる  
兎追いしかの山におさなの恋  
二兎は無理川柳一兎追いつけ  
紙と鉛筆で左脳の活性化

神戸市 みぎわ はな

五欲捨て風に委ねた身の軽さ  
ドロップは夜空の星になりました  
オバチャンの餡も世につれ様変わり  
物価高一葉論吉すぐ逃げる  
三十回噛んでお皿の数減らす  
齢をとるとはこういうことかドッコイショ

神戸市 酒井 宏

河豚提灯寄って行けよと目が誘う  
妻は留守一本つける夜の炬燵  
家計簿の余白が愚痴で埋まりそう  
偕老同穴笑って妻は首を振る  
日脚伸ぶ影と一緒に散歩する  
寒い朝視界不良にするマスク

宮崎県 恵利 菊江

峠越え背中を押した空つ風  
頬杖に少女の時間舞い戻る  
吹き抜ける風があしたを掴み取る

予定さえ言葉一つで見失う  
若者に負けてはいない老婆心  
夫婦して天体ショーに見蕩れた夜

府中市 岸田 武

中吉のみくじを結ぶ背伸びして  
エスカレーター老けた女将とすれ違ふ  
木枯しが泣き三味線を連れて来た  
一句得たところで散歩引き返す  
厳寒が続いて今日も喪の知らせ  
激辛のカレー息子にもう勝てぬ

佐賀県 真島 久美子

打楽器になりそこなった骨密度  
父さんは消えて南天ざわざわと  
たましいとひらがなで書く眠りたい  
絹糸になれない髪を触る癖  
わたしから離れていった紋白蝶  
導火線です尻尾ではありません

岐阜県 喜多村 正儀

押した背の薄さ戸惑う風の情  
推敲のペンが探っている深み  
本気度を問う角番の土俵際  
格の差は見せぬ小兵の四つ相撲  
手を焼いた子が来て座る母の椅子  
日溜まりのベンチのようなお人柄

神戸市 米田 利恵子

出前館に電話した日の寒い部屋

餅ですます今日もコロナのせいにする

三ヶ日ゴミ収集のありがたさ

一人欠けどつと崩れた同期会

初夢の後押しをする大吉も

書き初めの文字に迷った飛ぶと跳ぶ

大阪市 森 廣子

一縷の望み遥か彼女の風便り

輪の外は事情なんかは知りません

もうすでに澱が溜まった瓶の底

最悪の関係なのに良く出会う

ちよつと休憩熱い葛湯を飲みましょう

雀と私 現実を生きている

大阪市 吉 積栄次

辛い時明るい色のシャツを着る

故郷の海の匂いが背中押す

読み過ぎた空気の中の孤独感

辛い時頼って来ない意地っ張り

負い目から何時も職歴語らない

漱石が意地を張るなど肩叩く

池田市 倉本 一 弥

ガタンゴトン電車ゆりかごよく寝れる

見合いじゃないが細々続く老い二人

母さんは泣けばいつでも「大丈夫」

答がなくていけないだろか 生きるのに

試着室鏡の僕は背が高い

値上げ値上げ笑うしかない底抜けに

柏原市 神崎 江

頬杖が支えて過ぎる夜の静寂

窓越しに今夜も月にごあいさつ

明けぬ夜はなかった今朝も陽が昇る

眠りからシフトチェンジをする夜明け

春までは心も寒くならぬよう

待ち合わせ口紅少し引き直す

交野市 山野 双葉

取り返しつかない嘘を抱いて逝く

血の赤さ確かめに行く献血車

王道と言われ迷路に迷い込む

ルーティーン増えて飛べずに日が暮れる

花マルをたくさんくれるいい先生

わしも族振り切る翼妻は持ち

河内長野市 坂野 澄子

春が来た面食いの娘の葉指

太鼓判捺され今夜の酒二合

加速するときの流れにひるむ足

雑踏にふと立ち止まる孤独感

バラよりも何故かいとしいカスミ草

忘れたわびびびと走るあの刺激

松江市 中 筋 弘 充

B 29に竹槍向けた昭和の子  
校庭で芋を育てた昭和の子  
食うために兎飼った昭和の子  
先生と鬼ごっこした昭和の子  
学校から帰りたい昭和の子  
お下りを喜んで着た昭和の子

安来市 原 徳 利

酒らしい酒は地酒の二級品  
乱取りの中で作戦考える  
淑女等の前は尻尾を立てておく  
泥鰌のから揚げ熱いうちにどうぞ  
心臓に刺さったままの赤いバラ  
盗み酒ここから先は毒になる

伊丹市 延寿庵 野 鶴

対峙して真心を解く座禅堂  
シナリオにないコロナの海を泳ぎ  
地球儀の水河が解ける温暖化  
前向きに歩けば運もついて来る  
穏やかな弥勒の笑みに気が和み  
襖絵の兎が跳ねて春を呼び

尼崎市 宗 和 夫

フライングは無しにしてくれ反撃に  
挑発に乗れば戦の口火切る  
武力より外交力がものをいう

傘持たず核廃絶の旗手となれ  
知らぬ間に戦費となるや防衛費  
軍拡と気づかぬままに戦前へ

広島市 松 尾 信 彦

捨て方を考えあぐね手を出さぬ  
おでん煮る妻は二日の旅仕度  
仮面などかなぐり捨ててのボランティア  
単身は子らとりモートクリスマス  
迷い道出発点の数え限  
ハードルを下げる勇気を試される

和歌山市 倉 橋 悦 子

明日こそ自由な風が吹く場所へ  
道端に蹴りたい石も見つからず  
春雨は地球の涙すすり泣き  
失って分かる後悔友の愛  
衰えも恥も忘れた好奇心  
仕合せ転がっていた日溜まりで

今治市 安 野 かか志

泣きに來た男をどやす日本海  
凜と咲く皇帝ダリア泣かす雪  
耳を刺す痛みを払う寒椿  
賑いに備えて眠る宮の森  
他人事じゃない大晦日やって来る  
満腹のカラス眠たい大晦日

鳥取市 狹武紫陽

空つぽの心余熱はとうにない  
冷凍になったピーマン煮込もうか  
平和とは暖かきもの今朝の汁  
ドロップスなめて出番を待つこぼし  
疑わず手に人並みのマニフェスト  
煩悩も少しあるからまだいける

和歌山市 佐藤 まき

電話鳴るほらまた出たと娘が叱る  
娘の近隣老人達の詐欺被害  
無い袖は振れぬ心配無用です  
戦争だコロナだ詐欺だ世知辛い  
欲張りな広い国土を持ちながら  
禿鷹のような仕打を知っている

和歌山市 鍋嶋 澄子

夢さめて老いを背中に日々くらし  
青い空バラの宴に酔いしれる  
友は良い世話かけながら泊り旅  
はらはらと雪の白さが愛おしい  
あるがまま銜いもいらぬ幼な友  
南天の機知に富む白赤も好き

高知市 三谷 松太郎

武勇伝一つもなく猫背です  
我慢しな阿修羅まつこと怒つとる  
辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

わしゃ呆けた言い張るもんでみな笑う  
マーカーで黄色く塗って念押され  
つい迷うわたしわたくし僕か俺

生駒市 饗庭 風鈴

無口の子さてもめでたい一人立ち  
ベルリンの壁 息子は二歳あの頃は  
沈黙は不機嫌にみえもどかしい  
太古から親というものおせっかい  
老人は現在と過去しか見ていない  
息子よおまえの未来だけは見る

東京都 宮田 栄子

振袖を着ることもなく古稀迎え  
新年はウィーン・フィルで夢心地  
正月は炬燵でごろ寝足退化  
隅田川水上バスで春探し  
日溜まりに眉間の皺も消えてゆく  
街路樹の辛夷の蕾春近く

弘前市 小山内 真由美

冬のほおずき芸術的な顔となる  
三日月と見るライトアップの雪の花  
昼の楽しさ残っています雪だるま  
平凡に偶然という面白さ  
偶然はいたずら好きな天使かも  
金魚たちココ美とナナ夫に改名

東京都 高岡 弥生

スマホでの時間潰しで電池切れ  
三年間マスクの消費どれくらい  
パスポート作りワクワク止まらない  
寝正月駅伝サッカー忙しい  
老犬のヨタヨタ歩き愛おしい

横浜市 巖田 かず枝

会食の日取りコロナとにらめっこ  
好物の梨を大事にむく夫  
読み聞かせ共にほっこりさせられる  
父さんと飲み会したい子の誘い  
七十四終活歳が急がせる

横浜市 加藤 佳子

ペランダの日の丸父の贈り物  
ウサギ年平和日本の有難み  
年女ウサギ跳びなど披露する  
ゼレンスキーの口説き上手に絆される  
八波までしぶとさ見せる新コロナ

小田原市 虎澤 昭久

顔撫でる光の温み母に似て  
ボケたのかどこへ失くした休肝日  
妻以外誰とも会わぬ日の多し  
腰痛は持続可能と除夜の鐘  
故郷の昔の冬の低い星

神奈川県 小田 幸子

小さな手自ら手渡す年賀状  
亡父笑む思い出話のライトあび  
目を上げた鏡の中に父が居た  
犬眠るマッサージチェアは誰の物  
乳母車術後のワンちゃん前を向く

豊橋市 小松 くみ子

里山を実感あぁヒツキ虫  
アメリカンおかわりをする暇つぶし  
NHK再放送でつないでる  
慣れた庭思わぬところで蹴躓く  
お隣の夫婦ゲンカも心する

豊橋市 西郷 紀美代

トマホーク買うより食の自給率  
待ってないけどすぐに来る誕生日  
フワフワの乳房まくらに七歳児  
ゴール前抜かれた孫のくやし泣き  
沖縄の民意背にする情けなさ

八幡市 武田 悦寛

朗報にゆるくスキップ老夫婦  
聞き上手おだて上手の生き上手  
どこの家でも正月はやってくる  
煩惱が騒ぎ出すから米を研ぐ  
苦も楽も詰め込み過ぎの古日記

大阪市 今村和男

大阪市 田原康雄

生きざまを見上げるように落ち椿

新年の去年の顔にご挨拶

蛇口から若水を汲む年男

冷えた手と心に届く温い酒

地下鉄で行ける範囲の遠出する

大阪市 近藤風羅

溜まるのは本と脂肪と後悔と  
面倒で付き合う人は自分だけ

大阪市 中村峰子

うたた寝のこたつ定位置猫の穴

落ち葉掃ききりなきことの面白き

日本は民主国家だ知らんけど

朝の月ほんとの私眺めてる

酔眼に美女ばかりなり酒や佳し

大阪市 阪本秀子

会えぬ友君の分まで生きてます  
かなんなあ根ほり葉ほりと聞きたがる  
売りことば買わずに笑顔返します

大阪市 松田聰

引き出しの奥のそよ風背なを押す

階段をのぼるようには世はゆかぬ

宿業の殻はきれいに脱ぎすてる

ゴキブリの哀れ前世で何したの

虹色に輝く父母のメモワール

大阪市 滝井 えみこ

美しい所作がめだった時代劇  
働かぬアリも存在意義がある  
ウクライナのちの歴史にどう残る  
踏まれてもくいしばる歯が減ってゆく  
日本人やはりマスクははずせない

泉大津市 葛城隆雄

じいちゃんの風呂に合いの手へいへいホ

老いた母に勝たせて終える七並べ

一人鍋遅刻している幸を待つ

空想を膨らませ待つベーカーリー

休みなく家事は続くよどこまでも

お正月独楽風羽子板死語と化し  
面白さ一人よがりの自画自賛  
お賽銭小切手に見る二九四五一  
一年の計も三日で誤破算に  
お雑煮の香りと味で寿いで

泉大津市 助川和美

ちぐはぐな言い訳舌がかわいてる  
ひとつゴミ落せばゴミは積もり出す  
おまえって呼ばれていまや金婚に  
孫と祖父繋ぎ止めてるお年玉  
ポケットに昔夢入れ今葉

泉佐野市 檜葉良子

嫁が来る家中そうじ待つ私  
幸せよ私は私それでいい  
とりあえず手伝いましょか言っておく  
リセットをしたいと思うミスばかり  
夢を買う宝クジにも金が要る

貝塚市 吉道あかね

吐いて吸うリズム崩れるあの日から  
泣き虫になってしまったちぎれ雲  
寢言でも嫌や嫌やと言っている  
忘れないう花を抱えている  
いつか別れる生きた証しの中にいる

河内長野市 穂口正子

いつまでも死なんつもりで無事退院  
右往左往ほんに人生阿弥陀くじ  
妻のサイン見逃し今日も怒り買う  
ちやほやされ今はあさんと呼ばれます  
じじばに構われ孫が泣き続け

吹田市 岩口のぞみ

海沿いで買った干物はぬる燗で  
歳重ね気づくお節は酒に合う  
健診でBならよしと敷居下げ  
旅行支援安かったねと浪費する  
お医者様加齢以外の診断を

吹田市 西沢司郎

身構えた途端にやって来る病  
三歳馬ターフ狭しと逃げて勝つ  
注射痕寝てる間に輪を抜け  
大臣を呼んで抽選ジャンボくじ  
咲き乱れやがて落葉になる定め

摂津市 荻布律子

勝ち色のネクタイ解くランチ時  
ごみ出しはこのスッピンでマスクあり  
出しゃばるなと石段の上仁王様  
カプセルにできない事を閉じ込めて  
期限切ればっちの納豆冷蔵庫

摂津市 野々村レイ子

ブライドを自分ですてる減らず口  
子の笑顔視線やさしく美しい  
サプライズ心ツヤツヤ弾んでる  
耐える事教えて母は野の花に  
何もせず早日が暮れる冬の雲

高槻市 鳥居 宏

此の度はカード無くしたまたかいな

忘却の道を二人で旅をする

毎土曜移動スーパ―先ず豆腐

つわぶきの花は寂しくゴツホの黄

何年の命か五年日記買う

高槻市 三谷 白黒

起きるのに気合を入れて足をつり

携帯を失くしたのは二度目です

紅白は録画してから観ています

マグロー一匹 我家よりも高価です

孫達に負けて嬉しいお正月

豊中市 齋藤 奈津子

丸窓に満月嵌り目玉焼き

妻のご機嫌点数稼ぐ肩たたき

手抜きして無人販売罪つくり

二千円札出せばあたふたレジの人

リハビリ後うっかり杖を置き帰宅

寝屋川市 長尾 千賀

南天へ鶉の来て寒半ば

赤丸は吉事 青クリニツク カレンダー

流されず老いも自由な色で生き

ご近所の噂はルール無く走り

一部始終この齢だから知ってます

羽曳野市 黒木 ひとみ

寒空に餅つく音と笑い声

新年も良き芽を出せと慈姑炊く

葉草の香り楽しみ屠蘇を飲む

年玉を貰える年か二度重

大茶盛隣を助け濃茶飲む

阪南市 藤岡 笑三

何もかも捨てて飛び込む縁信じ

鯛雲着物に転写してみたい

川柳の思索に溺れタミナル

喜寿までを洗い流して余生生く

花栈敷あなたの髪も香しい

東大阪市 青木 ゆきみ

相席は旨い店なら喜んで

喧嘩した後はバスタで仲直り

木枯らしが吹いてピリツとなる空気

スパイスを効かせ言葉が踊り出す

身に染みる言葉を集め前を向く

東大阪市 青木 隆一

何よりも冬のご馳走こげた餅

噛みしめて冬が来たかとボタン鍋

丸い月今宵も空ですまし顔

箸づかいナマコつまめば上級者

行きあたりばったりですが良い暮らし

八尾市 田邊浩三

腰痛者天氣予報をじつと見る  
禁酒して人生何年延びるのか  
カラオケに行けない俺に耳鳴り  
折角の入歯に薬副作用  
初詣帰りお寺に友供養

大阪府 大浦福子

今年こそいつも張り切る最初だけ  
力抜き生きてみようか自分流  
ブラボーな年に成るよう為せるよう  
だめ元で撒くわ今年も夢の種  
喜べば喜び事が寄つて来る

大阪府 奥野建一郎

相手見て器用につかう物忘れ  
さすがだと言われ一肌脱がされる  
辞退することで誠意をしめしたい  
なにげない仕草に恋が現われる  
得るところずいぶんあつた負け試合

大阪府 高木道子

働けど豊になれん物価高  
少し嘘ちよつと本音で煙に巻く  
両隣と忘れ上手の七変化  
鼻先を襲う寒さにマスクする  
年ごとに亡母に似てくる初鏡

神戸市 青木公輔

漫才のネタが我が家のアチコチに  
その話の答えはすでに出ています  
七彩の恋を捌いてみたものの  
ペンキ塗りたて人生迂回せよと言う  
恋は貸切り只溜息が残るだけ

神戸市 石川克美

初日の出今年もどうぞよろしくね  
元気です待つてましたよ年賀状  
元氣かな年賀返信なき人よ  
いたずらに私の時は過ぎてゆく  
寒空に公園ポツンと淋しそう

神戸市 田本古鈴

海ひとつ呑みこめないで母になる  
お互いの痛みを避けて喧嘩する  
この世からおいとまをした母の靴  
人として永遠の人母と呼ぶ  
知っていた健気な母の夢ひとつ

神戸市 横田次郎

もやもやの空気は燃やし灰にする  
すんなりと家族になつた馬の骨  
冬の夜今に至つたパズル解く  
深呼吸乱れを正す句読点  
最後だと決めた遺言迷い出す

神戸市 村松 久江

三田市 野口 龍

久し振り帰国した子の照れ笑い  
いつの間におじさん顔の次男坊  
辛いです嫁との会話英語です  
世間とは少し違って面白い  
誕生日余白いっぱい取ってある

尼崎市 山本 百合

餅つきの輪に闘病の夫もいる  
笑ってた父さんの席空けてある  
産声を初春の光の中に聞く  
便りなきは無事と言いつつ待っている  
歳重ね弱気になった金太郎

伊丹市 岡村 風琴

思い出をうまく切り取るカメラアイ  
千の窓千の暮らしの窓灯り  
紙とペン明日へ生きる詩を書き  
足して二で割れぬ人生面白い  
児を産んで母は分母で生きている

三田市 幸田 厚子

一日一捨過ぎし思い出お礼込め  
独り居の隣家音なし気にかかる  
カナ葉名覚えた頃にジェネリック  
店を継ぐ次女に立派な婿が来た  
簡単に指示出す妻の重い腰

私はいつも昭和生れと胸を張る  
雨模様傘の数だけ生きる人  
落葉舞うエントランスに立つ私  
ただ酒は飲まない事に決めている  
見上げると夢がふくらむオリオン座

三田市 馬場 貴美江

物価高家計簿睨み策を練る  
紅白の興味薄れる高齢者  
正月は晴天続き縁起良し  
曾孫四人いのちは続く連綿と  
皺の数生きた証しと忍の文字

三田市 松下 英秋

旧のつく成人式に行く二十歳  
あつさりとしたビデオ通話の終りかた  
母逝きて暇の裏に住みはじめ  
刃物より欠伸が怖い寄席芸人  
学校の名前覚える駅伝走

宝塚市 岸田 万彩

萎えた足照山紅葉みなテレビ  
年賀状計報数えて数減らす  
のんびりと消化試合のはずだった  
あらためて歌詞しみじみとビートルズ  
インタビューやたらに白い歯を見せる

丹波篠山市 河南 すみえ

春がきた神様からのエネルギー  
試歩の杖春のそよ風呼んでいる  
卒寿ですスマホに挑戦スローライフ  
暗闇で挫けそうだよあかんたれ  
ありがとう別れの名残ハイタツチ

西宮市 北島 邦男

新誌友作句に追われる夢を見る  
何故帰る故郷はコロナ パンダちゃん  
初詣国中の神クツタクタ  
羨ましメモも採らずに鮭は行く  
何かある夫は派手に皿洗い

西宮市 高瀬 照枝

元日に神さま通る庭掃除  
とんど焚き汚れを燃やし勇気出す  
疲れ取る温い寢床はありがたい  
昼が来てきつねうどんで暖まる  
年金で楽しみひとつ増やしてる

西宮市 高橋 千賀子

ネコとふたりとても静かに年を越す  
初夢は見ないぐつすりよく眠る  
去年より数枚減った年賀状  
奮発した御節は先ず仏さま  
振り袖が眩しい孫の晴れ姿

西宮市 藤原 みよし

ブラボーな暮し願って初詣で  
妻がいる和む家庭が自慢です  
なりたての傘寿背伸ばしすたすたと  
つくしの芽もう出ていいかうろたえる  
手の内を見られぬようにグーをする

三木市 山口 ヨシエ

下萌えの道るんと春を抱く  
柔かな春風弛緩する六腑  
新しい景色を見たい橋渡る  
少しづつ萎えてゆくもの撫でながら  
遠ざかる足音術もない日暮れ

生駒市 永田 美美子

祭神の「福」をどうぞと破魔矢買う  
足跡が空へと続く雪兎  
アイロンあてプロセス踏んで爽快に  
友情が同じ話を聞いている  
ストーブの上煮豆コトコト丁度よい

奈良県 室田 行久

制服を着るとやんちゃもそれらしく  
重病の見舞いに行つて励まされ  
参道を手押車の母白寿  
神様の格式示す初穂料  
年波に眼鏡補聴器命綱

和歌山市 北原 昭枝

和歌山県 三枝 眞智子

初々しい気持で今日も手をつなぐ  
にぎやかな孫等の声の冬うらら  
いつ歩一歩泣いて笑って足の裏  
信じてる足音あすへ弾ませる  
いくつもの場面に出会う冬の虹

和歌山市 定松 宏枝

鳥取市 上山 一平

干支の卯の土鈴カラカラ春の音  
密さけて三日遅れの年賀状  
屠蘇に酔い音痴の母の十八番  
雰囲気に吞まれ手が出る福袋  
鏡見てあなたも少し老けたわね

和歌山市 西川 千鶴

鳥取市 大前 安子

この人と生きると決めた星降る夜  
変わり身の早さで上り詰めた人  
嘘の汗流し築いた砂の城  
冬の蝶空の広さを持って余す  
野良猫が良からぬ噂背負って来る

海南市 山中 閑

鳥取市 山野 すみれ

釣鐘の重いうねりの去年今年  
お祝いの喜びこめて筆跳ねる  
七草の歌ときざんでははを恋う  
パチパチパチ香りも色も胡麻はねる  
おばあちゃんと駆け込む孫を抱き寄せる

人間のエゴへ塩っぱい雨が降る  
大木を見上げ静かに深呼吸吸  
美しく見られたいのよコンバクト  
米を研ぐ手に幸せを感じてる  
果てしない旅へまっすぐ進むだけ  
気持よく柏手ひびく初日の出  
物価高味はかわらぬお節重  
朝食は七草がゆと決めている  
三ヶ日ハガキ配達積もる雪  
お年玉忘れてご免物価高  
知りたいは衰えずして耳ダンボ  
母残す水仙きりり咲いて祝  
大丈夫ガンバれるよと母に告ぐ  
毎日がリハ―サルだな案が浮く  
三角のプライド丸くなってくる  
大切な指先だから磨く爪  
ゆりかごに揺られて老後の心配  
満月を連れて今夜は有頂天  
冬の膳豆腐は鍋で踊り出す  
ごゆっくり言った先から片付ける

倉吉市 伊藤嘉昭

冷たき手赤切れしていた亡母偲ぶ

日脚伸び冬至済んだと知らせてる

待ち合せ見つからぬはずマスクにオーバー

正月の顔は明るい妻の笑み

年賀状傘寿越えてもまだつづく

倉吉市 堀かずこ

新年をケアーハウスで迎えるか

年をとるいつしか体重くなる

川柳を思い浮かべる力ある

夢を持つ頭の体操五七五

今年こそ活力のある日を暮らす

倉吉市 宮田風露

屋根の雪トテチトテチと溶ける音

北風にだんだん猫背になつて

凍結路そろりそろりが歩き出す

忘れ物して迷惑かけた金曜日

明日一日を組みたててから床に就く

倉吉市 若松由紀子

難しい話はいつも蚊帳の外

賀状来ぬ友は元気が気にかかる

指切りの小指も今は皸ばかり

出すべきかやめにしようか年賀状

佳句浮かぶペン探す間にもう忘れ

米子市 川本美津子

自分だと認めたくない顔の皸

手品見て脳の回転追いつかず

餅つきの音も聞こえぬ高齢化

幸福色を見つけてみたい今年こそ

亡母の年超えて分かった生きる術

鳥取県 田中重忠

九六まだまだ現役糸切り歯

九六まだまだ元氣くたばらぬ

孫や子が福をもちよるお正月

新雪が心のうさを消してくれ

九六まだまだ穿かぬ紙バック

松江市 相見柳歩

人間と仏を結ぶ長い紐

オフの日にジャズとワインでキメてみる

ためらわず下見重ねる恋の道

神ほとけ重い地球を支えている

アイドルは同じ時代に住む宝

広島市 田桑恵子

美容院出れば粉雪舞っている

雪しんしんCD耳に安らぐ夜

毛筆の卒寿の手紙背筋伸び

毎日が変らぬことの安堵感

鏡餅からバトンを受ける恵方巻

広島市 森 田 博 之

アクセント変えて妻の気惹いてみる

嫌だった父の癖今身に付いた

少し生き過ぎた気もする誕生日

徘徊も今日の予定に入れてある

妻の留守お団子喰って演歌聴く

尾道市 小 畑 宣 之

子や孫も炬燵に集う灯油高

啄木を真似て手を見る人多し

増えて来た財布の中の診察券

恐ろしい一糸乱れぬ行動は

野良犬の独立心と俊敏さ

竹原市 土 井 輝 恵

初詣で私一人が大吉で

瀬戸の嫁姉には姉の倅せが

親心政治家だけはならないで

爺ちゃんが曾孫の家に日参す

若い頃お洒落だったな不精髭

三次市 伊 藤 寿 子

「いらっしやいませ」これしか出来ぬわたくしは

わたくしね五代目みるまで死ねないの

体力を過信していた落し穴

食べてよと隣の柿がサインする

生きてると思って友の電話待つ

山口市 兼 崎 徳 子

焼き餅を食べ過ぎ身体重くなる

ピンチでも心の余白残したい

七草を知らぬ世代が増えてゆく

血液が翔けめぐりだす一目ぼれ

夢ばかり追って気付かぬ落とし穴

津山市 高 橋 由紀女

神様が身近になってくる余生

身の回り片付けながら句を拾う

分かち合う役目は問わず共白髪

諺のようにゆかぬと孫が言う

何回も回す八十路の羅針盤

美作市 岡 本 余 光

人の縁枯れた花でも咲く予感

読みきれぬ地図携えてゆく余生

日に三度目先を変えるギアチェンジ

地球上の混乱囁くウィルスめ

控え目に暮らす修行にとりかかる

松山市 郷 田 み や

綿の木を活けてはんわかお正月

家族写真みんな揃ってマスク顔

触れないでおこう散りそうな山茶花

胸騒ぎ遠回りして逢いに行く

いい人と言われ自分を振り返る

大洲市 花岡 順子

沖繩県 宮 すみれ

すつきりはしたが明日から無職  
目から鱗やと判ったことがある

雑学の知識に窮地救われる

廃屋の庭で雑草背伸びする

ライバルは見上げる位置に立つ出世

福岡県 本田 さくら

朝も少し居ろと布団が放さない

眠れない過去の汚点が顔を出す

雪よ降れ政治の悪を埋めつくせ

三家族揃うこの幸いつまでも

救急車でどこで止まるか耳をピン

唐津市 前田 廣幸

新年へ向けて脱皮のカレンダー

欠点は有るが細けりや四捨五入

年の暮松の廊下に煮え滾る

年金を先ずは持続可能にして

安売りへ鳥インフルが怒り出し

沖繩県 あら さくら

試着して買ったつもりで満たされる

うさぎ年ふざけて飛んだ老い知らず

見栄えよく背後に花をテレワーク

待ちこがれにらめっこするカレンダー

音読に冴えない句でも光り射す

ためらってまばたきの間に売り切れる  
掛け軸に手作りうさぎ子だくさん

はてさてと私見ているハト時計

満月が飛びこんでくる胸の内

大晦日こぼれ陽だまり拭き掃除

余命不明だから手術を受けてみる

どの部位も注油求めている米寿

フクシマが喉元過ぎた脱炭素

東北を壊した海へ汚染水

病院も散髪も混む金曜日

石川県 堀本 のりひろ

初雪に待ってましたと吟醸酒

新春の句会賑わす初づくし

初詣心引き締め初転び

初雪舞う幼心が湧きいずる

初雪やすっかり少女八十路婆

富士見市 中島 通則

ふるさとに納税をする律儀者

保釈金賄賂で払う五輪理事

コロナ禍で無為に過ごしたロスタイム

計算は苦手でも良いキャッシュレス

アバウトに生きる術です四捨五入

大阪市 白谷 よしみ

パンの耳サツと捨てれずちよつと置く  
ちらちらともしもが降つて消えてゆく  
ホーキヨッキヨ音痴で美声春告げる  
わけもなく涙あふれる春もある

大阪市 前川 善之

除夜の鐘世界平和の明日を待つ  
初詣世界平和とお賽銭  
今の世も平和の維持を期待する  
老人よ生きるためには気力持て

堺市 古川 光雄

冬蜂の死骸ぬくもるテレビ裏  
しわしわの顔も化粧で見栄えする  
老いてきた何をするにもどんくさい  
裏表ある心から出る吐息

寝屋川市 坂本 ミヨノ

初風呂に老いは仲良くみがき合う  
セーターの胸ふくらむ娘母うれし  
もう飲みすぎ隠れ寒酒うまそうに  
雑煮重詰めおいしくて御代わりを

三田市 生田 えい子

診察後見えないコロナ連れ帰る  
赤ヘルを取つておばちゃん母の顔  
十八番酔えば口出る武勇伝  
病む私返しきれない人の恩

三田市 木村 マユミ

川柳に愛想つかされつつ楽し  
神頼み今年の願い書き初めに  
物わすれ前頭葉をノックする  
あの世でも共に居たいと犬にいう

三田市 辻 開子

傘寿喜寿共に達成前向いて  
明日があるでも今日一日を大切に  
帰省の娘見えなくなるまで振つてる手  
喜寿迎え体が歳だといひだした

三田市 森 玲子

便利でも使い熟せぬスマホ持つ  
忘れぬよう所々にメモを張る  
高齢講習とうとう来たわ私にも  
寂しいおせちちびりちびりと二人酒

丹波篠山市 澤 良子

子の夢は信じて守る母ごころ  
夫との気まぐれ遠出年三度  
田舎での家の切り盛りやり遂げる  
働いて寂しさ忘れ一ヶ月

丹波篠山市 横溝 安子

口ずさむ昔ながらの数え歌  
気に入りのつけさを着てお茶会に  
衣食住ほどほどに有り豊かです  
みどり豊か光りパネルがじゃまをする

鳥取県 橋谷 静江

正月に里帰りさえ出来ぬ年  
年賀見て友のつながり強くなる  
雪もなく春のようですお正月  
川柳を趣味としてから永らえる

船橋市 中嶋 常葉

潮の香にこの身委ねる風の舵  
冷めぬまま散らした恋の波しぶき  
風紋に荒れ狂う日の走り書き  
捨ててきた数多の恋の微炭酸

東京都 尾畑 なを江

今頃になって菌車かみ合わず  
柿りんご皮ごと食べるわたし流  
焼き芋が姉妹の仲をとりもつて  
睡魔にはおそわれた時あめ含む

京都府 北野 クニオ

大掃除動かぬ男追い出され  
パソコンが故障で仕事捗らず  
賀状止めお互い年をとりました  
パスワード忘れ変更一苦勞

沖縄県 禰 モモト

漢字よりカタカナ文字の流行語  
人見知りあんだ嘘でしょ笑う友  
じわり効く川柳薬年波に  
冷え性に節電出来ぬ暖房費

(前月分) 鳥取市 山野 すみれ

好い歌が耳を優しくくすぐった  
焦点を見つけて君と日々過ごす  
あやまちの数数今は過去にする  
手作りの味噌大根と仲が良い  
泣くと書く笑うと書いて明日と書く

(前月分) 米子市 川本 美津子

シクラメン買って覚えた恋の歌  
旅に出て帰らぬ亡母の年を超え  
私より美人な猫と友は言う  
孫の世話大波小波繰り返す  
コーヒーの香りで和む更年期

(前月分) 広島市 田桑 恵子

大根抜くおでんはどうと問うてくる  
老いの膳煮しめがあつて落ち着ける  
机上の旅乗り換え表にチエック入れ  
カバンからマーチ鳴り出すバスの中  
胸のうち吐露して心軽くなる

「川雑」語録 ⑬

腑に落ちない

岩本素人

私共の称へる新しさは、新しく創り成された新  
しさである。そして私共の古いと称へるのは既に  
類型のものを一度或は度々見たこんなのは珍しく  
ないと言ふ古さである。

(「川柳雑誌」昭和5年4月)

# 愛染帖

新家 完司 選

(投句257名)

白鳥が来たよと母の餅届く

交野市 山野 双葉

(評) 年末に母から送られてきた正月用の餅。添えられた手紙には白鳥のことだけ簡単に……。そのことだけで母の想いが伝わってくる。

あかぎれもしもやけもない令和の子

東大阪市 青木 隆一

(評) 昭和の子に比べると栄養たっぷり、そしてエアコンの普及。加えて、寒風の中で駆け回ることがなくなったことも要因か。

ババシャツを素敵に見せるモデル嬢

鳥取市 福西 茶子

(評) 背筋を伸ばして颯爽と歩けばババシャツも映える。俯いてもたもたしているブランドのブラウスもババシャツに見える。

他力本願寺派当主ですなにか

笠岡市 藤井 智史

(評) 他力に依存してばかりでは自立できないが、他者の力を引き出すのは重要な能力。他力と自力を併せた融合力は無敵だ。

スリッパも古くなつたら棄てられる

宮崎県 惠利 菊江

(評) お客様に出すには失礼か?となつたら捨て時だろう。この「も」が「人間も」にならないよう、高齢者にも温かい福祉社会を。

若返る真つ赤なリンゴ丸かじり

神戸市 横田 次郎

(評) 老人になつてしまつたと嘆いてはますます年寄り臭くなる。何事に対しても、「リンゴを丸かじり」の意気込みで!

小さい春捜す林道あつちこち

大阪市 内田志津子

(評) 季節は確実に刻々と移ろつてゆく。まだ寒風が吹きすさぶ真冬ではあるが、林道のどこかに「小さい春」が芽生えているハズ。

正面からじつくり見たい俺の背な

安来市 原 徳利

(評) まだじつくりと真正面から見たことがない自分の背中。しょぼくれていないだろうか、年寄りじみてはいないだろうか?

トーマスが夢に出てきた七不思議

大阪市 津守 柳伸

(評) 子どもたちに人気のアニメ「きかんしゃトーマス」。特別に好きでもないのだが、夢に出てきて何やら喋っている。不思議〜。

忘却は神に賜る万能薬

宝塚市 丸山 孔一

(評) 悔しいこと、哀しいこと、寂しいこと

等々、全部覚えていたら気が狂つてしまうだろう。元気でおれるのは「忘却」のおかげ。

神戸市 斎藤 隆浩

松茸も秋刀魚も食べず冬が来た

大阪市 石田 孝純

野うさぎがネズミになつた木版画

津山市 高橋由紀女

書き足した年賀が長い文になる

米子市 池田 美穂

紅白は消化不良で除夜の鐘

羽曳野市 黒木ひとみ

つややかに煮えた黒豆福思う

大山市 金子美千代

歯ブラシとスポンジ替えて初日の出

大阪府 高木 道子

年ごとに亡母に似てくる初鏡

鳥取市 岸本 孝子

正月の雑煮で命永らえる

尼崎市 宗 和夫

憲法の前文を読むお正月

大阪市 森 廣子

コロナだし心おきなく寝正月

明石市 桃谷 和郎

アイス舐めなめ駅伝を観る炬燵

浜松市 中田 尚

新春の風にタスキと走りたい

堺市 今井万紗子

戦争とコロナの終わり願掛け  
高橋千賀子

河内長野市

子と同じウサギの干支の破魔矢貰う  
木見谷孝代

土佐清水市

黙々と枝豆食った三が日  
辻内 次根

松山市

三が日も無休 太陽光パネル  
郷田 みや

和歌山市

福音を信じ今年の暦繰る  
上田 紀子

唐津市

てにをはが二社の社説でずれている  
仁部 四郎

死ぬ日まであいつが一歩先だった  
石澤はる子

黒石市

詩人にも鬼にもなつて雪を掻く  
野口 龍

初釜へ母の形見に袖通す  
三田市

冬星座見上げて祈る寒いです  
永田 紀恵

季節感日々薄れても分かる冬  
豊中市

つつがなし酒の匂いのする夕日  
水野 黒鬼

邪な思いで見てるラブシーン  
大阪市

ゴマほどの石が暴れる靴の中  
大沢のり子

元日といえど欠かせぬ常備薬  
大沢のり子

恋の歌はあかん傷口開くから  
大沢のり子

月を見るまだ許せない人がいる  
大沢のり子

七草の名前忘れて粥は食う  
神戸市 近藤 勝正

葉牡丹の笑顔もほめる小正月  
高槻市 初代 正彦

初夢でカラスに頭つつかれた  
米子市 竹村紀の治

元旦に先に逝つたと大なる  
池田市 太田 省三

朝の駅通貨列車の寒い風  
橿原市 居谷真理子

菖蒲にはあの葉以外は似合わない  
豊中市 上出 修

戦争を知らない背に貼るカイロ  
三田市 上田ひとみ

胸躍る頃もあつたな妻のチヨコ  
岡山市 丹下 凱夫

お風呂場の自分の歌に聞き惚れる  
三田市 丹下 凱夫

控え目にか弱い妻に戻りたい  
三田市 丹下 凱夫

もうちょっともうええねんのせめぎ合い  
三田市 丹下 凱夫

人生を下さい 僕にもう一度  
三田市 丹下 凱夫

大欠伸しても耳鳴り止まらない  
三田市 丹下 凱夫

赤ウインナーこれを食べると子に戻る  
三田市 丹下 凱夫

死ぬなよと一食抜いただけなのに  
三田市 丹下 凱夫

目と耳はダメだが足はまだ二本  
三田市 丹下 凱夫

お土産は大阪駅の551  
三田市 丹下 凱夫

湯豆腐という献立もあり冬日  
高槻市 島田千鶴子

夫婦して横着になる厳寒期  
広島市 岸本 清

疲れ取る温い寝床が嬉しいの  
西宮市 高瀬 照枝

寒だけと淋しい冬のひとり旅  
大阪市 大川 桃花

この厚着脱皮したいな春よ来い  
豊中市 松田蟻日路

時々のはあの世覗いて又にする  
大阪市 高杉 千歩

百二歳も血液検査する主治医  
神戸市 能勢 利子

丁寧なお辞儀に頭倍返す  
倉吉市 大羽 雄大

言い訳がざっくり過ぎて笑えます  
佐賀県 真島久美子

親友は二人くらいがちょうどいい  
三原市 笹重 耕三

枕元いつも備えのヘルメット  
大阪府 大浦 福子

タグ付いていてもやらかす前後ろ  
河内長野市 梶原 弘光

七十三なんでこんなに忙しい  
奈良市 大久保真澄

突くなら突けと脇の甘さを売りにする  
男鹿市 伊藤のぶよし

句づくりの前に十指のストレッチ  
弘前市 稲見 則彦

川柳が詠める間は大丈夫  
松山市 栗田 忠士

嬉しいは一番好きな女偏  
富田林市 中村 恵

お隣が小林小森小川さん  
大阪市 中島 幸徳

お隣の心配事を心配し  
東京都 川本真理子

脳味噌も天地返しをしたい老い  
堺市 坂上 淳司

焼きもちを忘れた夫といて淋し  
箕面市 中山 春代

ローソクの火の消えるまで正信僞  
枚方市 丹後屋 肇

無言には無言で微笑みを返す  
黒石市 北山まみどり

愚痴ばかり聞いている耳が欠伸する  
川西市 大坪 一徳

難聴を目でカバーする音も見る  
美作市 岡本 余光

十二色の夢が三原色になる  
松山市 大内せつ子

文庫本の二、三ページが催眠薬  
京都市 清水 英旺

主婦の椅子明け渡したら職が無い  
鳥取市 前田 楓花

血圧の安定剤の猫撫でる  
岡山県 藤澤 照代

雨の日は猫と私とアレクサと  
米子市 妹能令位子

あいまいな関係続く猫と僕  
八幡市 武田 悦寛

検査後の疑い晴れて猫カフェ  
鳥取市 奥田 由美

猫の喧嘩老描かばうお婆ちゃん  
西宮市 福島 弘子

俺様も腹が立ったら鍋磨く  
大阪市 江島谷勝弘

鍋の焦げ落としてちよつと良い気分  
尼崎市 藤田 雪菜

聡太とオヤツ今や令和の風物詩  
神戸市 上田 和宏

炬燵からガメラのようにテレビ見る  
箕面市 広島 巴子

あれやこれ隠れんぼすることがある  
倉吉市 牧野 芳光

右向いて左向いたらもう忘れ  
奈良市 山本 昌代

はける前にやりたいことが山とある  
奈良県 渡辺 富子

遺産など無いがもらった運と知恵  
大阪市 奥村 五月

バランスが命なんですヤジロベエ  
大洲市 花岡 順子

つるつるにだけはなります美人の湯  
尼崎市 山田 耕治

夕焼けの正面にいて立ちくらみ  
鳥取市 倉益 一瑤

わが人生PK戦が二度あった  
宝塚市 岸田 万彩

兎小屋ルンパの走る場所がない  
香芝市 大内 朝子

茶を入れてお仏壇から菓子貰う  
札幌市 三浦 強一

SML眼鏡ずらして確かめる  
鳥取県 斉尾くにこ

妻病んで迷信までも頼りだす  
横浜市 菊地 政勝

ありがとうは心の中の修正ペン  
弘前市 小山内真由美

サーロイン食べたつもりでプロテイン  
大阪市 今村 和男

言い負けたことはないけど後を引く  
鳥取市 狭武 紫陽

質素な暮らしにきつちり税を取る  
橋本市 石田 隆彦

子供でも辛いよと言う生意気な  
沖縄県 禰 モモト

両親の入れ歯へA5神戸肉  
南あわじ市 萩原 狸月

会えるうち逢っておこうが合言葉  
横浜市 川島 良子

唐津市 坂本 蜂朗  
女房との絆を援護したコロナ

鳥取県 門村 幸子  
あたふたと探したマスク顎の下

尾道市 村上 和子  
チャンネルはどこもかしこも食べている

奈良県 長谷川 崇明  
見栄もあり背伸びしました松葉蟹

大阪市 白谷 よしみ  
フワフワの掛布団着るオムライス

河内長野市 中島 一彌  
バーガーはアゴがはずれるから食わん

堺市 村上 玄也  
旬を食べ日本の四季を愛でている

鳥取市 谷口 回春子  
旬の味口に入らぬものばかり

広島市 松尾 信彦  
鍋奉行父のアブナイさしすせそ

岡山市 大石 洋子  
自分はげます言葉探してうんこらしょ

鳥取市 岸本 宏章  
老人に歩きスマホは難しい

越谷市 久保田 千代  
偽りはもう何もない終の章

豊中市 藤井 則彦  
腕時計はずして生きる爽やかさ

香芝市 山下 じゅん子  
目が覚めてサアと気合いでふとん蹴る

神戸市 城戸 誓子  
「おはよう」も個性出ているウオーキング

鳥取県 山下 節子  
こっそりと買ったブランド出番なし

三田市 村田 博  
空飛ぶ車ドローン大きくしただけさ

横浜市 加藤 佳子  
歩いてる体の声を聞きながら

神戸市 輿水 弘  
清澄な朝のあいさつ顎を引く

大阪市 谷口 義  
用事がないようであるおばあさん

唐津市 前田 廣幸  
風袋に加齢も容れて医者診る

河内長野市 森田 旅人  
母の歳超えて広いな芒原

西宮市 北島 邦男  
徘徊せずナビもないのに鮭帰る

貝塚市 石田 ひろ子  
髪染めてわたしのドラマまだ続く

鳥取市 山下 凱柳  
来たるべき老いに備えてジム通い

寝屋川市 川本 信子  
私の欠点を知るのはワタシ

和歌山県 三枝 眞智子  
マイホーム内気な二人抱りどころ

箕面市 出口 セツ子  
生きてゆくパワー一つの愛で良い

米子市 伊塚 美枝子  
家飲みのコロナ正月三年目

寝屋川市 伊達 郁夫  
正月にはいけない盗み酒

大阪市 宇都 満知子  
雨の日もビールを旨くする散歩

大阪市 平井 美智子  
じいちゃんに昼酒禁止令を出す

奈良県 中堀 優  
ああ今日も終わったと行く縄暖簾

羽曳野市 吉村 久仁雄  
しみじみと泣くには丁度いい飲み屋

豊橋市 小松 くみ子  
19度の日本酒さすが血が騒ぐ

境港市 藤原 久直  
酒盛りでつついた話ブーメラン

三田市 大西 重男  
この爺と酒呑み交わす孫娘

豊中市 齋藤 奈津子  
ついうっかり酒が私をしゃべらせる

和歌山県 柏原 夕胡  
糖質ゼロで晩酌の夫婦です

鳥取市 大前 安子  
酒の味孫の土産は別格だ

松山市 柳田 かおる  
車なのに好きなお酒をだしてくる

共選欄

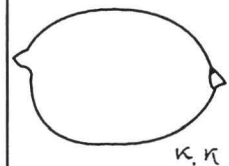
檸

檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句309名)



「かなり」 江島谷 勝弘 選

温暖化かなり北極縮こまる

丹波篠山市

酒井 健二

戦争の記憶がかなり暈けてくる

横浜市

菊地 政勝

舵取りがかなり危ない岸田丸

鳥取市

岸本 宏章

だんだんとおかしい方へ向いて来た

三田市

上田ひとみ

聞く力かなり耳垢詰まってる

大阪市

井丸 昌紀

9条がかなりストレス溜めてます

神戸市

上田 和宏

家計簿にかなり堪える物価高

和歌山市

北原 昭枝

物価高いっそ2食に減らそうか

豊中市

きとうこみつ

少子化もかなり前から言っている

大阪市

岩崎 玲子

洗っても汚れ落ちない五輪の輪

尼崎市

藤井 宏造

かなり高まってきたジェンダーフリー

犬山市

金子美千代

半分は広告で持つ新聞社

八尾市

田邊 浩三

コロナ禍でもかなり儲けた人がいる

大阪市

川端 一步

除雪車がかなりの雪に間に合わず

鳥取市

永原 昌鼓

老いの腰かなり応える雪下ろし

弘前市

福士 慕情

「かなり」 永見 心咲 選

物価高いっそ2食に減らそうか

豊中市

きとうこみつ

この度は根が深そうだ妻の乱

香南市

桑名 孝雄

ワクチン五回もう打ち止めにして欲しい

富士見市

中島 通則

黄昏の恋ですかなり危険です

富田林市

中村 恵

あの家の金となる木はよく育つ

米子市

池田 美穂

お日さまの機嫌で変る電気代

鳥取市

福西 茶子

四捨五入切り上げ好きな計算機

塩竈市

木田比呂朗

羽毛布団出るのに勇気要るのです

三田市

村田 博

最古から不変の愛のカブトガニ

笠岡市

藤井 智史

どんだけがんばってもやせません

河内長野市

森田 旅人

だんだんとおかしい方へ向いて来た

三田市

上田ひとみ

何やかや言うてもぞっこんだと思ふ

和歌山市

柏原 夕胡

ホントウの私はかなり爬虫類

佐賀県

真島久美子

初競りに御祝儀弾む本マグロ

三田市

多田 雅尚

婆ちゃんの筆筒預金が気に掛かる

和歌山市

西川 千鶴

ポスターにかなり鯖読む顔写真  
世襲々々余程良いことあるバッジ  
初詣想像以上参拝者

賽銭手に並び疲れてきたかなり

孫七人かなりの出費お年玉

一月の財布はかなり瘦せている

魚偏がかなりあるけど読めなくて

使うほどエクセルかなり奥深い

能楽堂かなり睡魔とバトルして

S席のはずだがかなり後ろです

千両の重さを知らぬ時代劇

どうしようトイレ休憩長い列

定番のおかきはかなり軽くなり

「優」三つ増えて成績褒められる

まだ白紙考えかなり揺れている

本物だろうかかなり裏地に拘りが

ブランドは大事に使い長く持ち

コロナをいつも持つてる綺麗好き

愛猫と別れた友はまだ癒えず

侮るなかなり場数は踏んでます

言い訳にかなり自慢が混ざってる

随分勝手独り善がりて我儘で

宝塚市 丸山 孔一

三田市 北野 哲男

大阪市 榎本 舞夢

豊中市 松田蟻日路

神戸市 松倉 正美

大阪市 宇都満知子

羽曳野市 磯本 洋一

枚方市 藤村 亜成

東大阪市 青木 隆一

大阪市 高杉 力

河内長野市 三輪くにお

寝屋川市 平松かすみ

岩国市 上村 夢香

大阪市 東 敏郎

西宮市 北島 邦男

松山市 柳田かおる

三田市 辻 開子

松山市 宮尾みのり

和歌山市 定松 宏枝

神戸市 村松 久江

堺市 柿花 和夫

大阪市 森 廣子

子の化粧かなり魔法を使ってる  
ぶりっことも効かなくなった皺の数  
人の十倍飲んだ人生だったよね

盃もグラスも乾して乱れない

少々と言うのはかなりいける口

牛井がかなり軽いぞ物価高

円安がかなりのパンチ食らわせる

物価高飲み食いまでに影落とす

S席のはずだがかなり後ろです

親しいがかなりの距離があつた人

舵取りがかなり危ない岸田丸

美人にはからきし弱い信天翁

コロナをいつも持つてる綺麗好き

回復のかなり何う七分粥

一月の財布はかなり瘦せている

すぐそこと言われ歩けば三時間

徒歩5分わたしの足では15分

敵に塩かなり余裕があるらしい

半分は広告で持つ新聞社

神の手と言われたこともあるらしい

蛸と格闘かなり厳しいキスマーク

世襲々々余程良いことあるバッジ

大阪市 大沢のり子

松江市 藤井 寿代

奈良市 大久保眞澄

尼崎市 山本 百合

松山市 柳田かおる

札幌市 小澤 淳

米子市 後藤美恵子

大阪市 古今堂蕉子

大阪市 高杉 力

枚方市 藤村 亜成

鳥取市 岸本 宏章

船橋市 中嶋 常葉

松山市 宮尾みのり

富田林市 山野 寿之

大阪市 宇都満知子

生駒市 饗庭 風鈴

横浜市 川島 良子

神戸市 米田利恵子

八尾市 田邊 浩三

松山市 栗田 忠士

鳥取県 田中 重忠

三田市 北野 哲男

赤い顔かなり我慢をしているな  
爪隠すかなり上手の嫁と住む  
ちびりちびり妻もかなりの口となる  
盃もグラスも乾して乱れない  
コロナ慣れかなり飲んだぞ楽しくて  
お酒やめたらかかなりの額になるけれど  
婚活で克服 女性恐怖症  
ときめきはかなり昔に置き忘れ  
孫の彼氏にうっとりしてゐる私  
大したもんだ十月十日を耐えたとは  
尿酸値8かかなりのことと言う主治医  
空缶の数に案ずる肝機能  
必要になった手すりか友となる  
腰痛にかなり悩むがまだ生きる  
ギツクリ腰五回目かなり熟練に  
足がつる無理したようだ万歩計  
それなりに自負した記憶力も若い  
物忘れかなりと言えはかなりです  
かなり歳杖も持たずに口達者  
白髪からかなり地肌も顔を出し  
歳とともにかなり萎んだ僕の夢  
限界線見えていたのはかなり前

香芝市	大内 朝子
三田市	生田えい子
三田市	稲角 優子
尼崎市	山本 百合
池田市	倉本 一弥
堺市	内藤 憲彦
笠岡市	藤井 智史
大阪市	岡田 恵子
松江市	藤井 寿代
男鹿市	伊藤のぶよし
松江市	中筋 弘充
豊橋市	西郷紀美代
沖繩県	あらさくら
高槻市	鳥居 宏
神戸市	城戸 誓子
豊中市	松尾美智代
岡山市	藤澤 照代
岡山市	丹下 凱夫
堺市	齋藤さくら
塩竈市	木田比呂朗
神戸市	敏森 廣光
東京都	川本真理子

洗っても汚れ落ちない五輪の輪  
締切日かなり前から知っていた  
破けんばかりの袋詰め放題  
どうしようトイレ休憩長い列  
紙オムツをかなり気にするのは男  
かなりの肩書疲れ切ってたことだろう  
足がつる無理したようだ万歩計  
捨てる服かなりあるのに片づかぬ  
不公平な世をヨッコラさと生きる  
異次元と言いつ出すほどのヤバさかな  
空缶の数に案ずる肝機能  
聞く力かなり耳垢詰まっていた  
温暖化かなり北極縮こまる  
噂ではかなりの酒豪だとワタシ  
年金を貰い始めてかなり経つ  
坂続く脚はもたつき息も切れ  
クラス会かなりかなりとデコ擦る  
遅遅と咲くかなり樹齢のうばざくら  
もしかし一〇〇年の恋だったかも  
薔薇100本かなり奮発してくれた  
コーヒーも冷めてそろそろ別れ時  
本心は作り笑いでラップする

尼崎市	藤井 宏造
大阪市	小野 雅美
八王子市	川名 洋子
寝屋川市	平松かすみ
豊中市	藤井 則彦
倉吉市	宮田 風露
豊中市	松尾美智代
鳥取市	前田 楓花
神戸市	青木 公輔
尼崎市	宗 和夫
豊橋市	西郷紀美代
大阪市	井丸 昌紀
丹波篠山市	酒井 健二
黒石市	石澤はる子
三田市	堀 正和
生駒市	飛永ふりこ
枚方市	藤田 武人
弘前市	今 愁女
沖繩県	あらさくら
東大阪市	北村 賢子
尾道市	村上 和子
越谷市	久保田千代

紙オムツをかなり気にするのは男  
 九十年生かされ何が残せたか  
 かなり気になる同年代のくやみ欄  
 坂続く脚はもたつき息もきれ  
 石段をかなり上ると神に会う  
 揚げ終えるころにはかなり食べている  
 かなり損してます宝くじに株  
 シヤツは虎ズボンにビエーマかなり派手  
 恋終わるかなり派手だと思われて  
 ぼっちゃりと言うがかなりのためです  
 女の目にもかなり綺麗な人でした  
 出会いより別れが多い歳となり  
 コーヒーも冷めてそろそろ別れ時  
 徒歩5分わたしの足では15分  
 百円差かなり遠いが妻は行く  
 ホントウの私はかなり爬虫類  
 念のため絵馬は三枚掛けておく  
 重いねえあ重いねえ老いるって

秀 句

お日さまの機嫌で変る電気代  
 年金を貰い始めてかなり経つ  
 そう言えばかなり前から生きてます

豊中市	藤井 則彦	豊中市	藤井 則彦
出雲市	伊藤 玲峰	三田市	堀 正和
札幌市	三浦 強一	谷口 義	
生駒市	飛永ふりこ		
大阪市	原 幸子		
大阪市	島田 明美		
大阪市	古今堂蕉子		
東大阪市	青木ゆきみ		
神戸市	米田利恵子		
貝塚市	吉道あかね		
藤井寺市	太田扶美代		
西宮市	高橋千賀子		
尾道市	村上 和子		
横浜市	川島 良子		
豊中市	水野 黒鬼		
佐賀県	真島久美子		
大阪市	平井美智子		
橿原市	居谷真理子		
鳥取市	福西 茶子		
三田市	堀 正和		
大阪市	谷口 義		

それなりに自負した記憶力も古い  
 運転はかなり穏やか年だもの  
 自動運転かなり勇気がいりますの  
 かなり自己チューだけど何故だか憎めない  
 物忘れかなりと言えどもかなりです  
 いい仲になっていたんだな露中  
 ストレスをかなり溜めてる日本海  
 人気でた激辛カレー舌が燃え  
 冬ごもり体重計の悲鳴聞く  
 ヘンリーがかなりお熱を上げてます  
 小銭ならかなりたまつておるのです  
 精巧なフェイク動画の恐ろしさ  
 病む人を励ますかなり嘘交せて  
 記憶しています「記憶にありません」  
 もうかなり膨らんでると花便り  
 ちびてきたペン先かなり攻めている  
 重いねえあ重いねえ老いるって  
 フィクションもかなり混じっている自伝

秀 句

平行線からかなり離れたみたいですが  
 吃水線スレスレで浮く宝船  
 円よりもかなり面白そう楕円

岡山県	藤澤 照代	岡山市	丹下 凱夫
美作市	岡本 余光	堺市	柿花 和夫
海南市	山中 閑	奈良市	東 定生
鳥取市	倉益 一瑤	名古屋	山本三樹夫
大阪市	平井美智子	黒石市	北山まみどり
		尼崎市	山田 厚江
		大阪市	岩崎 玲子
		神戸市	富永 恭子
		藤井寺市	太田扶美代
		弘前市	高瀬 霜石
		河内長野市	村上 直樹
		鳥取市	狭武 紫陽
		橿原市	居谷真理子
		大阪市	平井美智子
松山市	大内せつ子		
倉吉市	牧野 芳光		
松江市	中筋 弘充		

「耕す」

梅澤盛夫選

(投句 215名)



農一途祖父の鋤の柄黒光り  
お揃いの軍手を干して春の庭  
休みなく命耕す鼓動きく  
耕した田を駆け回る猪め  
ひと畝耕して三日間寝込む  
ふるりの民話耕す囲炉裏端  
耕して古脳に入れるカタカナ語  
脳に鋤入れたら石にぶつかった  
土地も心も耕していた中村氏  
春耕の土に命の種を蒔く  
耕して登りつめれば千枚田  
民が耕し戦車が踏みつぶす  
戦の不毛人智の鋤が見つからぬ  
ヒマワリも小麦も育てウクライナ  
日本は右へ右へと耕され  
耕せばまだ伸び代のある八十路  
耕せばまだ蘇るかもしれぬ会  
起業家が挑戦する姿見る  
自給率の低下を嘆う休耕田  
こつこつと老いを耕す五七五

岡山県	藤澤 照代	岡山県	藤澤 照代
大阪府	平井美智子	大阪府	平井美智子
大阪府	大浦 福子	大阪府	大浦 福子
倉吉市	宮田 風露	倉吉市	宮田 風露
藤井寺市	鈴木いさお	藤井寺市	鈴木いさお
西予市	黒田 茂代	西予市	黒田 茂代
神戸市	上田 和宏	神戸市	上田 和宏
奈良市	大久保眞澄	奈良市	大久保眞澄
大阪市	平賀 国和	大阪市	平賀 国和
河内長野市	坂野 澄子	河内長野市	坂野 澄子
富山市	伴 よしお	富山市	伴 よしお
豊中市	水野 黒兎	豊中市	水野 黒兎
大阪市	宇都満知子	大阪市	宇都満知子
三田市	堀 正和	三田市	堀 正和
大阪市	江島谷勝弘	大阪市	江島谷勝弘
堺市	澤井 敏治	堺市	澤井 敏治
枚方市	藤村 亜成	枚方市	藤村 亜成
三田市	野口 龍	三田市	野口 龍
堺市	村上 玄也	堺市	村上 玄也
宝塚市	岸田 万彩	宝塚市	岸田 万彩

耕しておこう日が照る雨が降る  
耕せば出るわ出るわの脳のゴミ  
休耕田案山子律儀に立ち続け  
ご先祖の血と汗の田に建つパネル  
耕してミミズ生き生き動きだす  
新聞で頭耕す日の始め  
ポテトチップス北の大地にトラクター  
鋤入れる頑固な土が笑うまで  
春の畑耕し愛の種をまく  
耕運機見事扱う嫁が来た  
四季の空耕す君はもう詩人  
堅物の脳を耕すコミュニケーション  
佳 句

じいちゃんの耕したふかふかの土  
人情と雪の深さを掘っている  
耕せば心はいつも新しい  
満月を吊るして帰る父の鋤  
凍てた土耕し春の色にする  
人

名君の側に名宰相がいる  
地  
畑を打つ鋤から土の気を貰う  
天  
鋤を打つ深さが一日の深さ  
軸  
希望と復興耕し続けてる神戸

東京都	川本真理子	東京都	川本真理子
河内長野市	大島ともこ	河内長野市	大島ともこ
神戸市	近藤 勝正	神戸市	近藤 勝正
川西市	大坪 一徳	川西市	大坪 一徳
尼崎市	近兼 敦子	尼崎市	近兼 敦子
橋本市	石田 隆彦	橋本市	石田 隆彦
松山市	宮尾みのり	松山市	宮尾みのり
郡山市	安藤 敏彦	郡山市	安藤 敏彦
米子市	伊塚美枝子	米子市	伊塚美枝子
大阪府	米澤 俣子	大阪府	米澤 俣子
明石市	穂谷 和郎	明石市	穂谷 和郎
三原市	笹重 耕三	三原市	笹重 耕三
大阪市	大沢のりこ	大阪市	大沢のりこ
黒石市	北山まみどり	黒石市	北山まみどり
和歌山市	柏原 夕胡	和歌山市	柏原 夕胡
岐阜県	喜多村正儀	岐阜県	喜多村正儀
神戸市	みぎわはな	神戸市	みぎわはな
弘前市	高瀬 霜石	弘前市	高瀬 霜石
三田市	北野 哲男	三田市	北野 哲男
佐賀県	真島久美子	佐賀県	真島久美子

# 「パワフル」

柏原夕 胡選  
(投句 209名)



初夢は月まで飛んだフルムーン  
残業をいくらやってもへこたれぬ  
コロナ禍に怯えず凜と前を向く  
飲めばすぐ元気になるるコマーシャル  
週8日あったらいいなマイライフ  
ママチャリで立ち漕ぎしてる古稀の坂  
全力で生きた老後の土いじり  
パワフルな友は失敗恐れぬ  
父になりエツと驚く逞しさ  
パワフルな妻はわが家の守り神  
年金の元は取ったがまだ元氣  
東大は落ちましてんと高笑い  
パワフルな身体に脳が反比例  
パワフルなうさは月へ跳ねたまま  
パワフルなペンだ世相をぶった切る  
勝負眉描いて出かけるデイケアー  
遊べるぞ百才までの二十年  
パワフルな奴もお守り持っている  
懐は寒いが熱き恋心  
掃除機の強で吸い込む鬱その他

三田市	尾崎	一子
倉吉市	牧野	芳光
三木市	山口ヨシエ	
鳥取市	岸本	孝子
豊中市	きとうこみつ	
豊中市	齋藤奈津子	
岐阜県	喜多村正儀	
和歌山市	上田	紀子
唐津市	坂本	蜂朗
鳥取市	谷口回春子	
三田市	堀	正和
大阪市	島田	明美
鳥取市	山下	凱柳
鳥取市	前田	楓花
弘前市	福士	慕情
大阪市	平井美智子	
大阪市	古今堂蕉子	
東大阪市	青木	隆一
弘前市	高瀬	霜石
郡山市	安藤	敏彦

喜寿米寿なんの白寿へウサギ跳び  
パワフルな愛におぼれた桜草  
いつまでもパワフルな桑田佳祐  
大口でパワフルだった京唄子  
クワガタをひっくり返すカブトムシ  
年毎にパワフルになる妻の陰  
断酒した夫朝からよく動く  
タンポポが石の割れ目に咲く命  
ライオンにライバル心を燃やすポチ  
雑草も食べた昭和の底力  
白寿でも老後に備え貯金する  
パワフルな噂流した若かった

佳 句

人

地

天

軸

あのねあのねと堂々の朝帰り パワフルなペン真実を掘り起こす 鳴り響く第九命を揺すられる パワフルだなあ泣き虫を笑わせる 君の眼がずどんと胸を打ち抜いた	投げ出した手足がどこまでも延びる	太陽のパワフルにみな生かされる	オバちゃんがるチラシにマルつけて	令和です靴下よりも強くなる
佐賀県	真島久美子			
西予市	黒田	茂代		
松山市	栗田	忠士		
倉吉市	大羽	雄大		
榎原市	居谷真理子			
黒石市	北山まどり			
香芝市	大内	朝子		
奈良市	大久保真澄			

三原市	笹重	耕三
尾道市	村上	和子
大阪市	江島谷勝弘	
三田市	村田	博
川西市	大坪	一徳
神戸市	みぎわはな	
豊橋市	西郷紀美代	
岡山市	藤澤	照代
大阪市	石田	孝純
大阪市	高杉	力
豊中市	上出	修
米子市	妹能令位子	

# 初級教室

## 題一 スーパー

### 水野 黒 兎

今回の題スーパーではスーパーマーケット  
トしか思い浮かばない難しい題でしたが丹  
念に辞書などで調べたと思われる佳句が寄  
せられ感心しました。

以下、☆は皆様の句、★は参考句です。

☆ スーパーで胸に若葉のレジ係 洋 子

意味をもう少し分かり易くするために

★ スーパーにも若葉マークのレジ係

以下の四人の方は3句とも異なった意味  
のスーパーの句に挑戦されていますが、各  
人1句だけを取り上げてみます。

☆ スーパーコンよ僕の余命を出せないか

和 夫

逆の意味の句にするのもありますね。

★ スーパーコンに余命計算などさせぬ

☆ あこがれるすゝと手助けスパーウー

マン

名都子

多くの分野において素晴らしい能力を発  
揮する女性のことをスーパーウーマンと呼  
ぶようです。手助けの内容がわかると良い  
ですね。字余りは最初に置くと口調が良  
くなります。

★ スーパーウーマンいつも頼りになる助  
言

☆ スーパームーンと皆既月食 つぎは

閑

さて次は？ 少し弾けてみませんか。

★ スーパームーン次は僕らのハネムーン

☆ 子育てに 仕事忙し スーパーママ

弥 生

★ スーパーママ仕事子育て日々料理

☆ 家族連れ スーパー銭湯 旅気分

行 久

★ スーパー銭湯家族を連れて旅気分

☆ 独り居も豪華銭湯旅気分 百 合

★ のんびりと豪華銭湯旅気分

☆ スーパー行く辨当売切れ次走る ミヨノ

★ 弁当が売り切れ次のスーパーへ

☆ メモ片手 吟味しながらかこに入れ

マユミ

★ スーパーに妻のメモ持つ夫たち

☆ 値上げ値上げ店長苦勞しています

尚

★ 店長も苦勞スーパーまた値上げ

☆ 割り引きのシール待つてる6時前

栄 次

★ スーパーで割引を待つ6時前

☆ 日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場

邦 夫

575は原則として一字空けにしないで

OKです。いい場面の句ですね。

★ 日向ぼこ移動スーパー待つ広場

☆ 助かります移動スーパー老いの村

風 露

★ 老いの村移動スーパー待ち焦がれ

☆ セール品つい食べ過ぎて食事制限

律 子

★ 食べ過ぎを誘うスーパー特価品

☆ スーパーマン憧れ飛んだ滑り台

のりひろ

滑り台ではスーパーマンには物足りない  
ので、もつと派手なものに変えてみます。

★ スーパーマンの気分でバンジーエ

ヤツと

☆ スーパーマン阿吽の呼吸餅を掲ぐ

一平

子供のころ見た両親の餅つき風景と解釈してみました。

★ スーパーマンめいて両親餅を掲ぐ

☆ スーパーマン ヒーローはまだ 僕の中

龍

飯に龍さんを古稀と仮定して

★ スーパーマンが今もヒーロー古稀の僕

☆ スーパーより近所馴染のお兄ちゃん

えい子

お兄ちゃんもいいけどもっと具体的に

★ スーパーより近所馴染の酒屋さん

★ スーパーより近所馴染の魚七で

☆ 干しい物書いて出掛けて忘れ物

照枝

★ 欲しい物メモしたけれどまた忘れ

☆ 見切り品選んで並ぶ無人レジ 次郎

順序を逆にした方が川柳としての心理描写が出るようです。

★ 無人レジを選んで並ぶ見切り品

☆ 巡りぐせあちこちスーパーチェックし

に

開子

諸物価値上がりの昨今、くせではなく生

活の知恵ですね。

★ スーパーのチラシをチェック主婦の朝

☆ スーパーのバックしらすにエビ見つけ

えみこ

★ 今日吉しらすバックにエビ見つけ

☆ 邦画にもスーパー入れて聴きとれん

不二夫

この句のスーパーはスーパーインボーズ、つまり字幕のことですね。

★ 聞き取れずスーパー入れて見る邦画

今月の佳句です。

○ 昭和の世母とルンルン主婦の店

栄子

○ スーパーの隣に住んで料理下手

博之

○ スーパーのレジの見事な客さばき

良子

○ 特売のナスを逃したタッチの差

さくら

○ レジ前の団子の誘いお受けする

誓子

○ 老いたのか字幕スーパー読み切れず

静恵

そして3句とも異なった意味のスーパーに挑戦された方々の佳句です。

○ スーパーを読みきれなくて巻き戻す

双葉

外国の番組をビデオで見ている場面とわかる素晴らしい句と思います。

○ 音もなくスピード上げるスーパーカー

ひとみ

○ 戦場にスーパーマンよ現れよ

風鈴

○ 星の謎カミオカンデが追いかける

風鈴

ノーベル賞を受賞された小柴昌俊博士やその後継者による素粒子物理研究施設で岐阜県所在の研究の場となったのがスーパーカミオカンデ。

川柳には「字結び」という用語があります。火という題の場合火曜日も火星もOKというのが「字結び可」、燃える火でないとダメなのが「字結び不可」です。本欄、私の担当の場合字結びも場合によってOKとします。一月号の「雲」の題で雲龍型の発想に拍手したのはその例です。



(投句 186名)

ロシアのウクライナ侵攻から早くも一年が来ようかと言う矢先に、トルコ、シリアで起きた大震災。



現在の死者は四万人強、まだまだ増えていくのは必至、救済の手が届かない中で、寒さや飢えとの戦いを思うと、神の存在を疑ってしまう。瓦礫の下から一人を助け出す戦いと、片やミサイルで多数を殺戮する行為。戦争なんかやっていいる場合か、と叫びたい。

では、ナビを。

奈良県 長谷川 崇明

ありがとう育ててくれた麦御飯

(評) 貧乏人は麦を食え、なんて時代もありましたが、今は健康に対して意識の高い人が食べています。麦御飯万歳！

朝霞市 前田 洋子

ピカピカのお賽銭です神様あ

(評) 神様あ、とピカピカのお賽銭を入

れるくらいしか庶民に出来る事はないのです。戦争も物価高も止めて下さい。

大阪府 高杉 力

恋しくて大きくなったのぞき穴

(評) 恋しい相手を見たいがためについ大きくなってしまった穴、なんというケナゲなこと。

男鹿市 伊藤のぶよし

願いごと平和がなけりや始まらぬ

(評) 本当にこの通り、平和でなければ個人の夢や生活なんて吹っ飛んでしまいます。防衛費ばかりが増えるのは不安。

大阪市 岩崎 玲子

卒婚は辞書を引いてもありません

(評) 卒婚って女性が望む場合が多いらしいですね。家事や様々なしがらみから解き放たれたい気持、分かるなあ。

札幌市 三浦 強一

通帳にお利息ですとある五円

(評) 今どき五円で何が買える思てんねん。だいたいお利息なんて大層なコトバ使わんといてナ。

倉吉市 牧野 芳光

日本を支えています一庶民

(評) 一庶民としてのささやかな誇り、これが報われない社会なんて。今の政治家を見てると心が萎えてしまいます。

大阪府 米澤 俣子

絶好のチャンスに傘が開かない

(評) 今やでえ、と思う時に限って失敗

してしまうこと、ありますワ。練習に練習を重ねていても、アレレなんて。

松山市 大内せつ子

ピアス穴です ずいぶん肩が凝りました

(評) これ、軽いか重いかよりも意識の問題。慣れると平気なものですわ。ピアス穴がつい気になってしまいうですわね。

大阪市 岡田 恵子

春色のクレパスで描く恋模様

(評) 全てが春という季節であふれています。その舞台で繰り広げられる恋模様とは、気になって仕方ありません。

豊中市 藤井 則彦

ブラボーを聞いては覗く遠い夢

侵略が無しとは言えず米備蓄  
コイントス裏も表もきつと吉

高槻市 松岡 篤  
松山市 郷田 みや

買い負けてお米がパンになりました

羽曳野市 徳山みつこ  
弘前市 福士 慕情

神社巡り小銭入れには五円玉

寝屋川市 川本 信子  
米子市 八木 千代

針穴を覗けば母の居た昭和

大吉を差して戻りの稲荷道

笠岡市 藤井 智史  
大阪府 平井美智子

イケメンと隣り合わせになる電車

三田市 大西 重男

ローン済みひとりになったマイホーム

防府市 坂本 加代

ドーナツの真ん中なぜか穴がある

鳥取市 福西 茶子

繋いでもいつかは逃げていくオトコ

弘前市 高瀬 霜石

夢じゃ夢じゃ右肩上がりなんてさあ

西宮市 亀岡 哲子

手作りの迷子札着けウオーキング

尼崎市 近兼 敦子

気合いだけは十分だった初参加

松山市 栗田 忠士

小麦が無ければ米粉でいいじゃない

河内長野市 森田 旅人

華のある駅伝箱根路のカイロ

東大阪市 青木ゆきみ

オークションエラーコインに期待する

松山市 柳田かおる

回しても回してもポケッタティッシュ

三田市 堀 正和

二期作でお米増産しましょうよ

佐賀県 真島久美子

小銭入れやとと彼氏ができました

神戸市 みぎわはな

赤い糸色が褪せても赤い糸

唐津市 前田 廣幸

日向はこしても懐なお寒し

大阪市 井丸 昌紀

正装で賽銭箱に入ります

豊作の米でにぎった塩むすび

尼崎市 藤田 雪菜

縁起物財布の隅でじっとして

東大阪市 青木 隆一

用なしにされたよ豚の貯金箱

大阪市 石橋 直子

裏表見せ強かに世を渡る

河内長野市 中島 一彌

出合いがすべて縁あれと神頼み

熊本市 杉野 羅天

キャッシュレスお金の出番ありませぬ

鳥取市 山下 凱柳

未来図を描く少女の神頼み

奈良市 山本 昌代

嘆くより縁もお金も先ず溜める

枚方市 栃尾 奏子

家丸ごと断捨離せねば間に合わぬ

米子市 伊塚美枝子

加齢だと言われに行くのお医者様

大阪市 古今堂蕉子

何もかも飲み込み闊歩する大地

三田市 山口ヨシエ

電線にブラリ昭和の奴風

枚方市 藤田 武人

目立つようちよつとりボンをつけてみた

豊橋市 小松くみ子

天狗の鼻チヨンと斬りたい反戦派

高槻市 初代 正彦

豊作の祈願ドーンと笛太鼓

クラス会行方知れずが過半数

池田市 太田 省三

ヘルプミー僕の記憶が削られる

黒石市 石澤はる子

さアやるぞ金は無いけど元氣なら

可児市 板山まみ子

太陽を味方に稲の株太る

貝塚市 石田ひろ子

渡し賃そろそろ値上げ時だらう

米子市 池田 美穂

日銀さん刷りすぎですよ札を

大阪市 江島谷勝弘

目配り気配り自分が分からなくなった

松山市 宮尾みのり

ワンコイン買えていたのは昨日まで

寝屋川市 平松かすみ

故郷の海の匂いとハグをする

大阪市 吉積 栄次

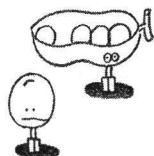
焼けたピザ七等分に四苦八苦

三田市 村田 博

紙幣がいいねお見舞もお祝いも

吹田市 山本希久子

5月号発表  
(3月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# 川柳塔鑑賞

同人吟 内藤 憲彦

— 2月号から

視点変えてもやはり苦手な人でした

小野 雅美

なるほど。天下無双に見えても苦手な人が居るんですよ。いくら視点変えても、やはりお互い人間だものね。

小心者ノーと言えない私です

荒牧 孝子

ノーを言わないほうが進化がきつと早いと思います。ちよつと無理しているところが助けてくれると思います。

ちつぽけな悩み水平線しずか

柳田 かおる

海へ行き水平線を眺めるほどのセンスはありませんが、天王寺ハルカスだとか高い所へ上がつて解消しています。

民間参入月の世界が騒がしい

磯 島 福貴子

今年4月には、日本の民間企業も月面着陸する予定。前澤氏の月旅行など宇宙ビジネスが日本でも騒がしくなりました。

コオロギを食べるやなんてとても無理

大内 朝子

食料危機へ昆虫食が推奨されている。中でもコオロギが有力らしい。今からエビ煎餅で練習しておきましょうか。

ブラボーと言える一年努力する

川 本 信子

W杯の長友選手、侍ブルーから元気を頂いた。あの熱量技量を見習い、我々も良い年にしたい。努力も要るけど。

うさぎ年コロナ賊飛ばす心意気

野 川 宣子

日本も、第5類へウィズコロナへと大きく舵を取る。マスクを掛けたり外したり、リスタートするうさぎ年となる。

病む地球ウルトラマンは匙投げる

稲 見 則彦

経済優先ばかりで病む地球。匙を投げられたらしい。だから天からコロナオミクロンを、地上に遣わされたらしい。

大関が勝つと何だかホツとする

松 岡 篤

初場所は、大関貴景勝が平幕をねじ伏せて優勝。ドングリの背比べの熱戦も面白いが、やはり横綱大関の優勝は締まる。

「ナカムラ」の思いをつなぐ広場出来

加 藤 江里子

アフガンに中村哲追悼広場が完成した。かのタリバン暫定政権も功績を認め死を悼んだという。思いはつながっている。

あの光景—二七巡り来る

福 島 弘子

あの大地震から28年。神戸垂水の両親が、名古屋の僕の家へ命からがら転がり込んで涙を流した。毎年思い出す。

二年間笑つてないが数増える

東 敏郎

コロナの棘が刺さったまんま年を越しました。ほんとうに心から大きく笑つて、少しでも皺を減らしたいですね。

寒いから笑い袋を吊つておく

倉 益 一 瑠

笑い袋は効果観面でしょう。笑い袋が笑うと、つられて僕が笑う。すると笑い袋がまた笑う。温まると思います。

## 少子化に国の財産人と知る

中 井 萌

2100年には6000万人と人口が半分になる。労働力、年金不足など多難。異次元の少子化対策と言いつつ出したいけど。

## 心からのお詫びが伝わるぬ政治

笹 重 耕 三

説明責任を果たすと言いつつ、記憶なし、記録無し、嘘をつく。大臣辞任、議員辞職しかり、お詫びが響かない。

## 日めくりの格言いつもおこつて

後 藤 宏 之

そう言えば「幸運の前では謙虚になれ」「夫婦親子にも礼儀あり」など、毎日叱られています。ありがたいことに。

## 腹立ちを支えるシャドーボクシング

田 中 ゆみ子

妻が、背後で「今に見ている」と私に向かつて、シャドーボクシングをしている光景を想像してしまいました。

## 八十路坂人生ゲームこれからだ

藤 原 久 直

元気を頂ける句で、ありがたいです。あと20年ぐらいあれば、いくつかの目標達成ができそうですね。

## 病なし米寿でビール耐二杯

吉 田 孔 美 子

この句も元気を貰えました。校正編集業務終わりのフワッと一杯と同じ量ですよ。僕が米寿になって呑めるかどうか？

## 「ありがとう」夫が病院から電話

中 村 伸 子

うらやましいです。優しいお気持ちがいっぱい。病気の疲れ、看護の疲れに、お互いの心に沁みたことと思います。

## 友が逝く目刺し一匹分けた仲

村 田 博

これぞ友。3年前に逝った友に麻雀で、マイ61と負けた最後の「成績表」を、僕は今も大切に持っています。

## 山茶花が歩幅5センチ広げると

石 田 孝 純

歩幅5センチはピタシです。これ意識するだけで、背中が伸びて足が伸びて、身体に良いこと間違いなしです。

## この値上げ家計簿投げて妻怒る

奥 村 五 月

食パンが上がり、電気代も上がる。奥様のお気持ちは凄くわかります。八つ当たりは困るけど。

## どこよりもまずはウクライナに春よ

川 本 真理子

女性や子供まで犠牲にする悪逆無道な戦争がまだ続いている。一日でも早く春が訪れますように祈っています。

## 断捨離の次の時代は物不足

菊 地 政 勝

ぜいたくな断捨離志向の時代は終わります。資源枯渇、輸入価格暴騰などで物不足の時代になると指摘。正に慧眼。

## 考えるだけじゃちつとも進まない

坂 裕 之

総理だけが言う「課題に躊躇なく取組み、信頼と共感」に対して、具体的スケジュールと実行だと怒っておられる。

## 一人だとかけやすいので手をつなぐ

藤 井 宏 造

単独行動は危ない。自分でこけるかも、誰かに包丁で突然刺されるかも。近頃はだれかと手をつないでおくと安心。

## 新しい波避けようか乗っかるか

永 見 心 咲

卯年は「飛躍」と「向上」の年らしいので、できるだけ新しい波に乗っかうと思っています。

# 水煙抄鑑賞

— 2月号から

福西茶子

配るものないので笑顔配ります

延寿庵 野 鶴

笑顔を見て怒る人は先ずいません。笑顔で最高のプレゼントですね。幸せな気持ちになり、嬉しくなります。

メガネからはみ出す笑みへ人が寄り

岡村 風 琴

頬骨が眼鏡の下から盛り上がるような笑顔。下五がとても上手いと思います。

裕福になった野菜を貰った日

花岡 順 子

鍋、浸し、炒め物。野菜は何にでも化ける万能食材。嬉しくて娘にもお裾分け。

八十を越えた頃からよく転ぶ

中筋 弘 充

ちよつとした段差、小さな石ころ。若い時は何でもなかった物が凶器に。急がずゆっくりがモットー。

両肩を揺すってみても出ぬ気合

西沢 司 郎

気合いだ！気合いだ！と拳を突き出していたのは昔のこと。ゆつくりとストレッチなどで鍛えましょう。

人生は楽しくゆこうパーを出す

今村 和 男

アッそうですね。パーは何でも包めますね。楽しい話、宇宙の力を一杯つかみ取りましょう。

臓器提供使い古しでいいですか

岡田 恵 子

何でもリサイクル時代です。堂々と提供してお役に立ててください。ただし、年齢制限があるかどうかは・・・

盛り過ぎた言葉ちらかる披露宴

喜多村 正 儀

えッそんな立派な人だったかなあ。盛り過ぎと違いますか？ イヤイヤこれも大切な社交辞令です。

肩の荷の残りひとつが下ろせない

郷田 み や

残りのひとつとは何でしょうか。きつと重いものでしょうね。下ろしたら思いつきり翔んでくださいね。

発熱外来予約取れたら熱が引く

宗 和 夫

本当に的を射た時事川柳ですね。中々電話がつながらない。コロナだったのか、ただの風邪だったのか。

「黒髪」と但し書きあり巫女募集

長尾 千 賀

関係ない？ 巫女募集のチラシよく見つけましたね。思わず笑ってしまいました。黒髪の若い女性、希少な存在です。

てにをはの辺りで妻が尖ってる

白谷 よしみ

男性にとつてはどうでもよい事でも、妻にとつては結構重要な事。奥様を怒らせないように・・・

犬好きが犬に挨拶して通る

河南 すみえ

散歩道でよく出会う犬。飼い主さんの顔は覚えていないけど、ワンちゃんとは互いに近い仲。私もです。

私にはないかも知れぬ羞恥心

西川 千 鶴

ハイハイ同感です。長年培ってきた経験で面もハートも動けなくなっています。それでこそ老人パワー！



# 新家完司のせんりゅう飛行船



## 孫の句もおもしろい

作句上のアドバイスの一つに「孫の句は作らない方がいい」と言われることがあります、これは「孫は可愛いものだから、どうしても自慢臭い句になる」ということ。教訓や標語のように「良いことを言っている句」も面白くありませんが、「自慢している句」も白けてしまいます。

おじいちゃん外で遊べと孫が言う

細川 花門

帰ったら手を洗おうと孫が言う

土橋はるお

自分には甘いと孫が指摘する

見山 温子

かわいいと言わねば怒る孫娘

堀 正和

ああ言えばこう言う孫が出来上がり

森下 順子

はきはきともの言う孫の歯が抜けた

佐々木トミエ

しかし、孫も友人知人と同じように重要な川柳の対象ですから、右のように冷静に客観視すれば面白い句になります。また、オトナは付度して言葉を選びますが、子どもは思ったことをそのまま言うのでときにはドキッとさせられます。

僕も孫もご先祖様の眉をもつ

小島 蘭幸

メンデルの説が正しい孫の鼻

松方 尚義

ああ嫌だ孫に移った歩き方

稲見 則彦

DNA確かに孫はよくしゃべる

楠見 章子

DNA孫もどうやら祭り好き

三浦 強一

隔世遺伝というのでしょうか、子よりも孫の方が祖父母に似ていることがしばしばあります。それも良いところが似て

いればいいのですが、ゲジゲジ眉とか団子鼻とか歩き方など自分でも少し気にしているところだと、何やら自分にも責任があるようで苦笑するしかありません。

充電中孫がドタバタやって来た

田賀八千代

孫が来て無口の夫婦かき回す

奥村 五月

菓子玩具だけでは釣れぬ孫となり

藤本 直

成長の証か孫は顔見せず

井伊 東吉

おこづかい貰うとすぐに帰る孫

秋貞 敏子

孫の部屋用意したのに来てくれぬ

安藤寿美子

友人のように「今からいいですか？」と一言連絡してくれとあれこれ準備も出来るのですが、孫は遠慮などせずいきなりドタバタやってきて引つ掻き回すので大変です。

そのような孫も中学生ともなればなかなかやって来ず、たまに來てもお小遣いを貰うとバイバイ。それはオトナへの第一歩なのですが、祖父母としてはいささか寂しいところ。

簡単にお願ひします孫自慢

伊津野善子

孫自慢早くお帰りたい

中平 亜美

くどくどと猫も座を蹴る孫自慢

山崎三千代

写メールにしてまで孫を見せたいか

安黒登貴枝

孫自慢するほどでない孫二人

森下より子

孫自慢聞きたくないがしてしまう

中筋 弘充

滔々と孫自慢する人は善人なのですが、こちらが引き気味であることに気付かないちよつと鈍い人が多いようです。

また、自慢話は少し聞くだけですぐに満腹になり、「もう充分です」と言いたくなりますが、自分の孫のことになるとついつつ口が滑ってしまうことがあります。

# 最近、郵便着くの遅くない？

藤田 武 人

最近、投句締切などの呼びかけで「郵便事情が悪いのでお早い目にお出しください」とあります。また、柳誌発送などでもご迷惑をおかけしております。

郵便事情が悪くなったのは、様々な背景と時代の流れであります。まず、故・安倍首相による働き方改革の大きな柱は、同一労働同一賃金、長時間労働の是正、高齢者の就労促進等です。また、会社（郵便局）の状況として、郵便に対するニーズの変化、労働環境の改善の必要性、労働力シフトの必要性等。労働力シフトについては、長期的な労働力不足もあります。このように政府と会社側の思惑が一致し、郵便サービスの改正を行いました。

サービス改正には、法律の改正、すなわち郵便法の改正が必要となり、国会の改正法案賛成後、省令を發布し今に至っています。

主たる改正は「送達日数の繰り下げ」「土曜日配達廃止」がメインとなっています。

2月7日本社句会の「お話」では、郵便物の流れや日数表の変化を説明しました。一番お知りになりたい送達日数（お届け日数）の繰り下げにつきましては、下の表を参考にさせていただきます。

## お届け日数の繰り下げ


2021年10月以降、普通扱いとする郵便物及びゆうメールのお届け日数を1日繰り下げます。


○現在おおむね17時までの差し出しで

○現在おおむね17時までの差し出しで

## 翌日配達地域宛

## 翌々日配達地域宛

引受日	配達曜日		
	現在		見直し後
月	火		水
火	水		木
水	木		金
木	金		月
金	土		月
土	月		火
日	月		火

引受日	配達曜日		
	現在		見直し後
月	水		木
火	木		金
水	金		月
木	土		月
金	月		火
土	月		火
日	火		水

「初心者の知らねばならぬこと」より

## ―著名川柳人に訊く―

「川柳雑誌」(昭和27年5月号)

岸本 水府

○川柳をやすくみないこと。

○「人」をつくること。

○川柳入門と同時に(或はそれ以前に)俳句を身につけておくこと。

○ 堀口 塊人

自分の思想を

自分の言葉で

○ 梶元 紋太

○広く知つて深く作ること。

○初めて最近の川柳を知つたと言う今年六十五才のA氏が、どうすれば早く人並になれるかと聞きました。

○私は、まず古今の短詩を渉獵して、いろいろな表現方法のあることを知り、その中の自分の好む方法に準じて毎日一句以上を作つて下さい、と答えました。  
○A氏は、自分は年をとつて居るから、そんな悠暢なことをして居れないと言ひ

ました。私は同情は致しますが、いくら急いでもそれより方法はないと申しました。

○ 須崎 豆秋  
没句検討

初心の頃は誌上や句会で、なんでもないと思つていた句が抜けて自信の句が没になつたりして、腑におちぬことをよく経験するものですが、こうした場合には選者や先輩に聞くとか自分で考え直して見るなりして、何故没になつたかをよく検討して作句の進境をはからねばなりません。小人数の句会などであれば、選者に没句について説明して貰うのもい、ことでしょう。

○ 川上三太郎

一日一度川柳をおもひ  
一日必ず一句を得よ  
わが句はわが子  
愛して誇るな

○ 尼 緑之助

自由ほんばうに――  
笑はれそうだとか、けなされそうだとか  
脅々としては駄目  
禁物は――

ふざけ、茶化し、出たらめ気分  
○ 岡橋 宣介

一、川柳について初めにあまり難かしく考へぬこと。だが、

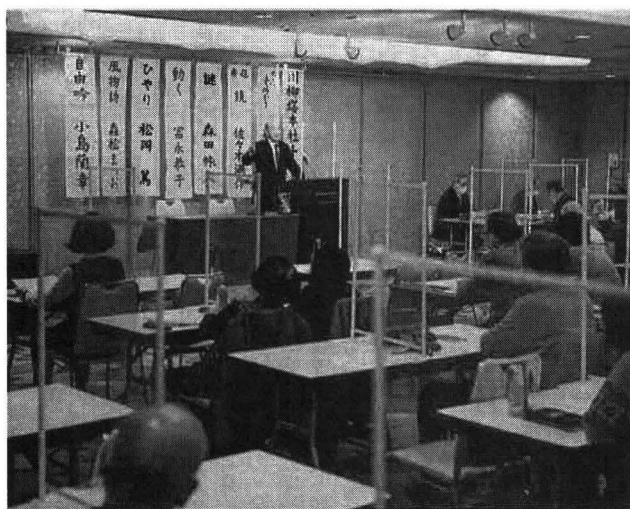
二、誰もがとつつき易い短詩型文藝であるから、短時日で一応の作句修練は出来るが、器用さの安易に甘んじないこと。「器用」に頼ると川柳文藝を甘く見る結果、自惚れる、増上慢になり進歩が止まる。或は川柳を軽蔑して厭になる。

三、初めから川柳の概念を決めてかゝると、自分の信じている觀念以外のものは皆不可ないことになり、他を軽蔑して生意気になり、排他的になり、偏狭になり、その人の短詩型文藝認識の視野を狭め、川柳行動の将来的發展性を阻害する。

四、多読多作は、どの先輩も云うことであるが、真理である。凡ゆる傾向のものを読み、理解を深め、然る後自分の最も正鵠と信ずる方向に信念を確立して進むこと。と云えば固苦しいが、要するに自分の最も好きな方向に進むことである。

○ 村田 周魚  
生活感情を重んじる事

昨年12月7日本社句会に、共同通信社・上野敦氏が新葉館出版・松岡恭子氏の紹介で取材に来られました。以下の記事は、2月6日「山梨日日新聞」からの転載です。なお、「秋田さきがけ」「福島民報」「福井新聞」「岩手日報」「新潟日報」「山形新聞」「中国新聞」「山陰中央新報」にも掲載されました。(編集部)



「川柳塔社」の句会

大阪市天王寺区のホテル

## 「川柳」句会で 心生き生き

### 時事詠に価値／体験と体感うたう

五七五、17音で成る川柳は、俳句と比べて約束事が少なく、作品が扱う間口が広い。失政を「ちくつ」と風刺したり、日常の風景を「くすつ」と笑ってみたり。花鳥詠に「むむつ」となることも。この身近な文芸の今を探ってみた。

大阪市のホテルで開かれた「川柳塔社」の句会におじゃますると、高齢の参加者たちがにぎやかに歓談していた。「謎」「動く」といった題に沿って投句された参加者の作品を選者が選び、発表していく。妻や酒老いといった日常が詠まれ、時折会場から笑いが漏れる。ウクライナでの戦争、五輪汚職などを扱った句もあった。

川柳塔社は大正期に設立され、100年近い歴史を持つ結社。編集人の榮原道夫さんによると、新型コロナウイルス禍の影響で句会が開けない時期があったが、参加者の数は元に戻りつつある。川柳の創作と発表に加えて仲間に出会えるという楽しみがあり、かけがえのない場となっている。

#### 新聞投稿も

「句会は心を活性化してくれる。見学するだけでも大歓迎してくれます」と話す

のは「川柳マガジン」発行人の松岡恭子さん。同誌は結社の連絡先や句会の情報を多く載せている。一方で「あまり出歩きたくない」という方には、新聞や雑誌の川柳欄がある。その方のタイプに合った始め方ではないと思います」とも。

新聞の全国版では時事川柳が目立つが、松岡さんによると川柳全体の主流ではなかった。ここ20年ほどの間に、時事詠の価値が見直されているのだという。同誌は「回文川柳」「洒落川柳<sup>しゃれ</sup>」といった多彩なコーナーを設け、雑詠の選から漏れがちな句を幅広く拾おうとしている。

「リズム良く詠む」「言いたいことを全部は書かない」「句を逃さない」と三つのポイントを挙げてくれた。「時事的な題材を扱っていても、全く古びないすごい作品もあります」

## 日々の指針

入門書は数多く出版されているが、松岡さんは「例句が多く掲載されているものが良い」と話す。松岡さんや栗原さんが「入門者でも、既に始めている人でも役立つ」と教えてくれたのは新家完司著「川柳の理論と実践」(新葉館出版)だ。

実在の矛盾で皿が洗われる	根岸 川柳
聖書一冊菊一輪の二階也	麻生 路郎
三尺の机広大無辺なり	村田 周魚
何かこう樹の芽に物を言いたい日	梶元 紋太
基督のやうな顔して鰻ある	川上三太郎
七福神みんな笑うと気味悪し	岸本 水府
寒そうな他人の顔のわが寒さ	前田 雀郎
元旦の豊早速酒を吸い	延原句沙弥
約束の場所に他人が立っている	時実 新子
雨一夜すこし身になる雅語辞典	尾藤 三柳
ふるさとの雨を聞いてる電話口	柏原幻四郎



「川柳の理論と実践」などの参考書、「川柳マガジン」など

そもそも川柳をなぜ詠むのか。新家さんは同書で「今の自分の姿、今の自分の想いを表明する」という目標を抱くことを勧める。それは思うように句が作れなくなった時の支えになると説く。読み進めると「良い川柳は、体験と体感から生まれる」「先入観は観察の敵」「創作の敵は『無関心』」といった箴言の数々。川柳にとどまらない、日々の指針にもなりそう。

出典「共同通信配信記事」

# 第 46 回全日本川柳 2023 年広島誌上大会

投 句 令和5年5月31日（水）締切

題と選者

一般（高校生も含む）部門

「ワイド」 門 脇 かずお 選（鳥 取）

「領域」 今 田 久 帆 選（静 岡）

「鳩」 鈴 木 順 子 選（愛 知）

「乗る」 田 辺 与 志 魚 選（広 島）

「川」 小 笠 原 望 選（高 知）

「坂」 川 崎 信 彰 選（千 葉）

「映画」 高 瀬 霜 石 選（青 森）

ジュニア（小中学生）部門

「平 和」 仙 波 草 苑 選（愛 媛）

「渡る」 西 恵 美 子 選（宮 城）

「ペン」 小 梶 忠 雄 選（滋 賀）

全日本川柳広島大会実行委員長 弘 兼 秀 子

専用紙のない方は2×16 cmの句箋紙一枚に一句を記入、

各題二句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。

投句料 二、〇〇〇円（定額小為替・現金書留）を同封

して左記あてに郵送または郵便振替口座へ送金のこと。

（当日消印有効）小中高生は投句料無料。

投句先 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北

1の11 ステップイン南森町905

一般社団法人全日本川柳協会 宛

電 話 06（6352）2210

FAX 06（6352）2433

郵便振替口座 009700913575

第二次選者

岡 崎 守（北海道） 渡 辺 松 風（秋 田）

安 藤 波 瑠（東京） 赤 松 ますみ（大 阪）

矢 沢 和 女（兵庫）

# 本社 二月句会

◇二月七日(火)午後一時  
アウイーナ大阪

曆の上では春、心なしか暖かい7日、本社句会は、105名(うち投句者14名)の参加で開催された。初出席は大阪市の田原康雄さん。今月のお話は藤田武人さん。題は「最近、郵便着くの遅くない?」。会場が大きく傾くなか、確かに遅くなっているその背景や、普通郵便の利用が減っていること、国の求める働き方改革に見合うだけの人手がないこと、土曜配達廃止に伴って速達料金が下がったこと、土日も配達する別のサービスがあること、など、現職の立場からわかりやすくお話ししてください。

郵便物が手元に届く流れもお聞きしたので、私達はできるだけ早く、最終集配時間間に合うように投函することを心がけることで、投句が間に合わなかったという後悔をしないで済むように、上手に郵便を利用したいものです。

(眞澄)

月間賞は平井美智子さん(大阪市)

(司会)眞理子・志津子(協取)奏子・こみつ

(受付)萌・さくら(懸垂幕墨書)耕治

(清記)憲彦・勝弘・国和

## 「外」 緒方美津子 選

腹が立つ外面だけは良い亭主  
外ではワンマン家では妻の尻の下  
外向きの顔は天女の鬼子母神  
帰ったらうがい手洗い皿洗い  
外面はよいが家族は泣いている  
外からの声を聞かない独裁者  
春めいてコートボタン外す風  
海外の地震の報に胸塞ぐ  
外堀をうめる闘志満満すみれ棋士  
夢を買うんや外れても買う宝くじ  
インバンド来ないと日本さびれゆく  
外は雪猪鍋囲む隠れ宿  
外は寒い独りの家はなお寒い  
しばらくは行く気はしない回る寿司  
中身より外見が大事プレゼント  
外国人ふえて嬉しい奈良のシカ  
外から見ればおしどり夫婦しています

島田 握夢  
柿花 和夫  
みぎわはな  
島田 明美  
木本 朱夏  
木本 朱夏  
山野 寿之  
稲葉 良岩  
酒井 紀華  
森 菊江  
西出 楓楽  
油谷 克己  
居谷眞理子  
きとうこみつ  
斎藤 隆浩  
山下じゅん子  
川端 一步

外出がいちばん薬ボケ防止  
強かにまず外堀を埋める舌  
妻女子会僕は外食ワンコイン  
国の外出ると日本が見えてくる  
内股で歩き外反母趾になる  
輪の外へ踏み出す子等待つ未来  
外は冬中は家族で温め合い  
日野美歌の水雨が好きでよく歌う  
はずされたお陰で外側から見る余裕  
外から見ても他人の悩み分らない  
蚊帳の外でも息してる生きている  
力抜く謎が案外とけていく  
外面は内弁慶で大人しい  
外に出りや笑顔家ではぶつちよ面  
ギャーギャーと外から言うな内は内  
外は雪白紙に戻し出直そう  
スマホ買い戦力外になった辞書  
老いのプラン予定は未定風任せ  
巣立つ子が世間に見せる外の顔  
外交のへたな日本はがゆいな

新家 完司  
藤田 武人  
松岡 篤  
敏森 廣光  
谷口 東風  
梶谷 和郎  
松岡 篤  
江島谷勝弘  
矢倉 五月  
森 廣子  
松田蟻日呂  
内藤 憲彦  
木嶋 盛隆  
飛水ふりこ  
江島谷勝弘  
梶谷 和郎  
藤田 雪菜  
今井万紗子  
饗庭 風鈴  
野口 龍

戦力外だが休まず来ています  
外遊び忘れて子等のゲーム漬け

山田 耕治  
宇都満知子

外堀を埋めて守りを盤石に

坂 裕之

近寄るとあなたどなたと逃げる母

敏森 廣光

真つ黒に近いグレーの朝帰り

川端 六点

日本捨て海外移住するヤング

坂上 淳司

ご近所はボツンボツンと一里先

島田 明美

墓仕舞い近所の寺へ呼ぶ先祖

矢倉 五月

人

水野 黒兎

絶滅の危機近付いているヒト科

柿花 和夫

遠距離の恋愛はやっぱりつまらない

島田 握夢

コメンテーター部外者だから好きなこと

両澤行兵衛

お隣と長電話するお付き合い

川端 六点

行きつけと言ってるけれど近だけ

稲葉 良岩

地

水野 黒兎

近くまで来ても寄つてはなりませぬ

島田 明美

正解に極めて近い不正解

今村 和男

外は雨うちは嵐の遺産分け

水野 黒兎

砂かぶりの和服の美女が気にかかる

森田 旅人

ひっそりとお傍で咲いていいですか

山崎 武彦

天

荻野 浩子

近々とは見れば蜘蛛にも違ふ顔

森田 旅人

さくらが近いとそわそわします日本人

坂 裕之

外野からはかり吠えてるアカンタレ

荻野 浩子

近づくほど点しか見えぬ点描画

鴨谷瑠美子

いい事が近々やつて来るらしい

木本 朱夏

軸

三年振り嬉嬉としてゐる外野席

球根の丸さに春はもう近い

小島 蘭幸

永久菌生えて脱皮の日も近い

木本 朱夏

兼題「近い」

中村 惠選

義理チョコをいただいてから近くなる

山田 耕治

あの世など公民館の裏あたり

新家 完司

すぐ横ではほえんでいた青い鳥

平井美智子

どきどきが聞こえはせぬか近すぎる

富永 恭子

退院は間もなく放つ千の鶴

山野 寿之

兼題「近い」

中村 惠選

距離感の近さ戸惑う初対面

青木 隆一

子の未来近道だけは教えない

油谷 克己

ふる里を友の詠りが近くする

水野 黒兎

すぐそばでじつくり見つめたらアカン

藤井 宏造

天

山野 寿之

忘れましょ5分たつたらもう明日

居谷真理子

すぐ傍でにやりと立っている老化

平井美智子

軸

油谷 克己

近すぎて妻の長所がわからない

平松かすみ

爆発した母ちゃんちよつと近寄れぬ

森 菊江

もどかしい思いこんなに近いのに

油谷 克己

結婚は近いうちにでもう五年

斎藤 隆浩

水音の近さと吐息がでてしまう

梶尾 奏子

兼題「不良」

初代 正彦選

駅近くへ引越しをする老い二人

奥澤洋次郎

這つても帰れるとこに飲み屋さん

新家 完司

兼題「不良」

初代 正彦選

近いから立ち寄つて行く古木屋

惠利 菊江

陸橋を行けば近いと言われても

米田利恵子

兼題「不良」

初代 正彦選

近道をとり渋滞に巻き込まれ

伏見 雅明

タクシーを呼ぶには近い診療所

萩原 狸月

兼題「不良」

初代 正彦選

近過ぎて自分の鼻がよく見えぬ

太田 昭

近くても三日かかって着くハガキ

山野 寿之

兼題「不良」

初代 正彦選

近過ぎて手先届かぬ背の痒み

桃谷 和郎

兼題「不良」

初代 正彦選

兼題「不良」

初代 正彦選

兼題「不良」

初代 正彦選

兼題「不良」

初代 正彦選

兼題「不良」

初代 正彦選

成熟の不良気になる我が余生

手足腰多少不良も全自動

次々と故障家電も私も

ぐれてたが人を殺めたことはない

呑助のカルテ栄養不良なり

不良でも人氣があつた人情派

不良品の方に仕分けをされている

悪妻じゃないの悪妻です私

傷一つ付いてリングは不良品

昔むかし番長だった好好爺

元不良今は立派な補導員

織りむらがあるから買った二張羅

エレキギター弾いて不良と言われた日

視界不良いやいやこれも加齢です

大臣になって見つかる不良品

エラー切手エラーコインに付く高値

不良品ださぬ覚悟の町工場

荒野のならず者戦地のし歩く

薄めても汚染の水は不良品

不良仲間のみな出世しております

不良少女一皮むけて二兎の母

返すあてあるか疑問の国のツケ

スツと立ち席を譲ったリーゼント

藤井 則彦

長谷川崇明

上田ひとみ

澤井 敏治

平松かすみ

青木ゆきみ

平井美智子

伊達 郁夫

森 廣子

島田 明美

鈴木いさお

居谷真理子

古今堂蕉子

今井万紗子

奥澤洋次郎

村田 博

森田 旅人

饗庭 風鈴

澤井 敏治

小島 蘭幸

柴本ばつは

水野 黒兎

栃尾 奏子

不良から更生世界チャンピオン

育ち過ぎは不良とされる野菜たち

整備不良とり替え部品ありません

不良ぶる少年の意気秘密基地

爺ちゃんちよつと不良がよくもてる

盛り場においても不良と限らない

電池切れのわたくし不良品かしら

賞味期限切れたぐらいいは気にしない

体調不良今日は主婦の座ゆずります

不良ばあちゃん氣力体力金もいる

熱爛ならリズム整う不整脈

住

チョイ悪のオヤジになって羽ばたいた

うららかに視界不良の花霞

終章はやんちゃな風と踏むマンボ

ワルと思つていたのにどこか合う波長

札つきのきみに溺れるこれも恋

人

ジエムスディーン拗ねた瞳が好きだった

地

不良餓鬼の悲しそうな目夕間暮れ

天

ぶつてるが本当は親が好きなんだ

油谷 克己

水野 黒兎

古今堂蕉子

上田 和宏

敏森 廣光

川端 六点

柿花 和夫

川端 一步

折田あきこ

宇都満知子

内藤 憲彦

西上 遊二

木本 朱夏

桑原すゝ代

たむらあきこ

たむらあきこ

加藤江里子

奥澤洋次郎

坂 裕之

軸

ちよいワルを未だに氣取る寂しがり

兼題「売り」 鴨谷瑠美子 選

議員席欠伸居眠り恥を売り

「売れます」その氣にさせるコマース

現品限りつて次々出してくる

ハウマッチ売り言葉なら買いまっせ

縁日に売りの声でついひとつ

優しさを売りにしているのはズルイ

物売りの声いまや昭和の風物詩

列をなす弁当売り場昼休み

若さ売り実力つけた董ちゃん

売り言葉買ひ手がなくて宙に浮く

押し売りに勝つよ大阪のおばちゃん

宝くじ売り場の景氣いいのぼり

乙羽信子えくぼが売りの大女優

安売りは元氣がないと行けません

昔はあつたバナナ並べて叩き売り

売り値見て赤いセーター飛びついた

少子化に売り場の減つた子供服

味氣ない時代ネットで福袋

売り言葉に麻生太郎は喧嘩腰

仁部 四郎

川本 信子

島田 握夢

木嶋 盛隆

藤田 雪菜

立蔵 信子

澤井 敏治

平賀 国和

川端 一步

青木 隆一

藤田 武人

きとうこみつ

鈴木いさお

田中 廣子

今井万紗子

齋藤さくら

水野 黒兎

高杉 力

村田 博

旁わりを売っていますと涼しい瞳  
粗食にも耐えられるのが僕の売り  
売り物じゃないと言われりや欲しくなる  
雑学を売り歩いてる評論家

柄尾 奏子  
新家 完司  
斎藤 隆浩  
柿花 和夫

見舞い客健康自慢して帰る  
通夜の席株価の話しだす友  
読経中何食べたいと妻の声  
着メロが八木節だった葬儀場  
泣きもせず笑いもせずにスマホ族

一人ではうろろ出来ぬこの売り場  
夢売りの駅の切符はさくら色  
中村 恵

居谷真理子  
桑原すゝ代  
荻野 浩子  
坂上 淳司

熱戦のグラウンドに猫迷い込む  
熱戦へエラー追し出しかくし球  
残塁の数は負けないタイガース  
飲み会へわざと遅れてくる美人  
乾杯はひと言だけでいいのです

面接で得意の喉を張り上げる  
ペットショップ売られる子犬よく懐く  
今井万紗子

両澤行兵衛  
今井万紗子  
古今堂蕉子  
藤井 宏造

大久保真澄  
青木 隆一  
山崎 武彦  
小野 雅美

Tシャツを売りにしているゼレンスキー  
コロナ下の売人は死んだよう  
古今堂蕉子

落選で会釈返さぬ人になり  
お土産を買うのも公務公用車  
また同じコピペうんざりだよ総理  
反省をしますと政治家のつべらぼう  
回答は善処しますともう三度

鍋囲みさあと思えばボン酢ない  
大声で説教してる酒の席  
ボスからの電話に熱燗も冷める  
割り勘へ二杯も飲むか森伊蔵  
少しならいけると言つて底がない

この国の売りは9条ですやんか  
売り出しの若い女優は目がきれい  
売れば売るほど嫌われる媚びである  
売り言葉受けて立つたら目がバンダ  
くちコミのパン屋焼きたて売り切れる

異次元の子育て支援笑つちゃう  
慣れているのか淀みないプロポーズ  
自慢話のつべらぼうできている  
特選は今日も社長の孫やつた

上手くもないのにマイクを離さない  
祝辞中デカイ音たて鼻をかむ  
ネタバレと知らず演じている手品  
動員のサクラの拍手バラバラと

立蔵 信子  
田原 康雄  
田中 廣子  
居谷真理子

兼題「しらける」 新家 完司 選  
伏見 雅明  
仁部 四郎  
水野 黒兎  
坂上 淳司  
奥澤洋次郎  
長谷川崇明  
木本 朱夏  
小野 雅美  
酒井 紀華  
榎尾 奏子

島田 明美  
伊達 郁夫  
田原 康雄  
両澤行兵衛  
平井美智子  
初代 正彦  
川端 六次  
長谷川崇明  
小野 雅美  
山崎 武彦  
青木 隆一  
大久保真澄  
青木ゆきみ  
齋藤さくら  
初代 正彦  
谷口 東風  
谷口 東風  
山田 耕治  
木嶋 盛隆  
鈴木いさお  
山下じゅん子  
桃谷 和郎  
松岡 篤

佳

ブーチンに喧嘩売られたウクライナ  
売りものと言われてわたし育てられ

長谷川崇明  
平松かすみ

松岡 篤

お歳暮にまぎれ込んでた領収書  
容姿端麗に限ると念を押したのに  
しゃあないなあ妻の背中を掻いてやる  
婆ちゃんが長湯している美人の湯

佳

全員正解でスカミたいなクイズ  
傘寿を前に美人薄命などと言う  
妹と間違えられて誉められる  
最初はグーパーを出してるのは誰や  
あれこれと老後案じてくれた詐欺

人

悪口の途中本人やってきた  
青木ゆきみ

地

いつもすぐどういう意味と訊いてくる  
稲葉 良岩

天

号泣の隣で雲を追っている  
中村 恵

軸

輪の中の一人が欠伸また欠伸

兼題「自由吟」

小島 蘭幸 選

未来より過去が重たい歳になり  
小骨まで拾ってくれと言いません  
おいしいと観光客が言う田舎  
白菜がドンと届いて腕まくり

北野 哲男  
太田 昭  
萩原 狸月  
森 菊江

五七五の上達願う子規墓前  
きのう今日忘れぬために書く日記  
いつからか姉さん女房のような顔  
レストラン出てレディオパチャンに戻る

正直に生きて代償求めない

一人遊びに風の囁き花の笑み  
弱音吐くまぶたの裏の君にだけ  
恋占いお願いしますまだ傘寿  
こだわりは捨てた心が洗われた  
スポットの当らぬ所にいた狸

上下する血圧におちよくられています

湯タンポ抱いてわたしの孤独温める  
たてがみは白く少くはや傘寿  
孫に見る我が片鱗の血を思う  
お祝いのメールが春の風に乗る  
山に雪僕の帽子は新しい

来てもえけどカップラーメンしかないで

地球まだ元気ですよと寒波来る  
生きるだけに力尽くしているのです  
広めたい話内緒と言っておく

代わってやりたいと母は泣いていた  
あっちこちパワースポット飲み屋街  
プランコも冬のベンチも日向はこ  
「私を信じて」と言える首相がいるドイツ

平賀 国和

酒井 紀華

島田 握夢

失 名

川端 一步

森 廣子

稲葉 良岩

新家 完司

青木 隆一

古今堂蕉子

島田 握夢

今井万紗子

水野 黒兎

油谷 克己

立蔵 信子

鴨谷瑠美子

江島谷勝弘

藤田 雪菜

中村 恵

斎藤 隆浩

島田 明美

酒井 健二

宇都満知子

木枯しがビューと私を抱きに来る

いつだっておごってくれるおにいちゃん

平凡な日々添えましますたまこやき

大好きな人の視線に友がいる

もうすこしで逢える遺影と酌みかわす

鯨でも一度迷うと戻れない

夕焼けへ旅も終わりの時刻表

記憶から失せぬ竹槍持ったこと

訳あつてカチュウシヤ歌うのをやめた

つつましく冬の葦として生きる

世の中を深夜ラジオで知りました

缶蹴り缶は持つてくるけど独り

友達とゆう男を連れてくるらしい

眼差しが保護司のような妻という

サユリスト六十年も浮気せず

赤ちゃんがわらった桃の花咲いた

トイレの電気妻は注意するけれど

ありがとうと言ったら日溜りになった

軸

天

地

人

木本 朱夏

桃谷 和郎

藤井 宏造

栃尾 奏子

小野 雅美

たむらあきこ

安福 和夫

桑原すゝ代

平松かすみ

柿花 和夫

木本 朱夏

青木ゆきみ

居谷真理子

中岡千代美

吉村久仁雄

谷口 東風

木本 朱夏

平井美智子

# 月刊 文藝 春秋

毎月24日締切・35句以内厳守  
 掲載は原稿到着順となります。  
 楷書で誤字のないようお願いします。  
 編集部

## 和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

まだ出来る炊事洗濯面白い物  
 休むこと知らぬ水車の如き母  
 笑い声ぐんぐん運を引き寄せる  
 働くと錆びた五感も生き返る  
 白旗を揚げる勇氣は持っている  
 土壇場は気合いを入れて深呼吸  
 前の家祝日の旗欠かさない  
 欠点を子に諭されて苦笑い  
 病から学び再起の旗揚げる  
 本音からボキボキ折れる音が出る  
 晩秋の記憶の中の頭文字  
 中立の旗がいちばん揺れている  
 定年で働き終えて職探し

農に生き農に死んでも悔いはない  
 思い切り笑って心お洗濯  
 一日一善笑顔の預金積み立てる  
 身の丈に暮らして笑顔忘れない  
 働くのが好きで始めたボランティア  
 ライバルにはほえみかけてくる遺影  
 一生をあなたに尽くす笑い皺  
 お子様ランチ旗がついてた百貨店  
 食欲の秋が笑顔で攻めてくる  
 働いた過去に感謝の年金日  
 小旗振り陛下迎えて町がわく  
 元気です今日も笑顔で病院へ  
 国旗には国の歴史がつまってる  
 働いて逝った夫に感謝のみ  
 働ける強い身体に感謝する  
 働いて初めて金の値打ち知る  
 働くの楽しくなった定年後  
 泥まみれ働く父が誇らしい  
 がむしゃらに働いた頃懐かしむ  
 失恋も笑い話になる風化  
 腹からの笑いに軽くなる五体  
 無謀です妻に反旗を翻す

満喜子  
 眞智子  
 明子  
 純子  
 彦弘  
 義泰  
 あき子  
 和美  
 よしこ  
 悦男  
 康則  
 俊介  
 智子  
 愛子  
 徳和  
 明美  
 文彦  
 久雄  
 まつ子  
 澄夫  
 幸  
 千鶴

南大阪川柳会  
 松岡  
 篤報

この厚着脱皮したいな春よ来い  
 もう一度脱皮のチャンスくださいな  
 思春期の脱皮大人になるもだえ  
 若き日の思い出抱くや赤い靴  
 赤字でもローカル線は残すべし  
 赤提灯誘蛾灯にも似て誘う  
 赤提灯僕をまつすぐ帰らせぬ  
 日の丸の赤は平和という折り  
 家計赤小遣い減らし耐えている  
 役立たず期待されずに風まかせ  
 妻臥せる心に寒い風抜ける  
 進化の風は古いわたしに暴風雨  
 風吹けど桶屋ちつとも儲からず  
 風になりもう許す気になっている  
 団結の力は風を巻き起こす  
 葬送の身に染みわたる虎落笛  
 我が道を行けば覚悟の向い風  
 温暖化風車だけでは止められぬ  
 小鳥たち楽しそうです夜明け前  
 日当たりに鳥が窓辺に来て喋る

蟻日路  
 三智  
 楓楽  
 弘子  
 直子  
 蕉子  
 志津子  
 満作  
 国和  
 峰子  
 穂夫  
 志華子  
 風羅  
 力  
 柳伸  
 敏治  
 俊雄  
 博  
 勝弘  
 ひさ乃

公園で鳩も雀も俺を待つ

実

ニワトリは避けたい生まれ変わっても

東風

クリスマス受難の鳥にナンマイダ

篤

ビルの屋根鳥食糧持参なり

シマ子

慕っても数の足りない青い鳥

常男

世界みな平和を願う渡り鳥

柳右子

毎日の気付きの中に青い鳥

まゆみ

ウィルスにかかると鳥も哀れです

江

耳そうじ小春日和の父の膝

双葉

正月に観るため録画溜めておく

亜成

余生とはこんなもんかと米を研ぐ

千鶴子

いい話今日いちばんのご馳走だ

一歩

あなたからブサイクと言われたくない

いさお

お喋りでたっぷり学ぶ友がいる

加お里

食べるのにお金いるのが人間だ

ばっは

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

ざわざわさし携帯鳴って聞こえない

貴恵

ざわざわと雑魚をはき出す地引網

重忠

上下する株価ざわざわ蚊帳の外

三津子

人間が来るとざわつく山の木々

完司

何の因果で梨泰院のハロウィンに

芳光

ニュース見て情報掴み世間読み

悦子

幸運を掴むチャンスは皆平等

リハビリで妻の手掴み歩く日々

エキサイトするバーゲンの掴み取り

命綱掴んで一世紀生きる

聴診器に胸も背中も掴まれる

瞬間に言葉のシャワー驚掴み

ほろ酔うて掴みたくなる臘月

コロナ禍へせめて門松華やかに

日本人横綱の門固そうだ

天国の門の前には閻魔様

門札に亡き夫も居て二人住む

門柱も門扉も無いよ通りゃんせ

校門を出たら暮れまで帰らない

泥棒も神も等しく通す門

新春に我が家一門そろい踏み

城北川柳会(大阪)

近藤

火の用心一筆書きで巡る町

福娘面接行ったことがある

ぴょんと羽私も欲しいお年玉

穏やかに身の程知って発泡酒

福祿寿見たら忘れぬその頭

滋

清

紀の治

石花菜

美ッ千

紀子

節子

芳江

陽之助

富隆

久米代

宣子

義人

重利

照彦

くにこ

正報

章

ゆきみ

杵香

榮子

隆一

笹重耕三選

戒めの雨斜めから降って来る

(小)雅美

ばあちゃんの家で一番よく食べる

和子

フリリのかわいいドレスきてみたい

沙弥

背中にも目があるような母でした

ふみ

あああれもこれも出来ない歳になる

泰子

私だってまばゆい鎖骨だったのに

千代美

老いたけどやっぱいいな妻のひざ

宏造

ちよつとだけ聞こえるようにほやきます

ゆきみ

くつきりと虹の架かっている返事

かこ

冬に陽が温い双子の乳母車

黒兎

佳句地十選

(2月号から)

雪本珠子選

魂を磨き白寿まで生きる

晴美

窓際に座れば見える人のエゴ

桂子

オリバラの裏側闇の金動く

義泰

きつちりと飲んでる薬なせ余る

貫一

老いたけどやっぱいいな妻のひざ

宏造

夕べまであった記憶を探す朝

狸月

苦勞話ゴツゴツ指が語り出す

航太郎

人生の節目節目にいた恩師

幸彦

北風にびくともしないメールくる

(立)信子

やるだけはやっつた冬の空仰ぐ

ダン吉

一番星あの輝きはきつと母  
 お車代何と諭吉やうふふふ  
 福笑いとにかく笑うお正月  
 穏やかな暮らしに刀を錆びつかせ  
 裕福にほど遠くとも今の幸  
 大きな成功ラッキーと言う実力者  
 穏やかな口調できついことを言う  
 保育園日本一の孫だらけ  
 ブラボーがたつぷりあれと鈴鳴らす  
 裕福に無縁ふわーと倅せで  
 正月に生まれ祝福二倍です  
 不安増す明日の命知れぬ身が  
 夜明け前一番鶏が窓叩く  
 ラッキーはいい友だちに恵まれる  
 神様が気付いて呉れるまで叫ぶ  
 穏やかな弥勒の笑みに溶けて行き  
 春の日のそぞく心に湧く希望  
 ひとりっ子の娘が世帯持つて春  
 傘寿まで生きて歩いてありがたい  
 一番星遊び呆けて山の端に  
 私と三毛と小亀が住む暮らし  
 助っ人はバースが一番だったなあ  
 老い一人一番風呂は終い風呂

福貴子 繁子 峰子 俊雄 満知子 廣光 実 北舟 洋志 千恵子 宗鉄 克己 万紗子 一步 郁夫 野鶴 朝子 こみつ 賢子 捷二 久美子 黒兎 宏造

日向ぼこセカンドラブです老い二人 千賀  
 現実派やっぱり見たい初夢を 義明  
 お正月こたつが私離さない 恭子  
 ジャリ銭を郵貯にしたら手数料 篤  
 コロナ滅亡へ倅必死の医学生 信子  
 去年一年何をしたかと問う年始 かずお  
 ミサイルが引き裂く飢餓の青い空 星雨  
 竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

弘子 千代美 敬子 夢香 輝恵 日出夫 慶子 節夫 栄香 昭紀 蘭幸 節生 笑子 比呂子

一步出す何をしようとしてたっけ 京子  
 あれやこれ忘れることで幸せに 宣之  
 忘れ物よくするけれど優等生 和子  
 大臣になると忘れてばかりいる 白狐  
 価値観はみんな違ふと良い仲間 歩美  
 忘れな草忘れたい事ばかりあり 貞子  
 サッカーのルール解らぬまま見る 初音  
 葵卯温い大地の芽吹く音 厚子  
 ご褒美に夕焼マジックアワーです 史子  
 ねむいからコロナしながらおきるよ 小二沙弥  
 江島央かん字でかけるすごいでしょ 小一央  
 はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報  
 空論は机でしてよ岸田さん 冬のト  
 ちゃぶ台で宿題した子も早ややおやじ 勝久  
 老いてなお机ひとつが我が支え 一文  
 勉強や足場に使う古机 フジ  
 整理しても三日も持たずマイデスク 勝弘  
 小さい机僕の体温持つている 瑠美子  
 失恋の涙が沁みている机 扶美代  
 廃校の机が今も行儀よい ダン吉

窓際の机から見る遠い空

座ったら眠たくなってくる机

鍵つきに忍ばす彼からの手紙

久方振り机に向かい賀状書く

テレワークにあわてて机買いました

地球上から自然を奪うヒトのエゴ

戦争で生命を奪う憎い奴

戦争は生活奪う敵ばかり

略奪の口はナチと似るロシア

極寒の戦地をどうか生き延びて

赤ちゃんがメロメロにして離さない

黙食は味と笑顔を奪ってる

奪い合い笑顔を交わすノーサイド

ふところの金まで奪う物価高

ルリ子の唇奪った旭大嫌い

大家族今日もおかずを奪い合う

サッカードは一瞬の隙の奪い合い

チャネル権妻に奪われ五十年

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

宝くじ買って敵わぬ夢を見る

七草を食べて買おうか値上げ株

泰子

さくら

みつこ

正義

宏造

こみつ

千鶴子

かつ美

専平

ちづる

太子

庸郷

洋一

一歩

いさお

久仁雄

ひとみ

まつお

遡行

三樹夫

美しい百合もピンクで喪が明ける

耕して実らせたいが古い二人

土壇場になると不思議に出る力

富柳会(大阪) 山野寿之報

どんばちが絶えて久しくなる地球

和の文字を清水寺で書かせたい

初夢が今年の無事を丸くする

次世代に語り継ぎたいこの平和

母の味つなぐお節にある矜持

点滴の雫輝く青い空

触れないで私まだまだ準備中

母と娘で家の味継ぐ祝膳

リモートの長い祝辞はお手洗い

風海二度と戦が無いように

足枷を無くしてたよりない歩幅

大食いのテレビを恥じよ飢餓の民

今生の別れの添い寝母の通夜

寒茜一気に変るスライドショー

防衛費もう空耳でない軍靴

三年ぶり帰省の駅も父も老け

かつ子

まみ子

美千代

高鷲

正義

一文

壽峰

あかり

きみ子

武人

由夏

文重

和子

恵

欣之

圭

章子

常男

きよみ

正邦

一本の愛編み上げていく絆

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下凱柳報

没句川柳供養大会 三才句

「有料」

義勇軍とは名ばかりの雇い兵

グリーン車は金の匂いが強すぎる

核の傘レンタル料が高つく

「失礼」

淋しくてカスターネットにする小皿

耳掃除すますと風になる男

わたくしのルールに知らぬ人がいる

「くすぐる」

くすぐると人間らしい音がする

くすぐると性善説は嘘を吐き

しがらみをくすぐってゆく盆の風

「儲かる」

戦争が死の証人を太らせる

汗のない儲け話の深い罠

「悲しい」

折り鶴の悲しい過去を見てしまう

寿之

公啓

与志魚

無限

久美子

拓治

美代子

ねえね

賢悟

綾子

無限

寿之

ねえね

健一

喪中ハガキ一枚雨が雪になる  
侵攻は悲しい嘘で始まった

ねえね  
威青

「不自然」

真夜中に引越してある家がある  
友の目が見えない何がある

宗鉄  
良江

「ただいま」とやけに元氣だ負けたかな

千代子

「敗者復活吟」

どこまでが光か足を浸けてみる  
異次元の世界で遊ぶ夫と住む

久美子  
あきこ

「1000グラム早産」とある母子手帳

美智子

### きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

のんびりと矢田の渡しで向こう岸  
てんでこ舞いメモした紙が見当たらぬ  
忘却がちゃんと理由になる老後  
あのそのと言ひ訳ばかりギブアップ  
だんだんと出来ない事が増えてきた  
うたいますおはこの歌はトーン落ち  
やいコロナ人類似じめ楽しいか  
よく当たる天気予報と仲良くし  
バンクシー適材適所描いてる  
いつ逝くかわからないから生きられる  
川柳の種を埋めて畑仕事

宏之  
久直  
俊久  
ひろし  
紀の治  
葉々  
美穂  
恵子  
美緒  
宣子  
令位子

雪マーク心の準備しておこう  
懸命に生きて今年もこの程度  
締切日せつばつまって駄作でき  
遠い国へ近くなつたぞ年の暮れ  
この一年何もしないで押し詰まる

瑞枝  
千代  
治代  
多美子  
雨奇

### ブラザ川柳(大阪)

藤塚 克三報

救急車の冴えた音聞く冬夜明け  
少子化で日本の夜明け不安定  
九九出来ず叱られ泣いた老輩よ  
電車内吊り革にぎりもたれ寝る  
夜明け待つ金剛山の初日の出  
スキヤットが聞こえてきそう寒い朝  
突然の揺れに震えた夜明け前  
それぞれの家のルールにある羨  
古希から米寿五人姉妹の賑やかさ  
保育園子ども奇声ボクは好き  
右往左往ほんに人生阿弥陀籤  
インバウンドで賑わい送る戎橋

克三  
園子  
政夫  
靖子  
悦夫  
景子  
和代  
一彌  
清乃  
弘光  
正子  
淳司

### 川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

酒愛しノルマに燃えた若き日日  
理不尽は深呼吸吸して包み込もう  
あの方のふところならば飛び込もう  
ふところに恋の火種を持ち傘寿  
ふところの深い友達側に居る  
この先の風を読んでる懐手  
温かい包容力は慈母の愛  
ふところが深く正体つかめない  
ふところがしんどい春の祝い事  
北新地甘いムードが僕を呼ぶ  
若者のムードに酔って若返る  
しつとりムードぶつ飛ぶ大くしゃみ  
ムーディなお店が恋の発火点  
月光が魔法をかけにくるムード  
たこ焼きを二人でつまむ仲になる  
生きてたらどんな余生か母偲び  
こつそりと闇魔に寿命聞いてみる  
ほどほどの薬が余生つないでる  
一日中好きに使っている余生  
余生つてむしろ足りない日日ですが  
することがあつて余生が足りません  
勲章の数を重ねていく余生  
一年が無事終わりそうありがとう

武彦  
順子  
玲子  
美砂子  
一步  
いさお  
壽峰  
亜成  
泰子  
高志  
秀雄  
あかり  
高鷲  
朝子  
和織  
かすみ  
彰一  
一文  
ルイ子  
銀杏  
郁夫  
欣之  
后子

予報士に言われて出した冬布団  
 ビール党寒い冬でもまずビール  
 勝てそうな予想ばかりの前夜祭  
 文末に冷たく丸を打ちました  
 過去の事みな美しく月の宴  
 追伸の辺りで母の風が舞う  
 生き様をすべて知ってる古日記  
 ふところに深く沈んでゆく夕日

倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

一言の重み政治家自覚しろ  
 にこやかに受け答えて何もせぬ  
 はつきりとレッドカードが止めにくる  
 受けねらいその一言が命とり  
 電話より心打つよな手紙書く  
 イエスノーはつきり答え返します  
 サッカー勝利笑ったか総理殿  
 にこやかに歩く老人薄化粧  
 好きだよとその一言で結ばれた  
 にこやかな顔して足を踏んでいる  
 はつきりと大きく写る団子鼻  
 手拍子も打つとますます盛り上がる  
 チャンスだぞここで一発天狙う

かずお 勝弘 博泉 武人 弘子 常男 信子 恵子 凱柳 大鯰 麦青 道春 由紀子 醉芙蓉 照彦 龍枝 紀美恵 鬼一 重忠 風露 智恵子

丸は丸四角は四角そう生きる  
 長い話一言でいう中味ない  
 お偉方逃げ口上は聞き取れぬ  
 はつきりと画いた眉毛が言っている  
 日出子 けいこ 佑子 雄大

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦

こつんこつん殻を破っている命  
 老船頭こつんと岸にぴたり着け  
 こつんでも相手次第の車輛事故  
 こつんよりキーンが高価備長炭  
 頭打ち父の苦言が効いてくる  
 浮かれ過ぎ神のコツンと一撃が  
 愛込めてオデコにこつん指パンチ  
 廃炉への計画虚し再稼働  
 書き初めに今年は天を取ると書く  
 百歳が見えて計画練り直す  
 出来る筈ない計画にファイト湧く  
 計画があつてないよな老いの日々  
 百までの計画作り実施中  
 一献で昔の絆取り戻す  
 弁解をすれば縛れてゆく絆  
 改めて絆感じる家族葬  
 里がえり深い絆の墓参り  
 朝子 憲 時雄 五月 尚邦 里子 じゅん子 満知子 志津子 恵子 さくら 田勝弘 蕉子 玄也 和夫 ひろ子 佳子

ふるさとの絆支えに終の家  
 仲間の絆あつてこの世もまた楽し  
 今頃は社長夫人の筈だった  
 8050隠居計画狂わせる  
 予定通り事が運んだ旨い酒  
 米寿まで元気で生きるつもりです  
 四人目は実は計画外でした  
 計画は旅立つ前のお楽しみ  
 計りごといつの時代もやみの中  
 計画はでつつか世界一周を  
 計画のない日があつてこそ自由  
 恐れ多い文句を言つて咎められ  
 岡田節のモットー「あれ」にトラ躍る  
 おもしろい儲け話に刺がある  
 おもしろい儲け話に刺がある  
 奥の手をもういい頃と解き放つ  
 親こころ戻らないでと嫁ぐ娘へ  
 オアシスを求めて探す都市砂漠  
 老い先はもう見えてきた峠越え  
 素頓馬 万紗子 (米) 楓子 楓楽 ひさ子 (江) 勝弘 いさお 廣子 富夫 萌 敏治 光雄 世紀子 満作 憲彦 禮子 進

川柳塔なら 大久保眞澄報

ふる里のブラボーを待つエトランゼ  
 再起への勇気の種が芽生えだす  
 お隣からブラボー離婚成立か  
 和夫 よう子 敬介

プラボーの響き一つになる世界  
 三ヶ日空は青いしお屠蘇も美味い  
 絵日記にピカソのような僕の顔  
 あの人もこの人も来てくれはった  
 合格のメールプラボーと返信  
 家裁出てプラボー連呼西東  
 登頂の歓声こだまする初日  
 プラボープラボー日本が沸いたW杯  
 今年こそ発芽するぞと目をかける  
 ヒリヒリと背なに射しこむ期待の目  
 美味しいの聲が聞きたいオムライス  
 鰯大根まだ婆さまが当てにされ  
 乳呑み児へ母は無限の夢を見る  
 息子から偶にそろりとお小遣い  
 そろりそろり百歳まではまだ遠い  
 晩年はそろりそろりと参ろうぞ  
 酒二合そろり本音が顔を出す  
 すみません句会に行つてまいります  
 開運を祈願そろりとなでうさぎ  
 八十の手習いそろりあの世迄  
 春はまだそろりと覗く芽が一つ  
 そろりそろりだけれど前へ進んでる  
 進化するセンサー退化する五感

ふりこ 千代美 良岩 眞澄 薫 史郎 比呂志 盛隆 貫一 昌代 ゆきみ すみえ 理恵 則彦 いさお 定生 富子 勝弘 行久 文明 將文 優 和郎  
 初日の出拝み開けた進む道  
 ひかり射す方に進めば開く道  
 父と同じ道を進んだ息子にエール  
 合理化を進めて一新をはかる  
 妻旅行なんでこんなに酒進む  
 エーアイが進み薄れる人情味  
 デジタル化進み人情消えていく  
 ふる里は墓を残して進む過疎  
 物忘れ進む終活急がねば

川柳de遊ぼう会(大阪) 石田孝純報

人生も折れ線グラフ右下がり  
 泣き事は書かぬと決めて日記買う(圓)恵子  
 老いじたく時雨に似たるこちしててるひこ  
 過去をほろたいていのこと忘れてたのり子  
 ふと見ると生命線が消えている 幸徳  
 薔薇色になるよう未来彫つてゆく 雅美  
 彫り深いイケメン顔のしゃれこうべ 孝純  
 わかやま吟社 松原 壽子報  
 自転車ですり足る私のテリトリー 紀子  
 少しだけせつない冬の自転車よ 夕胡  
 自転車で昭和を走り抜けた父 精子  
 渋滞を横目にチャリが抜いて行く 大輪  
 自転車に乗れぬと勤まらぬ巡査 保州  
 風を切る陸の孤島でツーリング 寿子  
 自転車をおりてしばしを雲に乗る あきこ  
 パティシエの涙にケーキほろ苦い 小雪  
 ケーキ入刀ここから長い旅になる 小雪  
 忘れずにケーキが届く誕生日 小雪  
 お茶会で並べたケーキ見てるだけ 明  
 ケーキのような甘い人生おくりたい 明  
 記念日のケーキを分ける優しい手 八茶  
 笑顔が素敵ケーキ屋さんのお嬢さん 敦巳

幸せは花いちもんめケーキ選る  
入門書ばかりが増えた定年後  
入社してすぐにふらふら出口向く  
深入りに待った掛けるも意固地なり  
入賞が明日のリタイヤ遠くする  
税込みになったら跳ね上がる価格  
入式もう競争が見え隠れ  
よしこ

川柳ささやま(兵庫) 北澤 桐民報

ポストから霜見て戻る休刊日  
小鳥来る我家の庭を知り尽くし  
雑煮に食べ入れ菌外れて初笑い  
人生の道のり遠くまだ歩く  
どちらかと言えば猫より犬がすき  
よもぎ餅妻にも母にも手の匂い  
焼け跡地老い猫静かに待っている  
可も不可もない人生で良とする  
吟味して選んでいます丹波栗  
同じこと出来ているのはもう奇跡  
年初め顔合わせして皆笑顔  
照代

長 柳 会(大阪) 大浦 福子報

愛犬が鳴いて曝した朝帰り  
福子

楽しい筈の夜明けが怖い不登校  
朝刊の音は夜明けのプロローグ  
一夜明けたら数え年とる大晦日  
宝くじ当った夢で夜が明ける  
賑やかな通夜にとメモに書き残し  
賑やかな頃を知ってる菓の屋根  
賑やかさ戻って欲しいウクライナ  
最高の賑わいだった閉店日  
平和憲法揚げ膨らむ防衛費  
お師匠の背中を研磨剤とする  
四代を生きて三桁の歳で近く  
いざ米寿越えて卒寿へ向かう初春  
夫婦愛夢を宝をありがとう  
残月に問うてみようか生きる意味  
好きだから小さな喧嘩してしまふ  
ニュートンに負けた果実は熟し過ぎ  
温暖で破壊されてるオゾン層  
計るたび身長減って重さ増え  
看板を塗り変えるらし防衛費  
虚礼廃止お互い辞めて気が楽に  
神キック一ミリ写した神カメラ  
ドロコン飛ばせ愛を届ける離れ島  
あれこれと何故かつながらる人の縁

淳司 克己 おくみ 由夏 光弘 和子 幸子 正美 孝代 隆彦 純風 直樹 功治 澄子 正博 孝

秀子

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

諭吉さま消えて喜ぶ孫の顔  
見送った子らの声まだ響く家  
規之 ともこ  
雲になるポディソープを流すまで  
苦い味日本食には欠かせない  
苦い胸グツと抑えて「こんにちは」  
探る人も盗る人もなく過疎の柿  
傷つかぬふりで笑顔を投げつける  
ロボットが盗む人間の脳味噌  
霰降るドレミドレミと跳ねながら  
滑らかに傾いてゆく我が影絵  
三角の苦さを知らぬベアルック  
失恋の痛手は今もほろ苦い  
盗品が外国にある仏様  
裏表口も達者な二枚貝  
ボージョレもいいがやっぱり芋湯割り  
自由と言うのか苦い自己責任  
滑らかな口の女に御用心  
カメ虫も暖を求めて部屋の中  
戦中の苦い話を閉じた亡父  
エルキュールボワロの口髭を盗む  
ハッカーが狙う国家のスキヤンダル  
くにお 由子 登美子 秀子  
正人 芳山 麦青 富隆 石花菜 小 鹿 紀の治 久子 コスモス

初霰天の恵みと口で受け

雄大

先生オシッコの一言の深い意味

公輔

質素でも嘘のない世と優しさ宅配の新聞読める国に住む

勇

霰より万円札が降って来い

ゆたか

毎日を本気で生きた笑ひ飯

ヨシエ

戦争を知らずに生きて七十余年

はこべ

珈琲の苦味を乗せて血は巡る

余光

なりたいたとサツカー選手孫本氣

義明

足止めて春咲く苗をひとつ買う

克己

イノシシが汗の結晶盗んでる

清明

輝かし功績光る内助の功

英旺

家族皆揃って食べるだけでよい

麻也

混浴でちらちら巨乳盗み見る

重忠

眠らない街輝く星に気づかない

敏治

戦争のない国に住む有難さ

保州

良薬に少なくなった苦い味

規雄

窓際で靴音の主聞き分ける

肇

大吉だったでしよ私との結婚

いさお

にんげんもムカゴも苦いのが混じる

完司

本気でも妻に勝てない腕ずもう

眞澄

大吉がぎゅつと兜の緒を締める

美晴日

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

こつこつと努力をしてもおこられた

健三

輝いているね電話の中の張り

いさお

大吉がぎゅつと兜の緒を締める

欣之

火に焼べる父の日記と真実と

真理子

うねくねの旅路もやつと先の見え

千鶴子

大吉をネット販売する神社

和郎

インバンドへつぱり腰でウエルカム

勝久

自分らしさを出せと自分をつつく日日

則彦

「愛馬行進曲」馬も戦争した話

和子

走ってる孫の本氣が写ってる

多美子

サブリとはイワシの頭かもしれぬ

黒兎

馬が住む平和な島に自衛隊

一角

この先に輝く余生あれば良い

晴子

9条はいつも毅然と立っている

武人

コロナ禍の木馬はいつも寂しそう

英雄

輝いた過去を忘れぬちびた靴

英三

こつこつと積み上げて来た小さい幸

満作

孫守りのお馬どうどうもうごめん

風子

輝きを見せて羽撃く子の門出

時子

本気でなけりゃ一千万の寄付できぬ

美津子

賭け事と知らずに走る競走馬

黒兎

お節料理手間ひまの味母の味

武彦

今日もまた輝く為に善ひとつ

(若)玲子

馬の骨のこのこやって来る頃だ

公輔

遠去かる靴音あれば子の巣立ち

すゞ代

こつこつの努力神さま見捨てない

洋志

白馬が駈ける魁夷の青の中を

賀世子

輝きに派手さはないがいぶし銀

健二

さわやかにそうしなやかに今日生きる

ひとみ

じゃんけんに負けてお馬になってやる

心平太

こつこつと仕事こなして出世せず

(永)玲子

開拓史あの馬たちも一ページ

ダン吉

殿様の白馬の顔に品がある

加代

孫相手本氣になった古狸

北舟

戦争のない穏やかな日々過ごす

昌芳

たまこ高騰鳥インフルに罪ないが

志津子

こつこつと生きて傘寿をついに越え

敏昭

給料も賞与もちゃんとある暮らし

緑

9条は民の命の防波堤

ひろし

日本を潰す四十三兆円

防衛省敵基地省に早変わり

窓口が二倍で余命半分に

ロシアさんありがと兵器揃えます

黒には黒と叫び続ける太いペン

彬さんどう詠みますかウクライナ

大吉は努力次第と書いてあり

大吉が出るまで神社梯子する

大吉は単なる神のおべんちゃら

大吉も凶も私の道しるべ

### ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

点滴は余命の脈に似たテンポ

点字ブロックの上に立つてる不埒者

点滴のゴムで縛った腕あわれ

生きるとは今日と明日の点つなぎ

視野視力落ちて点字を意識する

日焼サロンハワイの太陽まだ遠い

焼き芋もスイーツと呼ばれ上品に

古日記焼きすて再起志す

手を焼いた子にはやさしく支えられ

もち焼いて砂糖醬油が旨いのだ

山を焼き明日の緑を待ちのぞむ

正 治

和 恵

(近) 正

遊

敏 治

峯 二

一 步

(川) 信 子

楓 楽

福 貴 子

黒兎報

則 彦

宏 造

守 啓

純 子

契 子

正 子

順 子

螢 柳

直 子

勝 弘

黒 兎

ついうっかり酒が私をしゃべらせる 奈津子

遠い耳に字幕スーパ―ありがたい 春代

快眠の妻はグービースーパ―と 蟻日路

チャーシューとチーズをあてに日本酒 一 弥

### 川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

サユリスト今も歌える「寒い朝」

寒い日は外出ひかえ猫と居る

窓ガラス結露で外の寒さ知る

新年は懐寒い子の帰省

生い立ちは寒いが生き様は熱い

省エネに古い湯タンポ出してくる

熱燗に湯豆腐添えて出す店主

金婚式寄り添い我慢五十年

パソコンの賀状に添える生の文字

スパゲティに割箸添えてくれました

きつと来て言われなくても行く飲屋

めぐみさんきつと帰ると母は待つ

生き残りきつとウィルス変異する

ザッストツツ神様どうぞ戦争を

女神様時は移ろい山の神

混乱の世にのんびりという負い目

またあすも同じお茶飲み同じ歌

酒に酔いもらす秘密のネタが切れ

一期一会戦争なんぞするでない

針千本用意せぬまま指を切る

神様でも美人好きだと福娘

添えるには便利な言葉ありがとう

仲直りしたくて今夜鍋にする

### 川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見 柳歩報

野を駆けて逞しかった昭和の子

野次馬もネットの上で牙をむく

野に放し真っ先に行く美容院

野に咲いてどんな風とも響き合う

夕焼けの空に負けじと野火走る

喜んで買います規格外野菜

目薬を注して未来の夢を見る

うれしくて君の涙が治療薬

台風に飲ませる薬ないものか

ポイントが麻薬のように効いている

いけずやな高手指と薬指

手作りと手作り風は違うでしょ

折り鶴を折る指先に折りあり

問いつめられ作り笑いで逃げを打つ

一流の作り話を売る書店

健 二

勝 弘

英 坊

こみつ

紀 恵

宏 造

柳歩報

知恵子

みちを

とも子

桂 子

芳 山

モナカ

雪 代

小 鹿

邦 代

青 帆

徳 利

吹 喜

聡 美

豊 仙

柳 歩

モナリザの引越し銀河鉄道で

星空の遙か彼方のシニールな日

星の数ほど彼女が居たと言っておく

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

懲りもせず一年の計立て始め

無礼講さらり光った上司の目

穏やかな今日の幸せ栗おこわ

いざ鎌倉日本の敵はどこですか

いざ行かん奈落の底へ嘘抱いて

わが国もいざに備えて地下シェルター

さあ今日はどこへ行くのかフリーパス

叱つても褒めても返事やバイス

彼のハートに育毛剤を塗り込んで

奈良の鹿青で信号渡ります

書き留めたメモで歴史の謎を解き

いざとなればデキる男に変われます

メモの山整理するのにメモを取る

天国でしびれ切らして待つ夫

大掃除鍋を磨いて晦日そば

地球儀を丸洗いで除夜の鐘

父ちゃんはいざという時居りません

美智子

ビル

弘 充

良 種

廣 光

恵美子

勝 弘

緑

恭 子

宗 鉄

邦 男

靖 夫

ゆきみ

野 鶴

敦 子

隆 一

ばつは

みよし

和 宏

盛 夫

正

何かある妻が段々若返る

ブラボーと言つて今年を終りたい

サスペンス小さなメモが謎をとく

メモ帳にドイツ語で書く秘中の秘

飲み代は俺言つてはみたが空財布

内緒ナイシヨ心にそつとメモして

値上げまたメモした品も買えぬまま

一步一步確実に出すやばい足

下座がいい酒はうまいし肩こらず

チンをして食べると妻のメモ用紙

列島を一つの渦にW杯

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

盃はおせちの隅へ追い出され

ビルの屋根に止まった鳩も濡れている

寒い夜は好きな盃熱燗で

晴れて二十歳親と子の祝盃

同郷と知つて盃弾ませる

盃を干す妻のピッチがめっちゃ早い

盃に妻の笑顔も足して飲む

献盃で始まる同期会の宴

人間が好きで盃手放せず

お口からお迎えにいく旨い酒

武 彦

新 録

真 桜子

俊 雄

富 次

千 賀子

紀 乃

迪

宏 造

野 薫

美津子

公 輔

シ マ子

正 義

倅 子

ひろ子

まつお

さくら

かずお

久仁雄

憲 彦

核ノーと杯事をしませんか

おつとつとこぼさんといて酔うてるな

盃に託すつても重いもの

スタートは同じ友はどんどん上に行く

スタートで出遅れてその上こけた

盃が内緒ばなしを聞いている

産道ぬけてさあ人生のスタートだ

川柳塔みちのく(青森)

稻見則彦報

おじいちゃんもじもじしてる恋してる

ブーチンの脳は想像できません

想像をする時酒の力借り

災害で想像つかぬ被害でる

凡人にだつて想像力はある

秋祭り想像だけで血が騒ぐ

自肅三年想像力も低下する

綿菓子で空をお散歩出来たなら

ひとり紅白ひとりおせちのコロナ姫

ロボットに介護されてる我が老後

読み聞かせ想像力の玉手箱

夢は夢地球儀まわし世界旅

想像では再婚をするケアハウス

はくの往く地獄極楽なん丁目

みつこ

勝 弘

ダン吉

喜代子

瑠美子

一 歩

いさお

吹 喜

慕 情

重 虎

一 吞

龍 馬

義 明

ふさあ

真由美

和香子

美 鈴

規 子

のぶよし

柳 子

風来坊

衰えを想像しない若い日々

免許返納想像出来ぬ街を見る

地獄しか想像できずやりきれぬ

想像は秘密夢なら語ります

その胸の膨らみたわわ らりるれろ

未来図を描き足す暇はたとある

ベルリンの壁より固い北の壁

憧れた未来想像だけで終え

食欲と戦って待つ検診日

ランドセル永い期間で再始動

なんだかんだ言っても日本いい国だ

暑けりや脱ぎ寒けりや着るをくり返す

敬老日指にトンボが来てくれる

### 川柳さんだ(兵庫)

### 酒井 健二報

団結は強い意地を見せた白紙

団結のデモに恐れる独裁者

物価高一揆でもせなよくならん

夫婦して電気毛布の毛玉とり

女系家族入る余地なし婿養子

リニアが越すに越せない大井川

看護師に脈をとられて速くなる

物忘れ早くて遅い物覚え

初枝

洋子

孝子

隆樹

則彦

ひろ

霜石

ひとし

英子

友二

澄子

久美子

姦

流れ星願いを掛ける暇もなく

逃げ足の速い男の軽はずみ

PK戦読みの速さでつく勝負

祭り太鼓聞けば歩みも速くなる

速報が途中で消えるテレビニュース

人生の欠けたページにある秘密

十八歳大人のページ仲間入り

昭和史に忘れてならぬ血のページ

核の無い輝くページ次世代に

愛読書ページに残るわが奇跡

終章に君の優しさ空けてある

自画像に朱を入れちよつと華やかに

自画像を描かせば何と好い男

夫婦でもそれぞれ描く老の道

孫が描いた似顔絵だから宝物

愛してるの背中に描いたラブレター

四コマの描写マンガに見る世相

AIと描く未来は夢無限

銀幕に小津が描いた家族愛

老いたなとやはり感じる記憶力

白杖が少し身につくお買物

散り際を教えるように枯葉舞う

窓みがくきれいな明日見たいから

玲子

博

雅尚

和郎

敏夫

俊朗

三ツ代

修平

健二

高志

哲夫

ヨシエ

好文

雄太郎

正和

宗鉄

えい子

(高)千賀子

廣光

稠民

一子

(竹)千賀子

優子

へそくりも非常袋に入れてある

あら国旗変なお家と言うタウン

見てしまふ絵馬に書かれた願いごと

私のご機嫌とっているワタシ

### わかやま吟社(前月分) 松原 寿子報

サバイバル募集の中で生き残る

求人の歳に必ず引つ掛かる

嫁募集手ぶらで良いと書いておく

募集します夫の世話が出来る人

失ったものより得たものに感謝

失敗の傷にしみ込む人の口

失望の果てで居眠りしてしまふ

へこんだ時背中押されて出た勇氣

今生に失う物は何ものなし

記憶まだ失せてはいない筆燃える

失敗を恐れて一步踏み出せず

過剰警護一つの過失があつてから

心だけちよつとふくら年金日

ふつくらと味はともかく卵焼き

ふつくらと言われてニヤリ肥満体

初対面ふつくらさせるお人柄

哲男

俊昭

英秋

ひとみ

紀子

保州

明

和宏

精子

八茶

大輪

節子

信勝

寿子

敦巳

佳子

小雪

光

夕胡

富美子

**北九州市制60周年記念  
第61回 北九州芸術祭川柳大会 (誌上)**

課題と選者 (各題2句)

『期 待』 雫石 隆子 選  
『ス リ ム』 尾藤 川柳 選  
『そろそろ』 木本 朱夏 選  
『描 く』 森中恵美子 選  
『ほどほど』 赤井 花城 選  
『アナログ』 新家 完司 選  
『重 い』 古谷龍太郎 選

投句締切 4月30日(日) 当日消印有効

投 句 料 1000円

投句方法 所定用紙(コピー可)または便箋  
各題2句(計14句)を列記。  
郵便番号・住所・氏名・電話番号  
を明記。

投 句 先 〒806-0051

北九州市西区東鳴水4-2-17

安川 聖 宛

電話・FAX 093-621-6570

発 表 『川柳くろがね』7月号

主 管 北九州川柳作家連盟

**第62回 春の区民文化祭  
いきがい川柳誌上大会**

課題・選者 (各題2句)

「もれなく」 橋倉久美子 選

「そのまま」 四分一周平 選

「愛」 藤井 智史 選

「私」 赤松ますみ 選

投句用紙 投句用紙は投句先へ請求

参 加 費 1000円(切手不可)

発表誌呈(6月上旬発送予定)

募集期間 3月1日(水)~31日(金)

消印有効

投 句 先 〒178-0063

東京都練馬区東大泉3-49-14

練馬区川柳連盟

町 井 新 一

電話 090-4618-9796

主 催 練馬区川柳連盟

**第33回「太平記の里」  
全国誌上川柳大会**

応募方法 投句用紙または用紙自由。

住所・氏名・電話明記。

投 句 料 1000円(郵便小為替)

同封。

課 題 「家」(2句詠み。新作に限る)

選 者 8名 共選

岡崎 守・竹田 光柳

雫石 隆子・北山まみどり

森中恵美子・本田 智彦

井原みつ子・平田 朝子

応募締切 3月31日(金)

結果発表 5月 大会記念誌

応 募 先 〒373-0844

太田市下田島町1243-65

原名 幸雄 宛

主 催 太田市川柳協会

**姫路 川柳水流会  
第19回 誌上川柳大会**

課題と選者 (各題2句)

「傷」 しばたかずみ・村山 浩吉 共選

「汚れる」 潮田 春雄・くんじろう 共選

「味」 中野 六助・土橋 旗一 共選

「覗 く」 小島 蘭幸・赤井 花城 共選

投句要領 所定用紙または便箋大用紙

1枚に各題2句を連記。郵便番号・

住所・氏名・電話・所属結社を明記。

重複投句不可。

投 句 料 1,000円(現金他・切手不可)

大会発表誌「綿津見」誌に掲載(5月頃)

締 切 3月31日(金)当日消印有効

投 句 先 〒670-0884

姫路市城北本町9-15

濱邊稲佐岳 宛

連 絡 先 電話 090-3721-9295(稲佐岳)

主 催 姫路 川柳水流会

# 柳界展望

★令和4年錦秋龍ヶ崎川柳誌上大会。同人成績。

高得点句 平井美智子

それぞれを生きて家族

天 という和音

宇都満知子

いただいた恩がまつす

ぐ歩ませる

★第6回水の都まつえ川柳大会。同人成績。

特選

魂を売りませんかと囁

る電話

平井美智子

▽令和4年度

各地句会年度賞△

○城北川柳会

年間賞 大内 朝子

平凡な顔へきりとア

イライン

○川柳塔わかやま

葵水賞

吉道あかね

不快指数ゼロふるさと

の風の中

あおい賞 山西 佳子

言った方の軽さ受けた

方の重さ

たちばな賞

小林 八茶

楽しい句せてみてひと時

笑おうか

課題吟賞

柏原 夕胡

抽斗を開けて笑顔にな

れたました

○大山滝句座

斉尾くにこ

会いたいと言えはかい

たいねとこだま

○西宮北口川柳会

年間賞 長高 俊雄

▽同人の動向△

第71回東北川柳大会での

木本朱夏さん(和歌山市)

の記念講話「一閑人抄を

担当して」が、「川柳

宮城野」1月号に掲載さ

れた。

▽出版△

『合同句文集 強いペン』

(二〇二二年一〇月、A

5判190頁、岸和田川柳

会)。

▽訂正とお詫び△

○二月号P3目次下1行

目、相本↓相元。P27上

段後ろから6行目、竹

原鼎↓竹原市。P79上段

本文3行目、平成2年↓

令和2年。P90上段12行

目、長生きのクスリ飲む

ことを忘れてる↓長生き

のクスリ飲むのを忘れて

る。P90中段佳句4句目

と下段最終行、吉野茂子

↓吉野成子。P91中段「き

りり」1句目、恵利菊枝

↓恵利菊江。7句目、稲

葉良岸↓稲葉良岸。下段

最終行、中井萌子↓中井

萌。P92下段8行目、桃

谷和朗↓桃谷和郎。

▽新誌友紹介△

加古川市 石賀 邦子

紹介者 平井美智子

高砂市 今津 美幸

紹介者 平井美智子

京都市 本荘 福子

紹介者 平井美智子

京都府 本荘 福子

▽川柳塔誌電子化事業△

2月1日、西尾葉「水鶏

笛」(昭45)、高橋操子「千

亀利」(昭53)、羽原静歩

「足跡」(昭57)がアップ

された。

常任理事会(2月7日)

出席22名。①「第11回春

の川柳塔まつり」の締切

前後の体制について②

「第29回川柳塔まつり」

(10月7日)の兼題と選

者の決定。③会計中間報

告④「100周年記念合同句

集」について⑤「100周年

記念行事」賛助金募集に

ついて⑥同人・誌友の拡

大取り組みについて⑦定

例確認事項

次回常任理事会3月7日

(火) AM10

## 「らくだ忌」第2回川柳大会

と き 3月18日(土) 午前10時開場  
出句締切 午前11時30分  
ところ ラボール京都 2階大ホール  
会 費 2000円(発表誌呈、昼食は各自で)  
開 会 午後1時

「泡立つ」	湊 圭伍 選
「二周年」	暮田 真名 選
「生い立ち」	真島久美子 選
「無い袖」	八上 桐子 選
「ぶらり」	新家 完司 選
「雑詠」	くんじろう 選

句会名	日時と題	会場と投句先
川 柳 塔 さ か い	14日(火) 14時締切 うらはら・泥 折句：す・み・れ	会場 東洋ビルディング(堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川 柳 あまがさき	14日(火) 14時締切 疑う・食(連記)・やれやれ 自由吟	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	18日(土) 14時締切 裏・配る・救う・エコ	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川 柳 たちばな	18日(土) 13時45分締切 席題・おまけ・弱い・自由吟	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	18日(土) 17時締切 大笑い・それぞれ・肩車	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	19日(日) 14時締切 予想外・わいわい	会場 パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊 中 もくせい 川 柳 会	20日(月) 14時締切 主婦・吹く・ぼかん・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 ねやがわ	21日(火) 13時締切 卒業・うろつく・輝く 美味しい・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川 柳 さん だ	21日(火) 13時30分締切 無力・悪い・ノック・離れる 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
川 柳 塔 すみよし	24日(金) 14時締切 銀・歌う・しつこい	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	25日(土) 13時15分締切 旗・趣味・卒業	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳 会	26日(日) 14時締切 緑・溢れる・エピソード・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	26日(日) 13時から 自由吟・並べる・週末 恋しい・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。  
★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

# 3 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	2 日(木) 14時締切 節目・うんざり・兆す	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩 5 分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城 北 川 柳 会	4 日(土) 14時締切 鋭い・あほ・付度・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	4 日(土) 14時締切 使う・ここから・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	4 日(土) 14時締切 流行・顔・夜・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ 吟 つ 社	4 日(土) 13時40分締切 簡単・工夫・編む・寒い	会場 雑貨公民館 投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこばし 川 柳 会	7 日(火)消印有効 あの日・よりそう・それいけ	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこばし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
あかつき 川 柳 会	10日(金) 肌・再建・どっぷり・時事吟	会場 大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六 甲 川 柳 会	11日(土) 14時締切 席題・心配・きつと・選ぶ 自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	11日(土) 13時30分締切 席・浮く・ことこと・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川 柳 塔 わかやま 吟 社	12日(日) 14時10分締切 兼 題＝輪郭・よだれ・セーフ 課題吟＝もう	会場 和歌山県JAビル1 1 階 兼 題 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14 川上大輪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 楽原道夫
南 大 阪 川 柳 会	13日(月) 15時締切 予約・任せる・ポイント・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
西宮北口 川 柳 会	13 日 (月) 13時30分締切 席題・漢字・こだわる・ぼつん 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川 柳 同 好 会	14日(火) 13時30分締切 時代・洗う・印象吟	会場 豊中市立蛸池公民館 阪急・モノレール蛸池 蛸池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎

## 編集後記

★40数年間抱いていた些細な疑問が解けた、他愛もない話です。

★大阪市千日前に、「天井の店」という名のカウンター5席だけの小さな天井屋がある。初代店主の頃から通っているが、海老2尾と海苔天だけの天井。海老は噛み味を残すため身を開いていない。タレは東京風でなくサラツとしてゐる。天井650円、赤だし50円。

う。天然の海老を使っているの、店で使っているサイズの海老(決して大きくはない)が入らないことがある。その時は、海老を3尾出しているというのでした。(道夫)

★今の店主は三代目だが、客が私だけの時に、その理由を聞いてみた。今もたまにだが海老を3尾出すことがあると言

## ひとこと

コロナ共存の中で

2019年の春から夏、パリに3ヶ月滞在したのち、翌年コロナ旋風となり日本国内でさえ動き回ることも憚られた。

そしてやつとやつと23年春、再びフランスへ。ニースの学校へ2ヶ月その後パリへ戻り1ヶ月、今回はウクライナのこともあり、少し心配の種もあるが、チャンスが目の前にあるならと決心。予定

を立てたのち娘の妊娠が分かり少しだけ前に日程をずらし、親としてはこちらも心配の種。行ったら行ったでまたあれこれ前回以上のハプニングに巡り合うことだろう。これも人生、さて箱を開ければどんな色の私のステージが待っているのだろうか。開ける前からワクワク、スーツケースに夢詰めて、さて飛び立とう。

(きとう こみつ)

○ある時、乗りたいバスがバス停に近づいているのに、おばあさんの足では辿りつけない。私達の気配を察したか、運転手さんが待つてくれてとすみませんありがとうございます！

○ごめんねとありがとで丸く、という句によく出会う。今は少しビミョウな気持ちです。

(眞澄)

▲5月本社句会のお話に昨秋の塔まつりの太極拳

▲「姿勢に注意」①体幹のセンターラインを守る②全身を放鬆(力を抜く)する③頭頂を天に向けて首筋を伸ばす意識をする④足裏全体で床を踏み締める意識をする。

▲「意識が肝心」①筋力に頼らず意識に頼る②体が固く難しい人でも気負わず体調に合わせる③全身へ「意識」を巡らせて、笑顔で続けることが肝要。以下2項目は次回に掲載。(憲彦)

# 川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(5月号)

地名

市都  
道府  
姓  
雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いたします。

# 檸檬抄投句用紙

「抜く」(3月15日締切)

5月号発表

永見 心咲 選 —— 共選 —— 江島谷勝弘 選

B

A

地名

市都  
県道  
府  
姓雅号

切らないで下さい

B

A

地名

市都  
県道  
府  
姓雅号

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい



# 川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者
	〒 —	— —	— —

○ ○

年 年

月 月  
から から  
一年 半年

5 5  
0 0  
0 0  
円 円

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社（電話 06-6779-3490）

振替 0098044298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい



## 作品募集

5月号発表 (3月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭 幸選  
水煙抄 (8句) 木本朱 夏選  
愛染帖 (2句) 新家完 司選  
檸檬抄「抜く」 江島谷勝 弘共選  
インスピレーション・ナビ (2句) 永見心 咲選  
一路集 (2句) 大西泰 世選  
「振る」 高杉力 選  
「雨」 関本 かつ子 選  
初歩教室「雨」 平井美智子 担当  
初歩教室「雨」は6月号発表

6月号  
檸檬抄「しつこい」  
一路集「あきらめる」「そろそろ」  
初歩教室「本」

## 本社3月句会

と き 3月7日(火) 13時開場・13時40分締切  
と ころ アウィーナ大阪 3階 葛城の間  
おはなし「薫風さんさん」 電06・6772・1441  
天正寺区石ヶ辻町19-12  
兼 席 題 高杉原道夫氏  
「学 ぶ」 石田ひろ子 選  
「か け ら」 山下じゅん子 選  
「ノイ(ノ)」 吉村久仁雄 選  
「好 意」 江畑哲男 選  
「自由 吟」 小島蘭 幸選  
会 費 1000円  
投 句 料 1000円(切手不可)  
(各題2句以内)

本社4月句会  
10日(月) 午後1時から  
兼題「片 方」「あきれる」「とろり」  
「簡 単」「自由吟」

## 本社句会欠席投句のお薦め

- \*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- \*投句料1000円(切手不可)。
- \*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052  
大阪市天王寺区大津道一丁目一四一七  
印刷所 美研アート  
編集人 小島和幸  
発行人 小島和幸  
定 価 八百円(送料100円)  
半 年 分 五千円(送料共)  
一 年 分 九千八百円(同)  
二〇一三年(令和五年)三月一日発行  
振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番  
電話 (〇六) 七九一三四九〇番  
川柳塔社

## 川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。

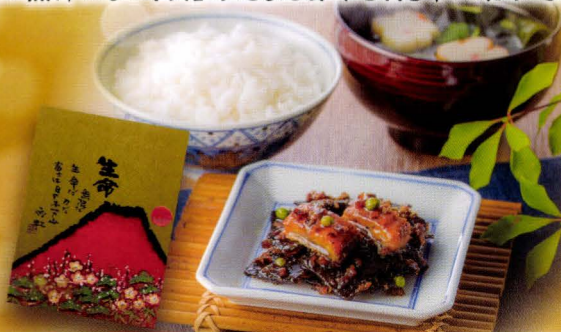


## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
TEL (06) 4800-3018  
FAX (06) 4800-3028  
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
ホームページ https://www.bikenart.com

# 箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ  
職人の技術で、超とろ火の火加減により、  
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし  
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

## 医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科  
緩和ケア（ホスピス）  
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>